

山口大学埋蔵文化財資料館年報
—令和元年度—

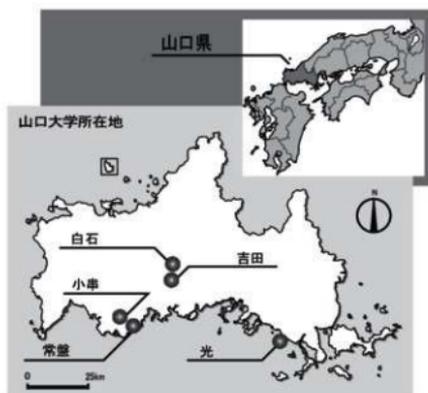
2023

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

令和元年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告

令和元年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報



2023

山口大学埋蔵文化財資料館

序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光構内に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の保護活動を主要業務としています。発掘調査にて得られた諸成果については、学術的な調査報告書(埋蔵文化財資料館年報)を刊行するだけでなく、実物資料展示や広報誌などを通じて、広く地域社会に公開しています。大学教育においても、当館の展示見学が複数の授業で採用されており、また当館専任教員が学芸員資格課程の授業を担当するなど一定の役割を担っています。また、近年は県内博物館との連携事業にも取り組んでおり、その活動の場を広げています。

令和元(2019)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、予備発掘調査2件、立会調査件10件を、吉田構内と白石構内にて実施しました。このうち、吉田構内北西端部、旧排水処理センター敷地にて実施した学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査では、弥生時代の小河川を検出しました。旧排水処理センター諸施設は、発掘調査を経ず建設されていたことから、地下の様相は長らく不明確となっており、遺構の分布を確認できたことは貴重な成果となりました。白石構内においても、多数の遺構を確認するなど、重要な成果を得ることができました。

その他の取り組みでは、山口県立山口博物館との連携協力協定のもと、宇部市東岐波にて遺跡を探訪する市民講座「古代ウォーク」を開催したほか、山口県立山口博物館にてテーマ展「弥生時代と米作り―食生活の革命!」を開催しました。当館での展示活動としては、前年度に吉田構内から初期須恵器が出土したことを受け、企画展「古墳時代の技術革新～山口県の初期須恵器～」を開催したほか、山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展への参加として「ここから始まる～山口大学発掘調査速報展～」を開催しました。

年度末に開催予定であった山口大学学術資産継承事業成果展「第8回 宝山の一角」は、新型コロナウイルス第1波の影響で急きょ中止となりましたが、例年どおりおよそ2千名の展示見学者を迎え入れることができました。

本書には、令和元年度に当館が実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、人的な埋蔵文化財保護体制の維持をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど、多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく、地域に開かれた学術研究・教育の場として活用していただけるよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

Loehr Marc

例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が令和元年度に実施した社会教育等の活動報告と、同年度に資料館が実施した山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦（資料館助教）・横山成己（資料館助教）・水久保祥子（資料館技術職員）が担当した。また、現地での本発掘調査および予備発掘調査に際しては、有限会社久富工務店に協力を依頼した。
3. 発掘調査における現地での実測と写真撮影は田畑・横山・水久保が行った。出土遺物に関しては、整理を田畑・横山・水久保・乃美友香（事務局学術基盤部学術基盤推進課技術補佐員）が行い、実測・写真撮影を田畑・横山・水久保が行った。製図・整図は田畑・横山・水久保が行った。
4. 文化財保護法に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係（当時）が統括した。
5. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
6. 本文の執筆分担は目次に記した。
7. 本書の編集は館員の補助を得て横山が行った。

凡例

1. 山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれも文化財保護法(法律第214号)で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡 白石構内～白石遺跡 小串構内～山口大学医学部構内遺跡
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡 光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点(構内座標 $x=0$, $y=0$)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206, 000$$

$$y = Y + 64, 750$$

3. 令和元年度に実施した本発掘、予備発掘に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査……………SI2019-1
教育学部附属山口小学校校舎改修工事に伴う立会調査……………SI2019KS
学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査……………YD2019-1
基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う予備発掘調査……………YD2019-2
ライフライン再生(電気設備)工事・ライフライン再生(給水設備)工事に伴う立会調査…YD2019LL
東アジア研究科・経済学部研究科棟渡り廊下屋根取設工事に伴う立会調査……………YD2019HK

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

竪穴住居……SB 掘立柱建物……SH 土壇……SK
溝……SD 柱穴・ピット……Pit・SP 落ち込み……SX

5. 本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6. 標高数値は海拔標高を示す。

7. 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。

8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

本文目次

第1章	令和元年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告……………(横山)……………	1
第1節	資料館における展示・情報公開活動	
1	第41回企画展『古墳時代の技術革新～山口県の初期須恵器～』……………(水久保)……………	2
2	山口県大学ML連携特別展『ここから始まる～山口大学発掘調査速報展～』…(横山)……………	3
3	令和元年度刊行物……………(横山)……………	4
第2節	資料館における社会教育活動	
1	古代ウォーク関連展示『東岐波の出土品』……………(横山)……………	5
2	山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク』……………(横山)……………	6
3	山口県立山口博物館との共催事業『テーマ展 弥生時代と米作りー食生活の革命!』 ……………(横山)……………	8
第2章	令和元年度山口大学構内遺跡の調査	
第1節	令和元年度に実施した遺跡調査の概要……………(横山)……………	9
第2節	吉田構内(吉田遺跡)の調査	
1	学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査……………(横山)……………	13
2	基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う予備発掘調査……………(横山)……………	19
3	基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う立会調査……………(横山)……………	25
4	基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査……………(横山)……………	27
5	生活排水処理施設解体に伴う排水管支障迂回工事に伴う立会調査……………(横山)……………	28
6	東門フェンス改修工事に伴う立会調査……………(横山)……………	29
7	総合研究棟(経済学系)改修工事に伴う立会調査……………(横山)……………	30
8	ライフライン再生(電気設備)工事・ライフライン再生(給水設備)工事に伴う立会調査 ……………(田畑)……………	31
9	東アジア研究科・経済学部研究科棟渡り廊下屋根取設工事に伴う立会調査…(田畑)……………	34
第3節	白石構内(白石遺跡)の調査	
1	教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査…(水久保)……………	35
2	教育学部附属山口小学校改修工事に伴う立会調査……………(水久保)……………	40
3	教育学部附属山口小学校改修工事に伴う仮設校舎設置工事に伴う立会調査…(横山)……………	71
4	教育学部附属山口小学校基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査 ……………(横山)……………	72
付節1	令和元年度 山口大学構内遺跡調査要項……………	73
付節2	山口大学構内の主な調査……………	76
付篇1	山口市大内御塚の採取遺物……………(横山)……………	102
付篇2	吉田遺跡古代理没谷出土の木製品(Ⅰ)……………(横山)……………	119
付篇3	平成18年度吉田遺跡出土木製品の樹種同定……………(吉田生物研究所)……………	139

挿図目次

第2章第1節 令和元年度に実施した遺跡調査の概要	
図1 山口大学吉田・白石構内位置図	10
図2 小串・常盤構内位置図	12
図3 光構内位置図	12
第2章第2節 平成29年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	
図4 調査区位置図	13
図5 調査区平面図・断面図	15
図6 出土土器実測図	18
図7 調査区位置図	19
図8 調査区配置図	21
図9 調査区断面図	22
図10 出土土器実測図	24
図11 調査区位置図	25
図12 A地点土層断面柱状図	25
図13 B地点土層断面柱状図	26
図14 調査区位置図	27
図15 調査区西南部土層断面柱状図	27
図16 調査区位置図	28
図17 土層断面柱状図	28
図18 調査区位置図	29
図19 A地点土層断面柱状図	29
図20 調査区位置図	30
図21 土層断面柱状図	30
図22 調査区位置図	31
図23 出土遺物実測図	32
図24 調査区位置図	34
第2章第3節 令和元年度白石構内（白石遺跡）の調査	
図25 調査区位置図	35
図26 工事掘削範囲と設定調査区	36
図27 調査区平面図・断面図	37
図28 NR1平面図・断面図	38
図29 調査区周辺の河川跡検出状況	38
図30 調査区位置図	41
図31 A区平面図・断面図	43
図32 B区平面図・断面図	44
図33 C・D区土層断面柱状図	45
図34 D・E区土層断面柱状図	46
図35 F・G・H区土層断面柱状図	47
図36 H区土層断面柱状図	49
図37 I-2区平面図・断面図	49
図38 J区土層断面柱状図	50
図39 J区土層断面柱状図	51
図40 K区土層断面柱状図	52
図41 L区土層断面柱状図	53
図42 L-1区南半平面図・断面図	54
図43 M-1区第1面平面図	56
図44 M-1区南半東壁土層断面柱状図	56
図45 M-2区第1面平面図・断面図	57
図46 M-2区第2面平面図	59
図47 N・O区土層断面柱状図	60
図48 P区平面図	61
図49 P区土層断面柱状図	61
図50 Q区西端部平面図・断面図	62
図51 R区土層断面柱状図	62
図52 S区平面図・土層断面柱状図	63
図53 T区平面図・土層断面柱状図	63
図54 U区土層断面柱状図	64
図55 U・V区土層断面柱状図	65
図56 出土土器実測図	68
図57 出土土器実測図	68
図58 遺構配置図	70
図59 調査区位置図	71
図60 C区土層断面柱状図	71
図61 調査区位置図	72
図62 土層断面柱状図	72
第2章付録2 山口大学構内の主な調査	
図63 山口大学吉田構内地区割および 主な調査区位置図	95・96
図64 山口大学白石構内（幼稚園・小学校） 調査区位置図	97
図65 山口大学白石構内（中学校） 調査区位置図	98
図66 山口大学小串構内調査区位置図	99
図67 山口大学常盤構内調査区位置図	100

図68 山口大学光構内調査区位置図	101
付篇1 山口市大内御堀の採取遺物	
図69 山口市大内御堀・水上の遺跡分布状況	102
図70 遺物(土器)実測図①	105
図71 遺物(土器)実測図②	107
図72 山口県内出土土持壺実測図	111
図73 妙見社古墳群の位置	113
図74 樺野川水系の須恵器器台	115
付篇2 吉田遺跡古代埋没谷出土の木製品(1)	
図75 周辺調査区的位置と出土遺物	121・122

図76 平成18年度調査区平面図・断面図	123
図77 遺構出土木製品実測図	125
図78 谷埋土出土木製品実測図	126
図79 遺物包含層L6出土木製品実測図①	127
図80 遺物包含層L6出土木製品実測図②	128
図81 遺物包含層L6出土木製品実測図③	129
図82 遺物包含層L6出土木製品実測図④	130
図83 遺物包含層L6出土木製品実測図⑤	131
図84 花粉分析資料採取層準	137
図85 花粉ダイアグラム	137

写真目次

第1章第1節 令和元年度資料館における展示・情報公開活動	
写真1 企画展ポスター	2
写真2 展示の様様	2
写真3 特別展ポスター	3
写真4 展示の様様	3
写真5 令和元年度埋蔵文化財資料館刊行物	4
第1章第2節 令和元年度資料館における社会教育活動	
写真6 展示看板	5
写真7 展示の様様	5
写真8 宇部市東岐波ふれあいセンターでの 資料熟覧	7
写真9 花ヶ池窯跡解説	7
写真10 羽雁ヶ浜遺跡解説	7
写真11 若宮古墳群解説	7
写真12 月崎岬古墳群へ	7
写真13 月崎遺跡解説	7
写真14 展示の様様	8
写真15 展示会場でのビデオ上映	8
第2章第1節 令和元年度に実施した遺跡調査の概要	
写真16 吉田構内航空写真	10
写真17 白石構内(教育学部附属山口幼稚園・小学校) 航空写真	10
写真18 白石構内(教育学部附属山口中学校) 航空写真	10
写真19 小串構内航空写真	12

写真20 常盤構内航空写真	12
写真21 光構内航空写真	12
第2章第2節 令和元年度吉田構内(吉田遺跡)の調査	
写真22 調査地近景(廃棄物倉庫撤去前)	13
写真23 調査地遠景(廃棄物倉庫撤去前)	13
写真24 作業風景	17
写真25 床土層暗渠検出状況	17
写真26 遺構面河川跡検出状況	17
写真27 河川跡完掘状況	17
写真28 河底部土器出土状況	17
写真29 調査区北東壁土層断面	17
写真30 調査区南西壁土層断面	17
写真31 基本層序第7層縄文土器出土状況	17
写真32 出土遺物(土器)	18
写真33 調査地遠景	19
写真34 調査地近景	19
写真35 第1トレンチ作業風景	23
写真36 第1トレンチ半截状況	23
写真37 第1トレンチ北壁土層断面	23
写真38 第2トレンチ半截状況	23
写真39 第2トレンチ北壁土層断面	23
写真40 第2トレンチ西壁土層断面	23
写真41 第3トレンチ完掘状況	23
写真42 第3トレンチ東半区北壁土層断面	23
写真43 出土遺物(土器)	24

写真44 A地点土層断面	25	写真82 S P 1 断面	44
写真45 B地点調査風景	26	写真83 C-1区東壁土層断面	45
写真46 B地点北壁東側土層断面	26	写真84 C-2区a地点東壁土層断面	45
写真47 B地点南壁上段土層断面	26	写真85 C-2区b地点西壁土層断面	45
写真48 B地点南壁下段土層断面	26	写真86 D-1区東壁土層断面	45
写真49 調査区南西部地山検出状況	27	写真87 D-2区南壁土層断面	46
写真50 調査区中～北東部河川跡検出状況	27	写真88 D-3区南壁土層断面	46
写真51 掘削直後の状況	28	写真89 E区a地点東壁土層断面	46
写真52 南東壁土層断面	28	写真90 E区b地点南壁土層断面	46
写真53 A地点土層断面	29	写真91 F区西壁土層断面	47
写真54 土層断面	30	写真92 G-1区西壁土層断面	47
写真55 1地点土層断面	31	写真93 G-2区東壁土層断面	47
写真56 3地点土層断面	31	写真94 H-1区西壁土層断面	47
写真57 6地点土層断面	32	写真95 H-2区北壁土層断面	49
写真58 12地点1土層断面	32	写真96 I-1区南壁土層断面	49
写真59 12地点2土層断面	32	写真97 I-2区西壁土層断面	49
写真60 14地点土層断面	32	写真98 I-2区遺構検出状況	49
写真61 16地点土層断面	32	写真99 J-1区南壁土層断面	50
写真62 17地点土層断面	32	写真100 J-2区北壁土層断面	50
写真63 出土遺物写真	32	写真101 J-3区北壁土層断面	50
写真64 調査区全景	34	写真102 J-4区北壁土層断面	50
写真65 10地点土層断面	34	写真103 J-5区北壁土層断面	51
第2章第3節 令和元年度白石横内(白石遺跡)の調査			
写真66 調査前の状況	39	写真104 J-6区北壁土層断面	51
写真67 遺構検出状況	39	写真105 J-7区北壁土層断面	51
写真68 遺構完掘状況	39	写真106 K-1区北壁土層断面	52
写真69 調査区北壁①土層断面	39	写真107 K-2区北壁土層断面	52
写真70 調査区北壁②土層断面	39	写真108 K-3区北壁土層断面	52
写真71 調査区東壁土層断面	39	写真109 K-4区北壁土層断面	52
写真72 NR1土層断面	39	写真110 L-1区全景	53
写真73 下層確認状況	39	写真111 L-1区北半包含層検出状況	53
写真74 A区河川跡完掘状況	43	写真112 L-1区北半東壁土層断面	53
写真75 A区南壁①土層断面	43	写真113 L-2区北壁土層断面	53
写真76 A区西壁土層断面	43	写真114 L-3区北東壁土層断面	53
写真77 A区南壁②土層断面	43	写真115 L-1区南半遺構検出状況	54
写真78 B区東端部遺構検出状況	44	写真116 L-1区南半東壁土層断面	54
写真79 B区東端部遺構完掘状況	44	写真117 S D 1 土器出土状況	54
写真80 B区中央部遺構検出状況	44	写真118 S P 1 完掘状況	54
写真81 B区北壁①土層断面	44	写真119 M-1区南半東壁土層断面	56
		写真120 M-1区第1面遺構完掘状況	56

写真121	M-1区第2面遺構検出状況	56
写真122	M-1区第2面遺構検出状況	56
写真123	M-2区第1面遺構検出状況	58
写真124	M-2区第1面遺構検出状況	58
写真125	M-2区第1面遺構検出状況	58
写真126	M-2区西壁①土層断面	58
写真127	M-2区北壁土層断面	58
写真128	M-2区北壁土層断面	58
写真129	M-2区東壁土層断面	58
写真130	M-2区西壁②土層断面	58
写真131	M-2区第2面遺構検出状況	59
写真132	M-2区第2面遺構検出状況	59
写真133	N区a地点北壁土層断面	60
写真134	N区b地点北壁土層断面	60
写真135	O区北西壁土層断面	60
写真136	P-1区南壁土層断面	61
写真137	P-2区北壁土層断面	61
写真138	P-3区南壁土層断面	61
写真139	Q区西端部遺構検出状況	62
写真140	Q区西端部北壁土層断面	62
写真141	R-1区北壁土層断面	62
写真142	R-2区全景	62
写真143	S区遺構検出状況	63
写真144	T区遺構検出状況	63
写真145	T区北壁土層断面	63
写真146	U-1区南壁土層断面	64
写真147	U-2区南壁土層断面	64
写真148	U-3区北壁土層断面	64
写真149	U-4区南壁土層断面	64
写真150	U-5区北壁土層断面	65
写真151	U-6区西壁土層断面	65
写真152	V区東壁土層断面	65
写真153	出土遺物(土器)	69
写真154	出土遺物(石器)	69
写真155	A区掘削状況	71
写真156	C区北西壁土層断面	71
写真157	掘削地点	72
写真158	北東壁土層断面	72

付録1 山口市大内御堀の採取遺物

写真159	象頭山遠景	103
写真160	象頭山南麓近景	103
写真161	昭和22年(1947)の山口市大内地区	103
写真162	遺物写真①	107
写真163	遺物写真②	108
写真164	遺物写真③	109
写真165	遺物写真④	110
写真166	遺物写真⑤	111
写真167	妙見社古墳群1号墳現況	113
写真168	妙見社古墳群2号墳現況	113
写真169	象頭山箱式石棺	114
写真170	象頭山箱式石棺	114
写真171	象頭山横穴式石室	114
付録3	平成18年度吉田遺跡古代埋没谷出土の樹種測定	
写真172	木製品顕微鏡写真①	142
写真173	木製品顕微鏡写真②	143
写真174	木製品顕微鏡写真③	144
写真175	木製品顕微鏡写真④	145
写真176	木製品顕微鏡写真⑤	146
写真177	木製品顕微鏡写真⑥	147
写真178	木製品顕微鏡写真⑦	148
写真179	木製品顕微鏡写真⑧	149
写真180	木製品顕微鏡写真⑨	150
写真181	木製品顕微鏡写真⑩	151
写真182	木製品顕微鏡写真⑪	152
写真183	木製品顕微鏡写真⑫	153
写真184	木製品顕微鏡写真⑬	154
写真185	木製品顕微鏡写真⑭	155
写真186	木製品顕微鏡写真⑮	156
写真187	木製品顕微鏡写真⑯	157
写真188	木製品顕微鏡写真⑰	158
写真189	木製品顕微鏡写真⑱	159
写真190	木製品顕微鏡写真⑲	160
写真191	木製品顕微鏡写真⑳	161
写真192	木製品顕微鏡写真㉑	162

表目次

第1章第1節 令和元年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	第2章付第2 山口大学構内の主な調査
表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移 ……1	表9 山口大学構内の主な調査一覧表 ……76
表2 令和元年度月別入館者数 ……1	付第1 山口市大内御座の採取遺物
第2章第1節 令和元年度に実施した遺跡調査の概要	表10 遺物（土器）観察表 ……118
表3 令和元年度山口大学構内遺跡調査一覧 ……9	付第2 吉田遺跡古代理塚谷出土の木製品（I）
第2章第2節 令和元年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	表11 遺構出土木製品観察表 ……132
表4 出土遺物（土器）観察表 ……18	表12 谷埋土出土木製品観察表 ……132
表5 出土遺物（土器）観察表 ……24	表13 遺物包含層L6出土木製品観察表 ……132
表6 出土遺物（土製品）観察表 ……33	表14 遺構出土木製品の樹種 ……134
第2章第3節 令和元年度白石構内（白石遺跡）の調査	表15 谷埋土出土木製品の樹種 ……134
表7 出土遺物（土器）観察表 ……69	表16 遺物包含層L6出土木製品の樹種 ……135
表8 出土遺物（石器）観察表 ……69	

第1章 令和元年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示と公開、また埋蔵文化財や考古学にかかわる社会教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回程度の資料展示を行うこと、刊行物やホームページなど各種メディアを通じて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、社会教育活動としては、講座やワークショップの開催、授業や講演会等への講師派遣、公立博物館との連携事業の開催など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

令和元年度は、展示活動として、第41回となる企画展のほか、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や教育研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に参加したが、平成24年度より継続して年度末に開催していた山口大学学術資産継承事業委員会事業成果展『宝山の一角』は、新型コロナウイルスの影響により急ぎょ中止となった。情報公開活動としては、平成27年度の年報と、広報誌『てらこや埋文』を刊行した。社会教育活動については、平成27年度に山口県立山口博物館と締結した連携協力協定に基づき、宇部市東岐波地区を対象に『講座 古代ウォーク』を開催し、関連して宇部市教育委員会が企画した資料展示『東岐波の出土品』に協力した。また、山口県立山口博物館との共催でテーマ展『弥生時代と米作り―食生活の革命!』を開催した。

当年度の総入館者数は1,964名であり、前年度に比して2%増加した(表1)。月別入館者数を見ると、例年とは異なり年度当初の4月が最多入館者数となっており、授業課題等で活用された6月、オープンキャンパスが開催された8月、ホームカミングデーが開催された10月も増加傾向を見させている(表2)。

次頁より、当該年度に実施した展示・情報公開活動と社会教育活動の詳細を報告する。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
入館者数	305	287	191	200	208	119	208	372	313	269	408	1,212	1,200	775	1,430	1,519	1,132	1,612	1,761	1,751	1,991	2,071	1,812	1,859	1,964

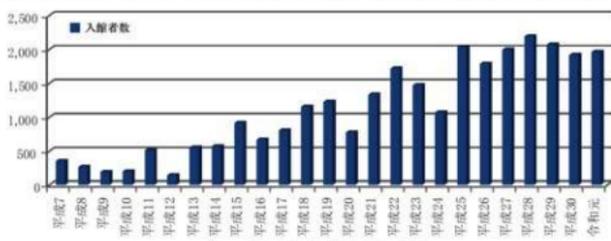
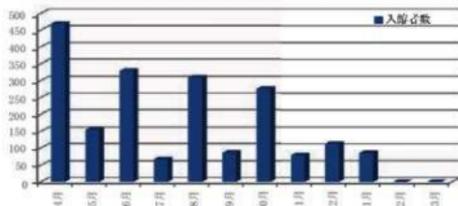


表2 令和元年度月別入館者数

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	468	154	329	67	309	86	275	78	113	85	休館	休館



第1節 資料館における展示・情報公開活動

1. 第41回企画展『古墳時代の技術革新～山口県の初期須恵器～』

平成29年度に吉田構内(吉田遺跡)で行われた発掘調査で古墳時代中期ごろの竪穴式住居跡を4棟検出し、そのうちの1棟から「初期須恵器」と呼ばれる出現初期の須恵器の高坏と甕が出土した。山口県内では初期須恵器の出土例は限られており、希少性の高い遺物の一つといえる。その成果を受けて、山口県内での初期須恵器の出土例を集めてその様相を概観する展示を企画した。

展示は須恵器がもたらした土器製作技術の画期性に着目して、須恵器出現前後で分けた視点をとった。前半は、縄文土器からはじまった、須恵器出現前までの土器の種類とその製作技術について解説した。後半は、須恵器製作によって新たに採用された技術や、それまでの土器との違いについて解説し、山口県内で出土した初期須恵器の事例について紹介した。

初期須恵器の展示品については、山口県内で出土が確認されている18箇所の遺跡から、ある程度の大きさが残っているものや復元されているものを抽出した。(財)山口県埋蔵文化財センターから朝田墳墓群・下右田遺跡・御屋敷山遺跡・逗子南遺跡・平井遺跡・用田3号墳、山口市教育委員会から西遺跡、下松市教育委員会から常森1号墳の資料を借用して、吉田構内で出土した初期須恵器とともに展示した。各機関のご協力に改めて感謝したい。

展示期間は令和元年8月5日(月)～10月26日(土)で、吉田地区のオープンキャンパス開催日である8月10日(土)は臨時閉館し、展示のクローズはホームカミングデー開催日に合わせ、会期中670名の方々に観覧いただいた。

【註】

- 1) 横山成己(2022)「福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成29・30年度－』, 山口
- 2) 企画展開催時の確認数による。
- 3) 朝田墳墓群第Ⅰ地区第2号円形周溝墓、同第Ⅲ地区第10号墳、同第Ⅱ地区第13号墳



写真1 企画展ポスター



写真2 展示の様様

2. 山口県大学ML連携特別展『ここから始まる～山口大学発掘調査速報展～』

山口県内の大学博物館および図書館が、共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または教育研究成果の展示を開催するという体制での7年目を迎えた山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展の令和元年度共通テーマは、令和への改元が意識されたためか「はじまる・はじめる」に決定された。

当館が実施する遺跡調査は、行政機関のそれに比して頻度が低いことから、数年に一度の間隔で構内遺跡の発掘調査速報展を開催しており、平成26年度の山口県大学ML連携特別展での開催が直近のものであったことから、平成26年度から30年度までの構内遺跡発掘調査速報展を企画した。

展示の対象とした調査はいずれも吉田遺跡にて実施したもので、①平成26年度から平成27年度にかけての動物医療センターリニアック棟(現名称:動物医療センター1号棟リニアック室および動物医療センター2号棟)新営に伴う発掘・立会調査、②平成28年度の共同獣医学部総合病理鑑定研究施設(現名称:総合病性鑑定研究施設)新営に伴う発掘調査、③平成29年度から30年度にかけての新福利厚生施設(現名称:山口大学生生活協同組合FAVO)新営に伴う発掘である。①②は吉田遺跡において古代官衙関連遺構が分布する構内南東部にて実施した調査であり、古代の遺物を多量に包含する埋没谷が検出されている。展示では、埋没谷から出土した須恵器を主とする多量の土器とともに、円面碇、墨書土器、「千字文」音義木簡レプリカなどの文字に関連する資料を公開した。③は構内中央部に位置する「中央広場」にて実施した調査で、古墳時代中期の竪穴式住居跡4棟をはじめ、縄文時代から弥生時代にかけての遺物を包含する自然河川などが確認されている。当調査の出土資料は整理作業中であったが、初期須恵器をはじめとする各壜穴式住居跡出土遺物を公開した。

山口大学吉田キャンパス大学祭(姫山祭)開催の令和元年11月10日(日)にオープンし、令和2年1月31日(金)までの会期中、276名の方々にご足を運んでいただいた。観覧者へのアンケート調査では「あまり見ることのできないものを見ることができた」「FAVOの建設で発掘調査が行われたことに興味があったため、その詳細について知ることができて良かった」などの声のほか、「FAVOの見学を楽しみに来たが、発掘調査のことを知り、複雑な心境になった。何を残すのか?何をつくるのか?など難しい選択だと思った」という意見も寄せられた。



写真3 特別展ポスター

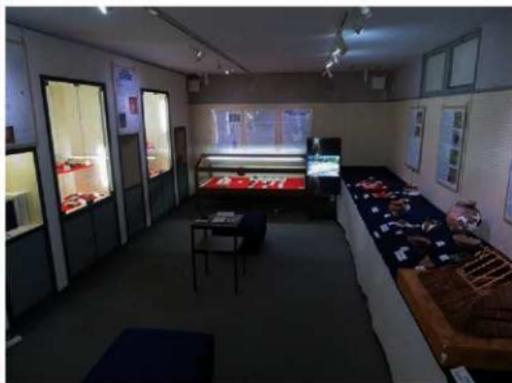


写真4 展示の様様

3. 令和元年度刊行物

1. 『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成27年度—』

令和元年度は、平成27年度に実施した資料館活動報告と構内遺跡発掘調査概報を所収した年報を刊行した。

活動報告としては、展示・情報公開活動として山口県立山口博物館との連携協力協定を締結して開催した企画展示と講座のほか、2件の展示活動と5件の当該年度刊行物を掲載した。社会教育活動としては、一般を対象として開催した公開授業1件を掲載した。

発掘調査に関しては、本発掘調査1件(吉田)、予備発掘調査1件(小串)、立会調査17件(吉田15・白石2)の成果が掲載されている。本発掘調査1件は、本学に新設された国際総合科学部の校舎改修に伴うもので、分布は希薄であるが弥生時代とみられる遺構を複数検出したことから、学内協議により工事の設計変更が行われ、遺構は現状保存された。

そのほか、横山による「館蔵品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—」と題する付篇を所収している。

2. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第30号『てらこや埋文』

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊で刊行していたが、平成23年度以降は年度末1回の刊行となっている。巻頭頁は山口県立山口博物館との共済事業「古代ウォーク」の実施報告を、2頁には発掘調査成果速報を、3頁には展示活動を掲載した。4-5頁は平成28年度より山口県が「サイクル県」を称し始めたことを受け、山口大学吉田キャンパスから秋徳半島に所在する兜山古墳、美濃ヶ浜遺跡に至るサイクリングコースを示し、6頁に両遺跡の紹介記事を掲載した。7頁には「資料館この一品」として、小野忠熙氏により採取された多々良廃寺(防府市)の軒丸瓦を紹介している。

当館の刊行している年報と広報誌はそれぞれ山口大学学術機関リポジトリ「YUNOCA」(<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>)と山口県地域学リポジトリ「YOOKE」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ja>)に所収されており、当館Web「刊行物」からも閲覧可能となっている。



写真5 令和元年度埋蔵文化財資料館刊行物

第2節 資料館における社会教育活動

1. 古代ウォーク関連展示『東岐波の出土品』

令和元年度の山口県立山口博物館(以降「山口博物館」)との共催事業『講座 古代ウォーク』は、宇部市教育委員会の共催により、宇部市東岐波地区にて開催することとなったが、宇部市教育委員会の発案で、会場となる東岐波ふれあいセンターロビーにて『東岐波の出土品』と題し、令和元年10月4日(金)から24日(木)の会期で資料展示が計画されたことから、当館が資料の選定を行い、解説パネルを作成することとなった。

展示では、古代ウォークで実際に訪れる東岐波地区の瀬戸内海沿岸部の遺跡を対象とし、縄文時代の資料として月崎遺跡(縄文時代前～晩期の集落遺跡、遺物包含層)出土の縄文土器と石器を、古墳時代の資料として花ヶ池窯跡(古墳時代後期の須恵器窯)および若宮古墳群(古墳時代後期の5基からなる横穴式石室墳)、月崎岬古墳群(古墳時代後期の3基からなる横穴式石室墳)出土の須恵器類を、古墳時代から古代にかけての資料として羽雁ヶ浜遺跡(古墳時代中期～飛鳥時代の製塩遺跡)出土の美濃ヶ浜式土器を紹介した。また、宇部市教育委員会が用意した羽雁ヶ浜遺跡出土品には、最古式(渡辺V類)の製塩土器脚部が欠落していたことから、補足資料として当館所蔵の美濃ヶ浜遺跡出土品を展示し、脚部の形態変遷を提示した。

今回展示した宇部市所蔵の資料は、宇部市中西部の船木地区に所在する「学びの森くすのき」にて収蔵、展示が行われているが、宇部市東部に位置する東岐波地区とはおよそ15kmの隔りがあることから、東岐波地区住民が地域の遺跡出土品を目にする機会は少ないと想像される。当展示のように、古代ウォークが契機となり、地域における遺跡情報の公開が活発になれば、当館および山口博物館としても望外の喜びである。

【註】

- 1) 渡辺一雄(1994)「山口県」, 近藤義郎(編)『日本土器製塩研究』, 青木書店, 東京



写真6 展示看板



写真7 展示の様様

2. 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク』

当館は、平成27年(2016)6月24日に山口博物館と連携協力協定を締結した。以降、毎年継続して実施している事業が『講座 古代ウォーク』である。これは、山口県内を県東部、東部、北部、西部の4ブロックに分け、順次見学地域を設定し、出土資料を確認し、実際に遺跡地をめぐるという内容である。実施の際に重要視している点は、当該自治体と連携しながら、未公開の資料も含め、出土資料を確認すること、周辺地形と遺跡の立地を確認するため、できる限り遺跡地まで歩いて行くことなどである。

令和元年度は県西部を対象とすることが決定しており、山口博物館との協議により、小地域として前頁の通り宇部市東岐波を選定し、宇部市教育委員会の共催を得て、10月12日(土)に事業を開催することとなった。東岐波は、現在では宇部市東部の一地区となっているが、西岐波とともにかつては吉敷郡の南西端部に含まれており、月崎岬から丸尾岬にかけての湾岸には広大な干潟が形成され、その沿岸部に特徴ある遺跡が分布している。

開催にあたり、1月22日(火)にコース詳細設定のため、現地視察と学びの森くすのきにて出土資料の確認を行い、8月7日(水)に東岐波ふれあいセンターにて開催される展示(前項)の資料を選定した。10月3日(木)に行った展示設営の際にコースを最終確認し、開催日を迎えることとなった。

当日は台風の接近により生憎の曇天であったが、14名の参加者を迎え講座を開催した。当日のスケジュールは以下の通りである。

12時30分～13時00分 受付

13時00分～13時30分 東岐波ふれあいセンターにて出土資料の解説と熟覧(写真8)

13時35分 花ヶ池竪跡見学と解説(写真9)

14時00分 羽雁ヶ浜遺跡(東岐波体育広場)見学と解説(写真10)

14時30分 若宮古墳群見学と解説(写真11)

15時10分 月崎岬古墳群見学と解説

15時25分 月崎遺跡見学と解説(写真13)

16時15分 東岐波ふれあいセンターに戻りアンケート記入、解散

往復約5kmの行程であり、月崎岬古墳群へは道路が整備されていないことから砂浜を歩く(写真12)場面もあったが、遺跡の立地を確認しながら参加者全員が無事に歩き終えることができた。参加者からは「とても興味のあるテーマで、説明も詳しく楽しいウォークでした」「専門職の方から話を聞けるのは楽しいです。月崎遺跡にはこのような機会がないと行けなかったと思います」「身近なところに遺跡がたくさんあってびっくりしました。昔のことを色々想像してみるのには楽しいなと思いました」などの声寄せられた。

東岐波地区では、古く昭和29年(1954)に設立した東岐波郷土誌研究会が現在でも活動を継続しているが、発足はその前年に実施された大須賀遺跡の発掘調査を契機とするそうである。その後、昭和36年(1961)から3年間、小野忠熙氏を中心となり宇部市城学術調査団が組織され、東岐波では月崎遺跡、羽雁ヶ浜遺跡、若宮古墳群の発掘調査が実施されている。今回訪れた遺跡には、事業として「文化財の保護顕彰」を掲げている郷土誌研究会により記念石柱が建立されており(若宮古墳群:平成21年3月、月崎岬古墳群:平成16年3月、月崎遺跡:平成13年3月)、県内でも文化財に関する市民活動が盛んな地域の一つと言って良い。その一方で、地域住民が十分に遺跡をはじめとする文化財を認識している訳ではないことから、当事業の果たす役割は大きいと感じられた。

【註】

1)小野忠熙ほか(1968)『宇部の遺跡』、『宇部の遺跡』編集委員会(編)、宇部



写真8 宇部市東岐波ふれあいセンターでの資料熟覧



写真9 花ヶ池遺跡解説



写真10 羽雁ヶ浜遺跡解説



写真11 若宮古墳群解説



写真12 月崎岬古墳群へ

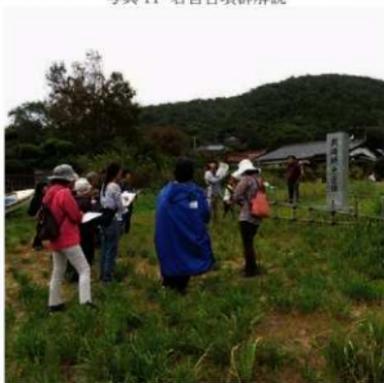


写真13 月崎遺跡解説

3. 山口県立山口博物館との共催事業『テーマ展 弥生時代と米作り～食生活の革命！』

平成30年度後半に、山口博物館考古学担当学芸員より、次年度の山口博物館テーマ展にて弥生時代の米作りに関する展示を開催する予定であり、当館には連携協力協定に基づき協力して欲しい旨相談があった。しかし、その後は具体的な進展を見せず、再度山口博物館より相談があったのは令和元年8月末のことであった。

8月29日(木)当館で行った打ち合わせにおいて、山口博物館より、弥生時代の米作りに関連する展示資料リスト(案)の提示があった。前年度末段階でテーマ展の開始は11月26日(火)と決定されていたものの、当館としては10月以降、古代ウォークの開催や東岐波ふれあいセンターでの資料展示、山口県大学ML連携特別展の開催、学生会館(仮称)新営に伴う予備発掘調査の準備など多忙を極めることから、当館の実質的な展示参加は、平成18年度から27年度にかけて継続して開催していた公開授業『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう』の成果公開に限定し、それ以外では、展示品の選定と解説パネルの校正、補足パネルの作成に協力することとなった。

展示の構成は①稲作の伝播(縄文から弥生へ、大陸系磨製石器)、②弥生の米作り(山口県の遺跡に見る弥生の米作り、宮ヶ久保遺跡～弥生時代の木の道具、真尾猪の山遺跡と井上山遺跡～大陸系磨製石器の様相)、③縄文と弥生の融合(弥生貝塚)、④金属器の登場、⑤弥生時代の米作り実験(当館展示)となり、(財)山口県埋蔵文化財センターの協力により、多数の関連実物資料が公開された。

テーマ展は、予定通り令和元年11月26日(火)にオープンし、令和2年1月13日(月・祝)に終了した。当館は11月21日(木)に展示設営を、1月17日(金)に撤収作業を行った。会期中の休日のため、教育学部附属山口小学校改修工事に伴う立会調査に従事したこともあり、残念ながら開催状況を確認することはできなかったが、1,718名の方々には足を運んでいただいたと報告を受けた。

山口博物館での考古学を主題としたテーマ展の開催は、およそ10年ぶりのことで、山口県としては意義のある情報発信となったであろうが、県立施設と国立大学施設が連携協力した事業としては、準備不足の感は否めず、内容を十分に吟味した展示とはならなかったように感じられる。今回の反省を糧に、今後の連携事業については、相互のスケジュール調整をしっかりと行いたい。



写真14 展示の様相



写真15 展示会場でビデオ上映

第2章 令和元年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 令和元年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡であり、官衙遺跡としても著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物を包含する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡にまたがり立地している。

このような環境のもと、山口大学埋蔵文化財資料館は、山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財の保護・調査・研究・活用する施設として、昭和52年(1977)に竣工し、昭和53年(1978)に構内遺跡調査要綱(埋蔵文化財資料館規則など)が制定、昭和54年(1979)に教職員が配置されて以降、その重責を担い続けている。当館の令和元年度の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画を確認した後、文化財保護法の諸手続のもと、山口大学各構内が所在する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の観点から、文化財に支障が生じる可能性が考えられる場合には、本発掘・予備発掘・工事立会の3種いずれかの方法で、厳密に調査を実施している。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(公認サークル施設や職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、できる限り工事掘削時に館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する令和元年度の当館の教職員配置は、兼任の館長および副館長が1名ずつ、専任教員2名、専任技術職員1名、技術補佐員1名であった。上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工法の変更等で現状保存が可能であるかどうか

表3 令和元年度山口大学構内遺跡調査一覧

調査区分	調査名	構内地区	構内地区別	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
本発掘	教育学部附属山口小学校改修工事 (在V・渡り廊下)	白石		60	7月23日～8月9日	35
予備発掘	学生会館(仮称)新営工事	吉田	G-13	75	11月25～12月19日	13
	基幹・環境設備(ため池改修)工事	吉田	S・T-9	42	1月28日～3月4日	19
立会	基幹・環境設備(ため池改修)工事	吉田	S・T-8	2,810	1月30日 3月4日	25
	基幹・環境整備(ブロック対策)工事	吉田	H-22	23	7月1・2日	27
	生活排水処理施設解体に伴う排水管支障迂回工事	吉田	G・H-13	53	2月14日	28
	東門フェンス改修工事	吉田	V・W-17	2.25	8月26日	29
	総合研究棟(経済学系)改修工事	吉田	K-20	15.5	9月19日	30
	ライフライン 再生(電気設備)工事	吉田	B・C・D-21	169.4	12月16～18・20・23～26・28日	31
	ライフライン 再生(給水設備)工事	吉田	D・E-20			
	東アジア研究所・経済学部研究科機罩り廊下 屋根取設工事	吉田	K-21	9.7	3月17・18日	34
	教育学部附属山口小学校校舍改修工事	白石		798	9月11日～3月20日	40
	教育学部附属山口小学校基幹・環境整備 (ブロック対策)工事	白石		0.54	6月27日	72
教育学部附属山口小学校校舍改修工事 (仮設校舍)	白石		205	8月26日 10月2日	71	

か厳格な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については、地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(年報)を刊行している。

上記の体制のもと、令和元年度に当館が実施した大学構内における調査は、表4のとおり本発掘1件、予備発掘2件、立会10件の計13件であった。

吉田構内 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部:山口市吉田1677-1、教育学部附属特別支援学校:同吉田3003所在)

例年どおり、開発工事計画は吉田構内に集中しており、令和元年度の埋蔵文化財調査は予備発掘調査2件、立会調査7件を実施した。

令和元年度後期に至り、学生会館(仮称)新営工事と基幹・環境整備(ため池改修)工事が新たに立案された。学生会館(仮称)は、構内正門西側に所在する排水処理センター生活排水処理施設と廃棄物倉庫を撤去して新営される予定であったことから、地下の破壊が少ない既設廃棄物倉庫敷地にて予備発掘調査を実施し、弥生時代の河川跡1条を確認した。ため池改修工事は、吉田構内北東部に位置



写真16 吉田構内航空写真(南東から)



写真17 白石構内(教育学部附属山口幼稚園・小学校)航空写真(東から)



写真18 白石構内(教育学部附属山口中学校)航空写真(南から)



図1 山口大学吉田・白石構内位置図

する農学部附属農場敷地のため池2～4を改修するものであった。それに伴い複数の水路の設置が計画されたことから、放牧地の中央に設けられる3号水路計画地にて予備発掘調査を実施したところ、現地表下約1.5mまでが盛土であり、下位に本学移転後のものとみられる旧耕土を確認した。立会調査7件のうち、基幹環境整備(ブロック塀対策)工事、ライフライン再生(電気・給水設備)工事、東アジア研究棟・経済学部研究科棟渡り廊下屋根取設工事において、河川跡を検出した。

その他4件の工事では、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

白石構内(教育学部附属山口幼稚園:山口市白石三丁目1-2、岡山口小学校:白石三丁目1-1、岡山口中学校:白石一丁目9-1所在)

令和元年度の埋蔵文化財調査は本発掘調査1件、立会調査3件を実施した。

教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査では、調査区内が既設管等により大きく削平を受けていたが、北東から南西に走る河川を検出した。当河川は、既往の調査で幼稚園舎北東に確認されている弥生時代終末期の河川の下流部と推定されるものの、埋土からは明確な遺物は出土しなかった。

同じく山口小学校改修工事に関連し、既設埋設管の更新工事が計画された。工事は小学校敷地のほぼ全域に及んでおり、9月前半から3月後半にかけて立会調査を実施した。管路の新規掘削ルートにおいては、施工業者の協力のもと遺構検出作業を行ったところ、土壌やピット、溝などの遺構や遺物包含層が各所で検出され、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

その他2件の工事では、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

小串構内(医学部、同附属病院:宇部市南小串1丁目1-1)

令和元年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

常盤構内(工学部:宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎:同上野中町2658-3所在)

令和元年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

光構内(教育学部附属光小学校、同光中学校:光市室積8丁目4番1号)

令和元年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。



図2 小串・常盤構内位置図



写真19 小串構内航空写真（南東から）



写真20 常盤構内航空写真（南から）



写真21 光構内航空写真（北東から）



図3 光構内位置図

第2節 令和元年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区 吉田構内G-13区

調査面積 75㎡

調査期間 令和元年11月25日～12月19日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

(1) 調査の経緯(図4、写真22・23)

令和元年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和元年9月10日(火)開催)において、吉田構内正門南西側に位置する排水処理センター生活排水施設と廃棄物倉庫を解体撤去し、新たに学生会館(仮称)を建設する工事計画が財務部より提出された。

昭和53年(1978)に竣工した生活排水処理施設は、新営時に埋蔵文化財調査が行われていないが、処理水タンクや原水槽など地下2～6mにかけて構造物が多数設けられていることから、埋蔵文化財はすでに遺存しない状況が予想された。一方平成6年(1994)竣工の廃棄物倉庫は、建設時に立会調査が実施されたものの、現地地表下60cmまで盛土を確認したに止まっていたことから、廃棄物倉庫撤去後に、同地にて予備発掘調査を実施し、当該地の地下の様相を確認することが提案され、承認された。

【註】

- 1) 豆谷和之(1995)「環境整備(正門周辺)に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XⅢ』, 山口

(2) 調査の経過

解体・撤去作業が11月中旬に終了したことから、19日(火)に座標杭の設置作業を行い、21日(木)に調査区を設定した。25日(月)から27日(水)にかけて盛土の重機掘削を行い、28日(木)から29日(金)にかけて旧耕土および旧床土を掘削した。12月3日(火)より遺構検出を開始し、5日(木)に検出写真を



図4 調査区位置図



写真22 調査地近景(廃棄物倉庫撤去前)(南東から)



写真23 調査地近景(廃棄物倉庫撤去後)(南東から)

撮影した。6日(金)から遺構掘削を行い、10日(火)発掘写真を撮影、11日(水)と12日(木)の両日で測量作業を終え、同日より埋め戻しに着手した。その後雨天が続いたため埋め戻し作業は長期に及び、完了したのは19日(木)であった。

(3) 基本層序(図5、写真29～31)

調査地の現地表高は約18mとなっている。基本層序は上位から

0層 盛土(層厚約130cm)

1層 灰色(10Y4/1)細粒砂質粗粒シルト(層厚10cm)…旧耕土

2層 にぶい黄色(2.5Y6/3)極粗粒砂含む粗粒シルト(層厚5～10cm)…旧床土

3層 灰黄褐色(10YR5/2)粗粒～極粗粒砂含む粗粒シルト(層厚3～10cm)…調査区北西半部にのみ堆積

4層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒～極粗粒砂含む粗粒シルト(層厚3～10cm)…調査区北西半部にのみ堆積

5層 黄褐色(2.5Y5/3)中粒シルト(層厚15cm以上)…遺構基盤層

6層 黒褐色(10YR3/1)細粒シルト(層厚10cm)…調査区南東半部にのみ堆積

7層 浅黄色(2.5Y7/4)中粒砂質細粒シルト(層厚40cm以上)…遺構基盤層

となっている。遺構は5層および7層を切り込み形成されている。7層は堅緻に締まっているが、わずかながら縄文土器片を含んでいたことから(写真31)、調査の終盤で上位層である5層および6層の掘削を行い遺構の検出に努めたが、遺構は検出されず、層中に遺物も確認されなかった。

(4) 遺構(図5、写真25～28)

暗渠

上述のように、遺構は2層、5層および7層の上面に形成されている。5層および7層の上面は標高およそ16.5mを測る。

2層(旧床土)上面を検出面とする遺構として、調査区のほぼ中央と南東端部に、本学移転前の耕作に伴う北東-南西方向の粗朶暗渠を確認した。中央部のものは上部幅約40cm、深さ80cm以上を測る。この種の暗渠は、山地を除く構内のほぼ全域で確認されている。

河川

5層および7層上面を検出面とする遺構として、調査区北西部に東-西方向の河川跡を検出した。一部を暗渠により破壊されるが、河川幅約280cm、深さ60cmの小河川で、埋土は7層に分けられる。このうち下層(河川埋土⑤～⑦)は水流堆積を示しており、上層(河川埋土①～④)は水流が滞り淀みとなった状況を示している。河底はほぼ平坦で、調査区の北西を南西方向に流れる九田川と同様に西流していたと思われるが、西端部河底高(標高15.92cm)より東端部河底高(標高15.88cm)がわずかに低いことから、地勢に逆らい東流していた可能性も考えられる。この場合は、人為的に設けられた水路である可能性が高まるが、検出した範囲内では、護岸杭など人工的な施設は確認されなかった。

遺物の包含は極めて希薄で、土器の小破片の他は、河底から弥生時代前期の土器底部が1点出土したに過ぎない(写真28)。周辺で実施した陸上競技場体育器具庫新営に伴う発掘調査⁴¹⁾や第2体育館新営に伴う発掘調査、公共下水道設に伴う発掘調査(令和5年3月刊行予定)での事例を参考にすると、当河川も弥生時代に機能していた可能性が高いと考えられる。

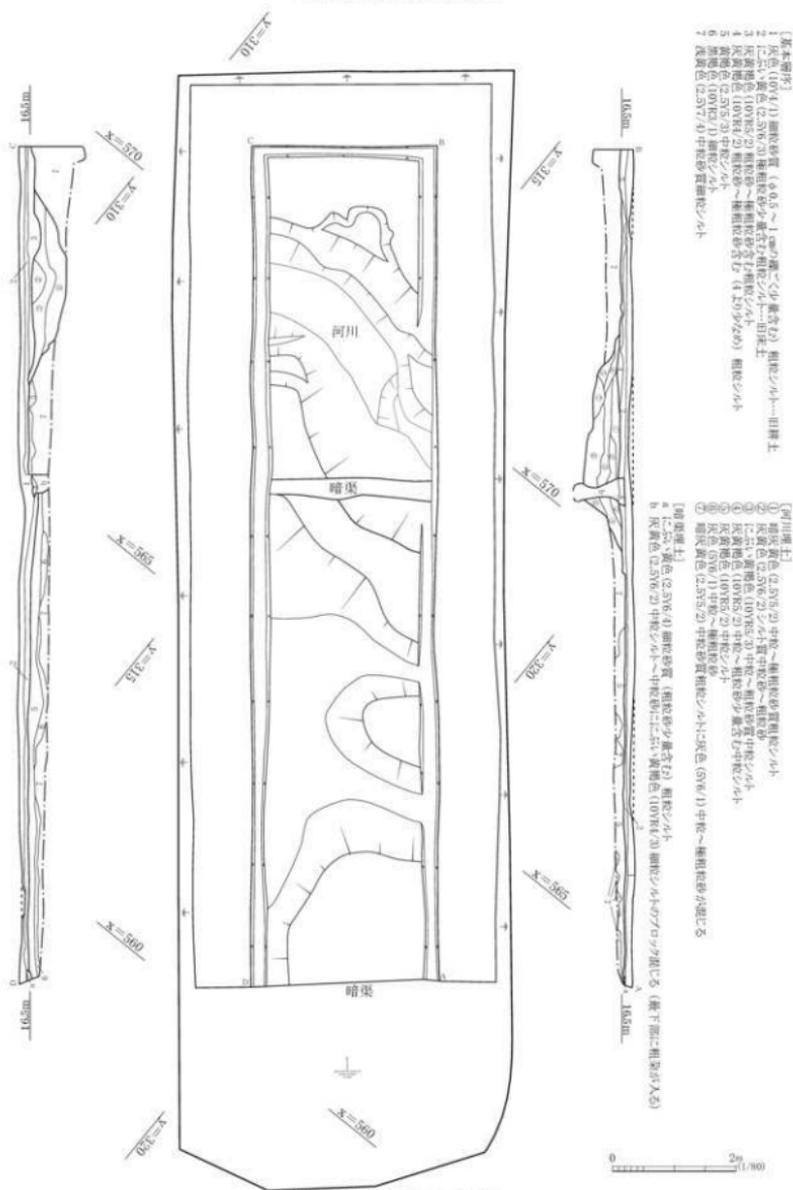


図5 調査区平面図・断面図

【註】

- 1) 横山成己(2018)「第1武道場耐震改修その他工事に伴う本発掘調査」, 山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館年報—平成25年度』, 山口
- 2) 村田裕一・中村仁美(2000)「吉田橋内第2屋内運動場新営に伴う発掘調査」, 山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館研究年報XIV』, 山口

(5) 遺物(図6、写真32、表4)

図示可能な遺物は、検出された河川の河底から出土した弥生土器1点(写真28)のみである。

1は甕底部片で、弥生時代前期とみられる。底部はやや上げ底状を呈しており、体部は緩やかに外方に開き立ち上がる。内外面ナデ調整を施しており、内面には部分的に指押さえ痕が残る。

前述したが、河川が形成されている基本層序7層(堅緻な浅黄色シルト)中には縄文土器が含まれていた。いずれも小破片で、元来器面の風化、摩滅が甚だしかったことに加え、層中から取り上げる際にさらに剥離が進行したことから、図化や採拓が不可能であり、ここでは写真のみ提示する。2~4はいずれも粗製深鉢の体部小片とみられる。原面がほぼ遺存していないが、3の外面にはわずかに横位の条痕が残る。これらの小片は一定の範囲に分布していたことから、同一個体の可能性もある。

(6) 小結

吉田橋内北西端部、正門の南西に所在する諸施設(特殊排水処理施設(昭和51年(1976)竣工)、排水管理棟(昭和53年(1978)竣工)、生活排水処理施設(昭和53年(1978)竣工)、弓道場(昭和46年(1971)竣工)、音楽サークル棟A(昭和47年(1972)竣工)、文化サークル棟A(昭和42年(1967)竣工)、第2武道場(昭和48年(1973)竣工)など)は、いずれも正式な埋蔵文化財調査を経ずに建設されており、わずかに平成22年度に計画された音楽サークル棟Bの新営時に予備発掘調査が実施され、遺物包含層の可能性のある堆積層と、河川または落ち込みを確認している³¹⁾に過ぎない。今回の調査は、弥生時代の河川(水路)跡1条の検出に止まっているが、間隙を埋める成果として貴重と言える。

上記の諸施設はいずれも老朽化しており、使命を終えたものも存在することから、近い将来に施設の更新が予想される。既設建物の地下は、大規模な破壊を受けている可能性が高いものの、当地で土地の掘削を伴う工事が立案された場合には、地下情報をできる限り獲得できるよう、埋蔵文化財保護対応を行う必要がある。

【註】

- 1) 田畑直彦(2014)「音楽サークル棟新営工事に伴う予備発掘調査・立会調査」, 山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館年報—平成22年度』, 山口



写真24 作業風景(北西から)



写真25 床土層暗渠検出状況(南東から)



写真26 遺構面河川跡検出状況(北西から)



写真27 河川跡完掘状況(北西から)



写真28 河底部土器出土状況(南から)



写真29 調査区北東壁土層断面(西から)



写真30 調査区南西壁土層断面(東から)



写真31 基本層序第7層縄文土器出土状況(南東から)

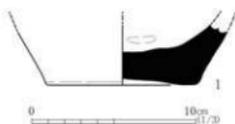


図6 河川出土土器実測図



1-1



1-2



2-1



3-1



4-1



2-2



3-2



4-2

写真 32 出土遺物(土器)

表4 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面				
1	河川跡 下層	弥生土器 甕	底部	②(9.1) ③残高3.7	①浅黄色(2.5Y7/3)~ 橙色(5YR6/6) ②灰白色(2.5YR/2)	0.5~4mm の砂礫(石英な ど)多く混ざる			
2	基本層序 7層	縄文土器 深鉢か	体部か	残存4×6 器壁 0.6	①②こぶい黄褐色 (10YR7/2)	0.2~3mm の砂礫(石英な ど)多く混ざる			
3	基本層序 7層	縄文土器 深鉢か	体部か	残存3×4.5 器壁 0.6	①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	0.2~2mm の砂礫(長石な ど)多く混ざる			
4	基本層序 7層	縄文土器 深鉢か	体部か	残存2.8×5 器壁 0.7	①②こぶい黄褐色 (10YR7/2)	0.2~2mm の砂礫(石英な ど)多く混ざる			

2. 基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う予備掘調査

調査地区 吉田構内S・T-9区
 調査面積 42㎡
 調査期間 令和2年1月28日～3月4日
 調査担当 横山成己 水久保祥子
 調査結果

(1) 調査の経緯(図7、写真33・34)

当計画に関しては、各種工事内容について令和元年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(4月26日(金)開催。以降、専門委員会と記す)にて施設環境部より説明があった。説明では、ため池2の堤防改修とため池3の埋め立てに大量の土が必要であることから、ため池2東側丘陵の土を広範囲に削平し、工事用土に当てるとのことであったが、ため池2の西側丘陵に横穴墓が分布しており、東側丘陵にも墳墓が分布する可能性を否定できないことから、計画の見直しが提案された。その後現地での確認作業や各種打ち合わせを経て、第4回専門委員会(9月10日(火)開催)、第5回専門委員会(10月4日(金))にて工事計画修正案が提示された。工事用土については、吉田構内に残されている既往工事の残土を活用し、不足分は購入することなどが提案されたことから、当工事に対する埋蔵文化財保護対応は、地下の様相が不明確である牛の放牧地にて計画された、掘削深度の深い3号水路(埋め立てられる3号ため池用の排水施設)を対象に予備発掘調査を実施し、その他の工事については、立会調査にて対応することが踏られ、承認された。



図7 調査区位置図



写真33 調査地遠景(南上空から)

(2) 調査の経過(図8、写真35)

予備発掘調査では、3号水路計画地に幅1.4m×10mの調査区を3箇所(東から第1～3トレンチ)に設定した(図8)。調査は大学センター入試直後から着手する予定であったが、学内工事のスケジュール上、白石構内教育学部附属山口小学校改修工事に伴う埋蔵文化財調査(本書所収)が優先されたことから、1月28日(火)より着手することになった。

なお、事前の打ち合わせにより、予備発掘調査で



写真34 調査地近景(北から)

は改修工事施工業者の協力で重機掘削が行なわれる予定であった。しかし、改修工事に用いている重機のバケットが過大であったことから、全掘削を人力にて行うことになった(写真35)。調査における最大掘削深度は、工事での掘削深度を上限とした。調査の経過は以下の通りである。

- 1月28日(火)～30日(木) 第1～3トレンチ設定と表土掘削
- 1月31日(金) 白石構内教育学部附属山口小学校改修工事の埋蔵文化財保護対応のため作業中止
- 2月3日(月) 第3トレンチ盛土掘削
- 2月4日(火) 工事中止日のため掘削作業中止 座標測量および測量杭打ち
- 2月5日(水)～10日(月) 第3トレンチ盛土掘削 旧耕土検出
- 2月12日(水) 雨天作業中止
- 2月13日(木) 第2トレンチ盛土掘削
- 2月14日(金) 雨天作業中止
- 2月17日(月)・18(火)
 - 白石構内教育学部附属山口小学校改修工事の埋蔵文化財保護対応のため作業中止
- 2月19日(水)～21日(金) 第2トレンチ盛土掘削 写真撮影
- 2月25日(火)・26日(水) 工事中止日のため掘削作業中止 第2トレンチ湧水のため北壁倒壊
- 2月27日(木)・28日(金) 第2トレンチ復旧と埋め戻し 第1トレンチ盛土掘削 写真撮影
- 3月2日(月)・3日(火) 第3トレンチ清掃 写真撮影 断面図等作成
- 3月4日(水) 撤収等作業

(3) 基本層序と調査成果(図8・9、写真36～42)

調査地点は、姫山から南東に伸びる山地から西に派生する丘陵斜面に位置する。現地表は緩やかに東から西へ降下しているが、本学の吉田地区統合移転前の土地活用ばかりでなく、統合移転後の土地活用に関しても、詳細な記録が残されていない。

設定した3箇所のトレンチは、ほぼ東西に並んでおり、第3トレンチは管路の設計上「く」字状に折れ曲がっている(図8)。現地標高は第1トレンチが約34m、第2トレンチが33.1m、第3トレンチが32.8m～32.2mを測る。ため池2の東側、西方に延びる丘陵端部は、現状で高低差約3mの切断面が存在していることから、現放牧地全域がある程度削平を受けていることが予想された。

調査の結果、放牧地の削平は著しく、表土下に厚く盛土が施されており、第1トレンチは現地表下1.2m、第2トレンチも現地表下1.2m、第3トレンチは現地表下1.3mで旧耕土を確認した。これらの事実から、当地はかつて棚田として活用されていたことが判明した。

盛土は複数回行われた状況を示しており、各層とも固く締まっていることから、盛土時に強く転圧されたことが分かる。第1・2トレンチの盛土は、その土質から近隣の丘陵削平に伴うものと見られ、第3調査区の盛土にはアスファルトやコンクリート、ブルーシートなどの産業廃棄物が多量に含まれていたことから、当地が棚田として活用されて以降に、本学によって土地造成に関わる残土が持ち込まれたものと想像される。第2トレンチでは、旧耕土直上に泥土が堆積していたことから、耕地放棄後、一定期間ため池など水利に関わる土地活用が行われたと推定される。

いずれの調査区も湧水が著しく、第2トレンチでは作業が中断した5日間に排水が追いつかず、降雨の影響も重なり壁面が崩落した。そのため、土層断面実測は部分的にしかな行っていない(図9)。また、館員および作業員の安全確保のため、第1、第2トレンチでは掘削幅を最低限度にとどめている。

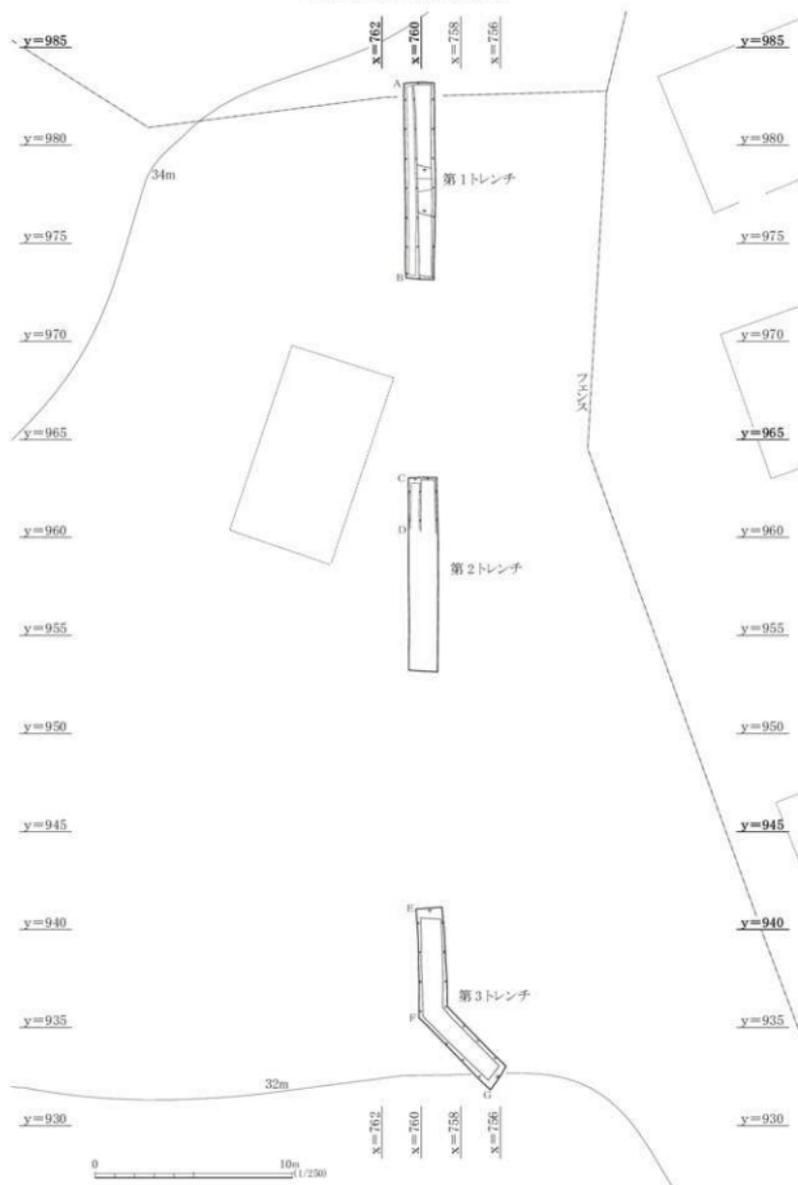


図8 調査区配置図

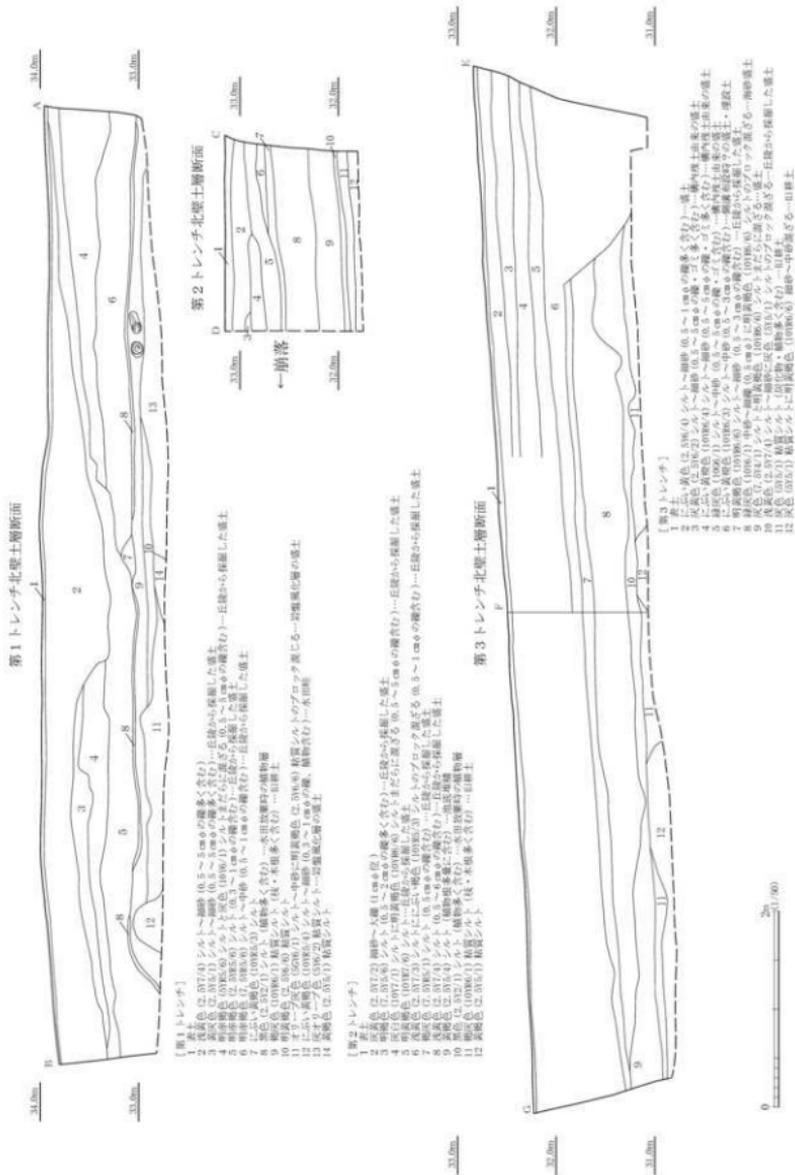


図9 調査区断面図



写真 35 第1トレンチ作業風景(北東から)



写真 36 第1トレンチ半截状況(西から)



写真 37 第1トレンチ北壁土層断面(南西から)



写真 38 第2トレンチ半截状況(東から)



写真 39 第2トレンチ北壁土層断面(南西から)



写真 40 第2トレンチ西壁土層断面(東から)



写真 41 第3トレンチ完掘状況(東から)



写真 42 第3トレンチ東半区北壁土層断面(南東から)

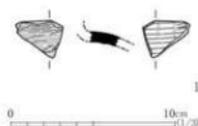


図10 出土土器実測図

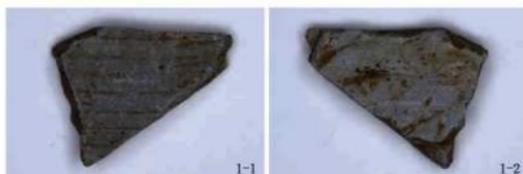


写真43 出土遺物(土器)

表5 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	備考
				①口縁②底縁③器高	①外面 ②内面		
1	第3トレンチ 旧耕土	須恵器 壺・瓶類	肩部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	精緻	

(4) 遺物(図10、写真43、表5)

図示可能な遺物は、第3トレンチの旧耕土より出土した須恵器1点に限られる。1は須恵器壺・瓶類の肩部小片。頸部付近の破片とみられ、外面は縦位の平行文叩き後カキ目が施される。内面は回転ナデが施されているが、同心円文当て具痕が残る。

(5) 小結

調査では、工事計画深度を最大掘削深度として定めたことから、各トレンチとも盛土下の旧耕土を確認するに止まり、地山が確認できていない。

当地がいつ耕地化されたか、という問題に関しては、本学には統合移転時(昭和41年(1966))ばかりでなく、移転後の土地活用記録も残されていないことから、断定できない。国土地理院が公開している航空画像を見る限りでは、本学移転前の昭和38年(1963)には、ため池2の東側丘陵が池の南にまで伸びていることを確認できる。この丘陵自体がため池2の堤体の役割を果たしていたと考えられるが、昭和44年(1969)の画像では丘陵が大きく削平を受けている。おそらく、丘陵の削平は移転時に構内の低地を埋め立てるために行われ、その後に農学部附属農場により棚田として活用されたのであろう。

調査地の南方50mにある牛舎敷地では、昭和41年(1966)10月から11月にかけて、竪穴式住居跡4棟からなる集落跡が確認されている²⁾。当館に残されている調査記録フィルムには、その調査区の北方に西に伸びる丘陵が写り込んでいることから、少なくとも統合移転開始期までは、ため池2の南側丘陵は存在していたことになる。昭和42年(1967)以降、本学には学長を団長とする「山口大学吉田遺跡調査団」が組織され、構内の分布調査を実施しているが、筆者は当丘陵に関する記録や出土遺物に触れたことがない。周囲の遺跡分布状況を見ると、大規模削平を受けた丘陵、特にその南側斜面には、横穴墓をはじめとする墳墓が存在していた可能性が十分に考えられる。本学による無責任な開発行為に悲憤慷慨するも、後の祭りである。

【註】

- 1) 国土地理院「地図・航空写真閲覧サービス」
- 2) 横山成己(2021)「吉田遺跡第IV地区の調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報一平成28年度一』, 山口

3. 基幹・環境整備(ため池改修)工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内S・T-8区

調査面積 2,810㎡

調査期間 令和元年1月30日、3月4日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

予備発掘調査と並行して、ため池改修工事に伴う立会調査も実施した。A地点(図11)は、ため池2より放牧地西縁部に沿って新設された2号水路と、予備発掘調査を実施した3号水路との分水桟設置箇所、現表土(層厚20cm)下に2層の盛土(層厚40cm)が確認され、以下は岩盤風化土であった(図34、写真44)。2号水路ではいずれも同様の層序が確認され、放牧地の西縁部が、西側丘陵の東縁部を切断し、盛土にて整地されていることが判明した。

ため池2は、江戸時代中期に作成された「地下上申絵図吉田村清図」に「北サコ堤」として描かれた堤に該当するとみられることから、ため池2の堤体池側に新設されるビット掘削工事時に土層断面調査を行うことにした(B地点)。ため池2の現状池底は標高32mであり、ビット掘削は標高30mまで掘り下げる計画であった(写真45)。堤体頂部では平成21年度に立会調査を実施しており、少なくとも頂部下1.5mまでは近代の盛土であることを確認している。

調査の結果、ため池堤体は、東側丘陵の西への張り出しを利用し、西側丘陵との間に盛土を施し構築されていることを確認した(写真46)。池底下位の堆積(図34の①～⑥)は東西丘陵由来の岩盤風化砂礫層で、間に土壌化層が存在する(写真48)。池底上位1mは土壌化層が幾層も堆積しており、上位は堤体盛土であった(写真47)。また、取水のための木樋なども確認できなかった。現状の堤体は、吉田構内統合移転以降に構築されたと考えられる。

【註】

- 1) 山口県文書館所蔵
- 2) 横山成己(2013)「ため池整備工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成21年度—』, 山口



図11 調査区位置図



写真44 A地点土層断面(東から)



図12 A地点土層断面柱状図



写真 45 B 地点調査風景 (西から)



写真 46 B 地点北壁東側土層断面 (南西から)



写真 47 B 地点南壁上段土層断面 (北から)



写真 48 B 地点南壁下段土層断面 (北から)

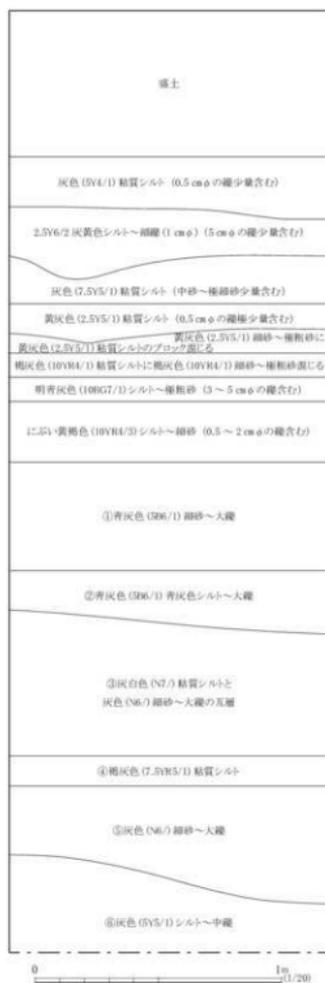


図 13 B 地点土層断面柱状図

4. 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内H-22区

調査面積 23㎡

調査期間 令和元年7月1・2日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

平成30年(2018)の大阪北部地震におけるブロック塀災害を受け、吉田構内では同年末よりブロック塀対策工事を実施している。令和元年度はサッカー場の練習用ブロック塀を撤去、新設することになった(図14)が、工事計画地周辺における既往調査では、複数の河川跡が確認されていることから、基礎工事掘削時に立会調査を実施することになった。

調査の結果、層厚12cmのグラウンド表土下に層厚18cmの改良土が設けられており、調査区南西部ではその下位が地山であることを確認した(図15、写真49)。調査区の中～北西部では、地山を切り込む橙色礫(1～4cmφ)層と灰色砂礫(0.5～3cmφ)層が検出された(写真50)。河川跡とみられるが、層中に遺物は確認されなかった。

本学統合移転時の昭和42年(1967)に実施された発掘調査では、サッカー場南西部は吉田遺跡第Ⅲ地区南区と命名され、多数の柱穴群とともに、縄文時代晩期から古墳時代まで機能し、木製品や植物種実が遺存した河川跡が検出されている³¹⁷。当該調査の正式報告は未だ行っていないが、吉田遺跡の範囲中、遺構・遺物が最も密に分布する地域の一つであることから、今後も慎重な埋蔵文化財保護対応が必要である。

【注】

- 1) 村田祐一・田畑直彦(2004)「基幹・環境整備(外灯新設)に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口
川島尚宗・横山成己(2019)「吉田構内南門アプローチ整備工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館—平成26年度—』, 山口
- 2) 小野忠熙(1976)『山口大学構内 吉田遺跡発掘調査概報』, 山口大学吉田遺跡調査団, 山口



図14 調査区位置図



写真49 調査区南西部地山検出状況(北東から)



写真50 調査区中～北西部河川跡検出状況(南西から)

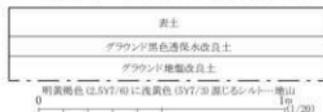


図15 調査区南西部土層断面柱状図

5. 生活排水処理施設解体に伴う排水管支障迂回工事に伴う立会調査



図16 調査区位置図



写真51 掘削直後の状況(南西から)



写真52 南東壁土層断面(北西から)

調査地区 吉田構内G・H-13区
調査面積 53㎡
調査期間 令和2年2月14日
調査担当 横山成己 水久保祥子
調査結果

学生会館(仮称)の新営に伴い、生活排水処理施設が解体されることとなり、工事の支障となる排水管を迂回させる必要が生じた。開発担当当局によると、新設の排水管は既設管および既設橋の余堀内に収まるとの説明であったことから、文化財保護法における埋蔵文化財保護対応は「慎重工事」とした(令和元年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(8月26日(月)～27日(火):メール審議)にて承認)が、予定掘削深度が現地地下3.6mであったことから、慎重を期し掘削後に現地確認を行った。

現地は予想を超える範囲で掘削を受けており(図16、写真51)、地山が大きく破壊されていることが判明したことから、工事担当者立ち会いのもと、土層断面調査を実施した(図17、写真52)。予備発掘調査結果(本書所収)同様、旧耕土下が地山であり、断面には遺構が遺存しないことを確認した。本例までの土地の破壊は希有であるものの、設備関連工事では計画と実施の不一致が頻出することも事実である。今後はより一層慎重な対応が必要となる。



図17 土層断面柱状図

6. 東門フェンス改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内V・W-17区

調査面積 2.25㎡

調査期間 令和元年8月26日

調査担当 横山成己

調査結果

吉田構内東門の南側には、周囲を金網フェンスで取り囲んだ農学部管理の空閑地が存在している(図18)。近隣住民より、フェンスの一部が倒れかかっているとの指摘を受けたことから、開発部局により改修工事が実施されることとなった。

既設の基礎ブロックを再利用する計画であったことから、文化財保護法93条を提出せずに工事が進められたが、開発工事担当部局より、ブロックの再利用が困難で、新に基礎を設ける必要があるとの連絡を受けたことから、緊急に立会調査を行うことになった。

当地点周辺では、実験水田周囲で数度の工事立会が実施されているもの、かつて西に隣接する牧草地において農学部により植物工場の建設が計画されたが実現しなかったこともあり、地下の様相が不明確であった。調査の結果、一部で表土下30cmに明黄褐色の地山が検出確認された(図19、写真53)ことから、当地点周辺では表土直下が地山であり、多少の削平は受けていると推測されるが、小規模な掘削でも遺構が破壊される可能性が生じることを確認できた。東門自体の老朽化も進行していることも含め、周辺地での将来的な開発工事計画には注意が必要である。

【注】

- 1) 同地にはかつて農学部教員の実験設備が存在したと聞くが、施設の詳細は不明である。
- 2) 河村吉行(1983)「農学部附属農場農道改修に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内道路調査研究年報Ⅴ』、山口
横山成己(2019)「農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館—平成26年度—』、山口



図18 調査区位置図



写真53 A地点土層断面(東から)



図19 A地点土層断面柱状図

7. 総合研究棟(経済学系)改修工事に伴う立会調査



図20 調査区位置図

調査地区	吉田構内K-20区
調査面積	15.5㎡
調査期間	令和元年9月19日
調査担当	横山成己
調査結果	

吉田構内における学部校舎の改修工事は、平成14年度の農学部校舎に始まり、以降建築年の古い校舎から順次実施されており、経済学部B・C棟を残すのみとなっていた。

平成30年度に至り、該当建物の改修計画が立案されたものの、年度末時点で工事の詳細が不確定であったことから、工事の詳細が決まり次第、当館館長の裁量により埋蔵文化財保護対応を決定することが平成30年度第6回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成31年3月29日(金)開催)にて諮られ、承認された。

令和元年の夏に至り提出された具体的な工事計画では、校舎改修においては地下の掘削を伴わないが、経済学部D棟西側自転車置き場周囲の樹木の抜根作業で最大50cm程度の掘削工事が見込まれることから、工事立会にて地下の確認を行うこととなった(図20)。

抜根作業後に現地を確認したが、いずれの樹木も根の張りが弱かったようで、重機による掘削は最大で30cm程度で、いずれも盛土内に止まっており、埋蔵文化財に支障が生じる状況ではないことを確認した(図21、写真54)。



写真54 土層断面(東から)



図21 土層断面柱状図

8. ライフライン再生(電気設備)工事・ライフライン再生(給水設備)工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内B・C・D・21区、D・E-20区

調査面積 約169.4㎡

調査期間 令和元年12月16～18日、20・23～26
・28日

調査担当 田畑直彦

調査結果

(1) 調査の経緯

ライフライン再生(電気設備)工事・ライフライン再生(給水設備)工事に伴い、特別支援学校敷地で立会調査を実施することになった(平成30年度第6回埋蔵文化財資料館専門委員会(3月29日(金)開催)にて承認)。

工事は新規に掘削する管路等について掘削を行うもので、掘削範囲は正門から校舎間を中心を広範囲に及んだ。①～⑦工区のうち、①～⑤は給水管、⑥・⑦は電気配管に伴うものである。

(2) ①・②・⑥工区

①・②ルートは既設管とほぼ重複しており、埋蔵文化財に支障はなかった。また、⑥工区は最大で現地表下約140cmまで掘削が行われたが、現地表下約100cmまでが造成土で、100～140cmで明黄褐色(10YR6/6)礫を検出した。

(3) ③工区

多くの箇所で作成前の水田耕土・床土は残存しておらず、主に造成土直下で遺物包含層・遺構・河川を検出した。

1地点では現地表下66cmで河川もしくは溝埋土を確認し、縄文土器片が出土した。2地点では現地表下55cmで黒褐色シルト(遺物包含層か)を確認した。この層は1～2地点の間で認められた。3地点では現地表下61cmで黒褐色シルト(遺物包含層)の落ち込みを確認し、土器片が出土した。4地点では現地表下43cmで黒褐色シルト(遺物包含層)を確認した。5地点では現地表下44cmで杭もしくはピットと考えられる遺構を検出した。6地点では現地表下46cmでピットと考えられる遺構を検出した。7地点では現地表下42cmで杭と

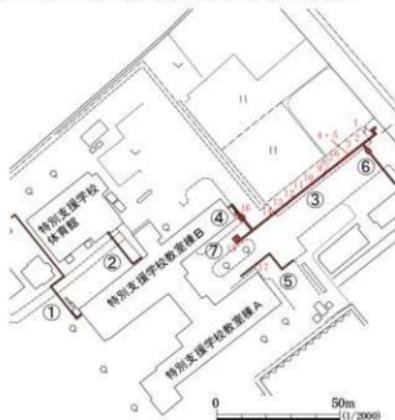


図 22 調査区位置図



写真 55 1地点土層断面 (南西から)



写真 56 3地点土層断面 (南から)



写真57 6地点土層断面(南西から)



写真58 12地点1土層断面(南東から)



写真59 12地点2土層断面(北東から)



写真60 14地点土層断面(北西から)



写真61 16地点土層断面(南から)



写真62 17地点土層断面(北西から)



図23 出土遺物実測図



写真63 出土遺物写真

表6 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁全径・全高さ	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	1地点 黒褐色粘質土	縄文土器 深鉢	胴部		①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②灰色(10Y4/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
2	1~2地点 黒褐色粘質土	縄文土器 深鉢	底部	②(6.3)	①黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	

考えられる遺構を検出した。8地点では現地地表下41cmでオリーブ灰色シルト(遺物包含層か)を検出した。9地点では現地地表下37cmでオリーブ灰色シルト(遺物包含層か)を検出した。10地点では現地地表下48cmで弥生時代以降の遺構面・灰色粗砂(縄文以前の河川埋土か)を検出した。11地点では現地地表下60cmで灰色粗砂(縄文以前の河川埋土か)を検出した。12地点では現地地表下32cmで溝とみられる遺構(幅20cmが2条、幅43cmが1条)を検出した。13地点では現地地表下40cm以下で弥生時代以降の遺構面、縄文以前の河川埋土を確認した。14地点では現地地表下26cmで河川もしくは溝とみられる遺構を検出した。

(4)④・⑤・⑦工区

④工区では、16地点の現地地表下52cm以下で、暗灰色粘質土など遺物包含層もしくは河川埋土と考えられる土層を検出した。⑤ルートの大抵は造成土内の掘削であったが、17地点の現地地表下50cmで、暗灰色シルト(遺物包含層か遺構埋土)を検出し、土器片が出土した。⑦工区では、15地点の現地地表下66cmで時期不明の河川を検出した。

(5)出土遺物

図23-1は1地点黒褐色土出土の縄文土器深鉢胴部。外面調整は二枚貝条痕、内面調整はナデ。2は1~2地点間黒褐色シルト出土の深鉢底部。やや上底を呈する。内外面の調整はナデである。いずれも縄文時代後~晩期であろう。この黒褐色シルトからは礫石も1点出土した。

(6)小結

今回の調査では、特に③工区を中心に遺物包含層・遺構・河川を検出し、1~2地点からは縄文時代後~晩期の土器が出土した。1~2地点では当該期の遺構ないし河川が存在する可能性がある。③工区の南側では平成29年度に実施されたガス管引替工事に伴う立会調査でも現地地表下60cmで遺物包含層とみられる黒褐色砂質土層を検出し、その下位で河川堆積土と思われる砂礫土層が認められている²¹⁾。

特別支援学校敷地の正門から校舎間では、現地地表下約40cm程度の掘削で埋蔵文化財に支障が生じる可能性があり、特に注意が必要である。

【註】

- 1) 横山成己(2022)「教育学部附属特別支援学校ガスマ引替工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成29・30年度-』, 山口

9. 東アジア研究科・経済学部研究科棟渡り廊下屋根取設工事に伴う立会調査



図 24 調査区位置図



写真 64 調査区全景 (南から)



写真 65 10 地点土層断面 (南から)

調査地区	吉田構内K-21区
調査面積	約9.7㎡
調査期間	令和2年3月17・18日
調査担当	田畑直彦
調査結果	

(1) 調査の経緯

東アジア研究科・経済学部研究科棟渡り廊下屋根取設工事に伴い、立会調査を実施した(令和元年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(6月27日(木)開催:メール審議)にて承認)。

工事は東アジア研究科・経済学部研究科棟と経済学部多目的棟の間に、渡り廊下の屋根の基礎(平面形90×90cm)を12箇所で掘削するもので、現地表下約90cmまで掘削が行われた。

調査の結果、1～3、7、8地点は全て造成土の範囲内であった。4～6、9、10～12地点では層厚60cm前後の造成土の直下に統合移転前の水田耕土・床土が残存しており、床土の直下、現地表下66～82cm以下で河川埋土を確認した。このうち、11地点の河川埋土は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘質土で、土器片が出土した。

今回検出された河川は、経済学部大講義室敷地⁰¹、経済学部商品資料館敷地⁰²、経済学部多目的棟敷地⁰³で検出された河川と一連と考えられる。

【註】

- 1) 河村吉行(1992)「吉田構内経済学部校舎新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』,山口
- 2) 豆谷和之(2000)「経済学部商品資料館新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XIV』,山口
- 3) 田畑直彦(2016)「経済学部校舎改修(プレハブ校舎新営)に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XXI』,山口

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査

調査地区 特別教室棟・教室棟A間空地

調査面積 60㎡

調査期間 令和元年7月23日
～令和元年8月9日

調査担当 水久保祥子 横山成己

調査結果

(1) 調査の経緯と経過(図25・26、写真66)

附属山口小学校改修工事に伴い特別教室棟と教室棟Aの間にエレベーター・渡り廊下建設工事が計画された。平成30年度第6回埋蔵文化財専門委員会(平成31年3月29日(金))にて埋蔵文化財保護対応に関する審議を行い、検討の結果、全体工事のうちエレベーター部分について予備発掘調査を行うことが承認された。

しかし、その後、渡り廊下部分に関して設計変更がなされ、掘削範囲が広がったため、エレベーター部分のみの予備発掘調査としていたものを改めることとし、エレベーター・渡り廊下建設工事全体に対しての埋蔵文化財保護対応について館長裁量で「本発掘調査」に変更され、その旨、埋蔵文化財専門委員会に報告された。

以上の経緯を経て、工事計画地を対象に本発掘調査を実施する運びとなった。なお、調査区の設定において、工事計画によればエレベーター部分と渡り廊下部分とは1mほどの間隔があったが、施設環境部の担当者との相談の上、調査の便宜上、間隔をあげずに両者をつなげて調査区を設定した。また、施設環境部からの依頼により特別教室棟改修工事の足場設置に対応するため、特別教室棟側を当初予定範囲から約2m内側に設定した(図26)。

7月19日(金) 道具・重機搬入

7月22日(月) 雨天中止(調査範囲の草刈り)

7月23日(火)～7月24日(水) バリケード設置、重機掘削

7月25日(木) 遺構検出

7月26日(金) 遺構検出状況写真撮影

7月29日(月) 遺構掘削

7月30日(火) 遺構土層断面写真撮影・断面図作成

7月31日(水)～8月1日(木) 遺構掘削、調査区壁土層断面写真撮影・断面図作成

8月2日(金) 完掘写真撮影、平面図作成

8月5日(月) 平面図作成、埋め戻し

8月6日(火) 雨天中止

8月7日(水)～8月9日(金) 埋め戻し、道具・重機搬出

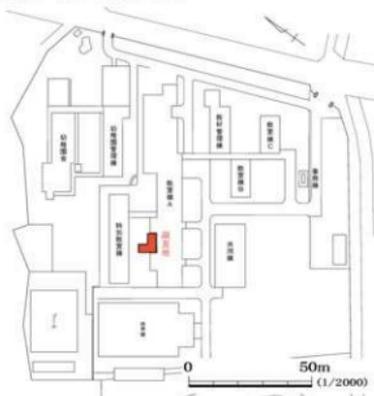


図25 調査区位置図

(2) 調査成果(図27～29、写真67～73)

調査区内は既存の配管等により大部分が削平を受けており、地山は調査区西半の一部に確認できたが、地山面上では遺構は確認されなかった。地山は明黄褐色のシルト層で、その上層は砂礫層と砂層の互層となっており、後述する埋没河川の影響による堆積の可能性がある。

調査区北端には、北東から南西方向に流れる埋没河川を検出した(図27・28、写真67・68・72)。検出範囲が狭小ではあるものの、河川の両肩がわずかに確認でき、調査区内での幅は約2.4m、深度は最深部で1.0mを測る。河川北端と南端の川底の比高差は約40cmで、北東から南西へと流れる。

既往の調査では、幼稚園舎の北東側の調査区で河川跡が検出され、幼稚園舎の南側で砂礫層と砂層の堆積が確認されている。今回検出した埋没河川の詳細な時期は出土物がないため不明であるが、幼稚園舎北東側の河川跡が上流部となるのであれば、それに準ずる時期となろう。また、今回の調査区の東西では、地山の上層で砂礫層と砂層の互層が確認されている。今回調査区の西半で確認した土層堆積と近似しており、埋没河川の影響が及んでいるものと考えられる(図29)。

なお、埋没河川の上位には間知石の石列がみられた(写真72)。これは附属山口小学校の前身建物に関わるものとみられるが、出土物等がなく前身建物に関する記録も未確認であるため不明確である。本来ならば、間知石を取り除き河川の掘削を行うものではあるが、隣接する配管の真砂土の保護のため石列を除去することはしなかった。

調査区の大半が攪乱を受けており、残存範囲は狭小ではあるが、過去の調査で部分的に確認されていた河川跡に続く可能性がある埋没河川を検出したことは、調査地周辺の旧地形を復元する上で貴重な成果が得られたものとする。また、河川機能時の遺構面の下層にはさらに礫層が堆積しており、古くから流筋を変えながら河川が流れていたことがうかがえる(写真73)。

【註】

- 1) 河村吉行・古賀真木子(1991)「亀山橋内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学橋内遺跡調査研究年報IX』, 山口
- 2) 河村吉行・杉原和恵(1987)「教育学部附属幼稚園・山口小学校部分の調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報VI』, 山口

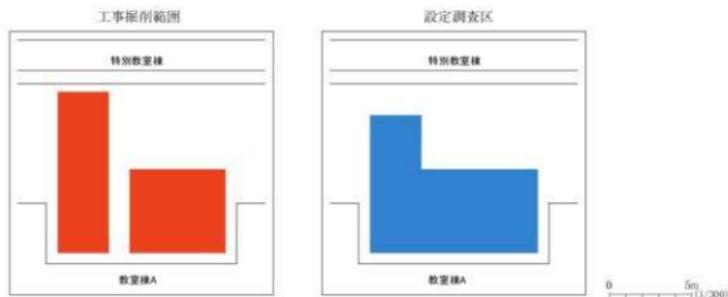


図26 工事掘削範囲と設定調査区

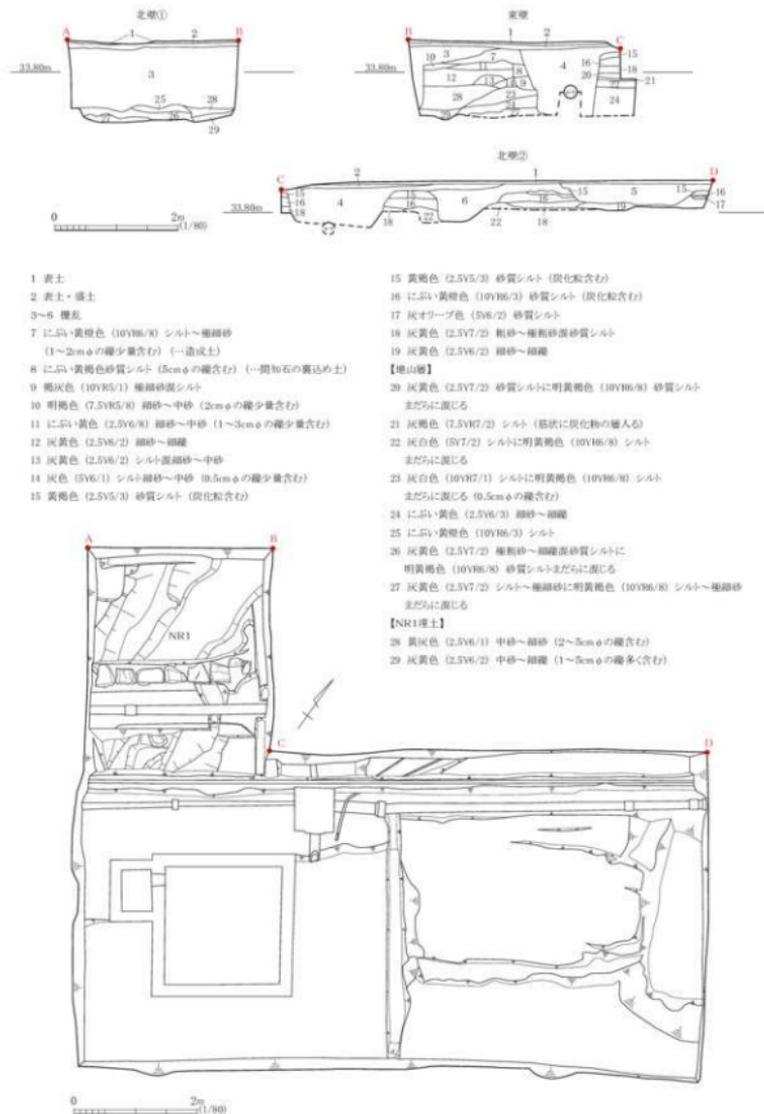


図27 調査区平面図・断面図

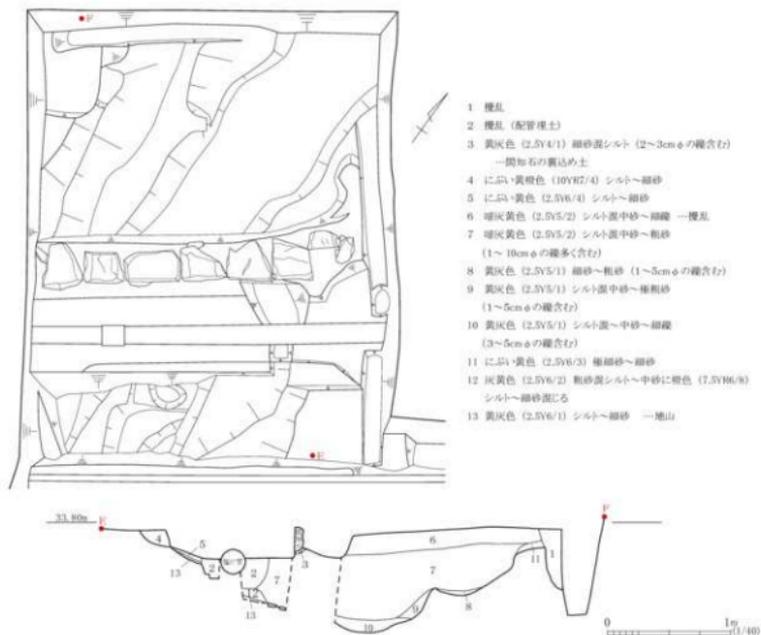


図28 NR1平面図・断面図



図29 調査区周辺の河川跡検出状況



写真66 調査前の状況(西から)



写真67 遺構検出状況(北西から)



写真68 遺構完掘状況(北西から)



写真69 調査区北壁①土層断面(東から)



写真70 調査区北壁②土層断面(東から)



写真71 調査区東壁土層断面(西から)



写真72 NR1土層断面(北から)



写真73 下層確認状況

2. 教育学部附属山口小学校改修工事に伴う立会調査

調査地区 附属山口小学校・幼稚園構内

調査面積 798㎡

調査期間 令和元年9月11日～令和2年3月20日

調査担当 水久保祥子 横山成己

調査結果

(1) 調査の経緯

附属山口小学校改修工事に伴い学校敷地内で既存埋設管の更新工事が計画され、平成30年度第6回埋蔵文化財専門委員会(平成31年3月29日(金)開催)にて埋蔵文化財保護対応に関する報告を行い、検討の結果、工事立会で対応することとなった。また、新規に掘削される工事計画箇所については発掘調査と同等の取り扱いとし、事前に調査を行った。

(2) 調査の経過(図30)

調査は工事の着手に合わせて順次行い、調査区名は調査順に付与した。

9月11日～9月14日(土)・17日(火) A区

9月24日(火)・25日(水) B区

9月30日(月)・10月1日(火)・2日(水) C区

10月7日(月)～9日(水) D区

10月10日(木) E区

10月17日(木) F区

10月21日(月)・23日(水) G区

10月29日(火)・11月5日(火) H区

11月14日(木)～16日(土)・17日(日) I区

11月25日(月)～27日(水)・12月5日(木)・9日(月)・10日(火) J区

11月29日(金)・30日(土)・12月2日(月)・3日(火) K区

12月14日(土)・15日(月)・18日(水) L区

12月21日(土)～25日(水) M区

12月23日(月) N区

1月8日(水) O区

1月13日(月)～16日(木) P区

1月20日(月)・21日(火)・31日(金)・2月1日(土) Q区

2月10日(月)・13日(木)～15日(土)・17日(月) R区

2月17日(月) S区

2月18日(火) T区

2月24日(月)～2月28日(金) U区

3月5日(木)・6日(金) P区・J区

3月20日(金) V区

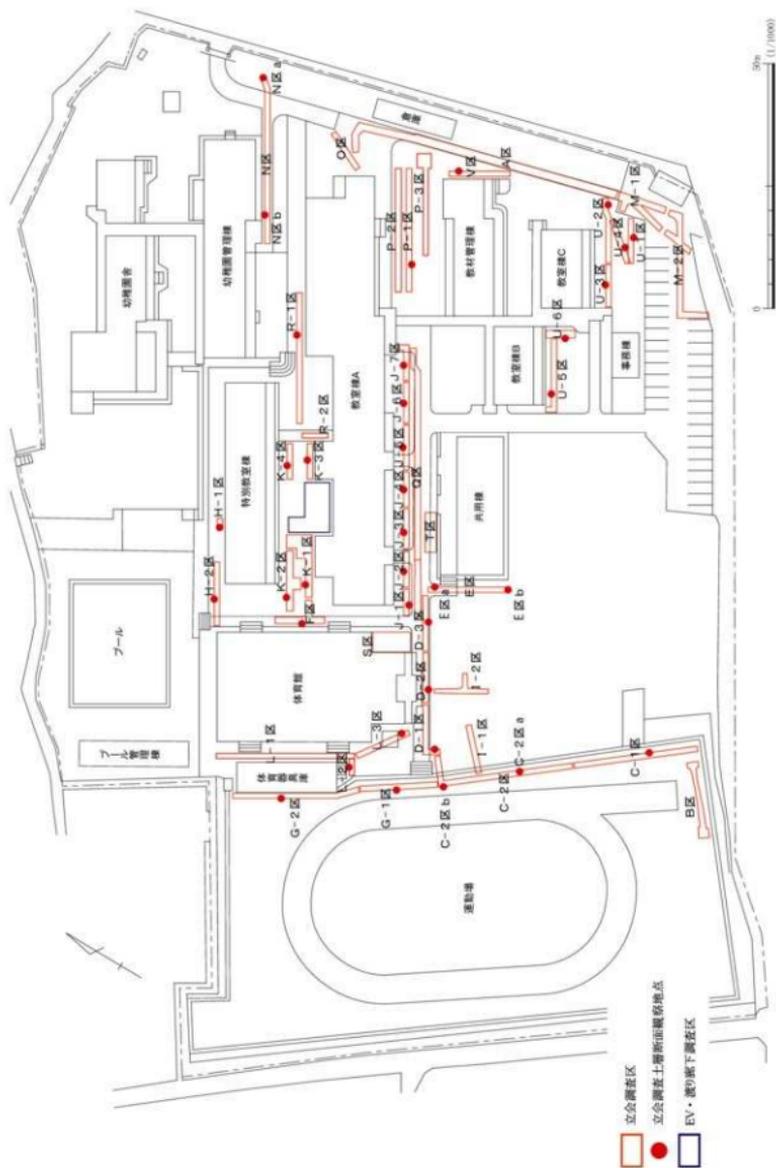


図 30 調査区位置図

(3) 調査成果

調査成果について、以下、調査区毎に説明する。

A区 (図31、写真74～77)

正門に入って右手にある南北方向の通路上にあたる調査区で、教室棟Aから正門前のフェンス際までの幅約2m、長さは約56mである。基本層序は、北端部では盛土の直下で地山となるが、調査区南半部では盛土の下に旧耕土・旧床土が残存し、その下層は地山の砂礫層となる(写真76)。また調査区南端部においては、地山は砂礫層ではなく明黄褐色のシルト質土で(写真77)、土層断面において地山の上面から切り込むビット状の遺構を確認している。その他の遺構としては、調査区北端部において河川跡と思われる落ち込みを確認した(写真74)。検出した河川幅は94～144cm、深さは約30cmである。埋土は黄灰色のシルト～細礫、暗灰黄色細砂～極粗砂で、遺物は出土しなかった。

B区 (図32、写真78～82)

運動場の南東部にある。層序は、調査区の東端と西端とで土質が若干異なるものの、基本的には、①表土、②盛土・攪乱、③旧耕土、④旧床土、⑤地山層となる(図32・写真81)。調査区の大半は後世の掘削により削平されていたが、東半の一部に遺構が検出された。また、西端では壁断面においても遺構を確認している。東半部で検出した遺構は、ビット5基および土坑1基、調査区の中央部分では全形が確認できたものと細長い楕円形のものが各1基と、壁際の2基の計4基のビットを検出した(図32、写真78・80)。出土遺物はなく、遺構の時期等の詳細については不明である。

C区 (図33、写真83～85)

B区の東端から北へのびる調査区で、運動場の東端にあり、C-1区とC-2区と分けている。C-1区の東壁では現地地表下60cmで褐灰色砂質シルトの遺物包含層があり、その下が灰黄色シルト～細砂の地山層となる。遺物包含層は厚層5cmと薄く、大きく削平を受けているとみられる。また、地山面上から切り込む土坑状の落ち込みを土層断面で確認した(写真83)。C-2区では遺物包含層がみられず、a地点では盛土が厚く現地地表下100cmで(写真84)、b地点では現地地表下30cmで地山となる(写真85)。

D区 (図33・34、写真86～88)

体育館前の通路上を通る配管路で、調査時にD-1～3区に分けている。D-1区では現地地表下72cmで旧耕土と旧床土が整地土を挟んで堆積しており、その下が砂礫の地山層となる(写真86)。D-2区は盛土の直下、現地地表下43cmで旧耕土と旧床土、その下層は砂礫層となり、D-1区とは異なり旧耕土は1層のみとなっている(写真87)。D-3区ではまた様相が異なり、旧耕土が見られない。砕石を含む盛土の下層に遺物包含層と思われる褐灰色層が堆積し、その下はシルト～細礫の地山層となる。地山面は現地地表下40cmで、地山面上から切り込むビット状の遺構を断面で確認した(写真88)。

E区 (図34、写真89・90)

共用棟の西側を通る配管路である。a地点では①表土・盛土、②褐灰色細砂混シルト(遺物包含層)、③灰黄褐色細礫混砂質シルト(遺物包含層か)、④灰黄色シルト～細礫(地山)、⑤灰白色シルト～細砂(地山)の層序となっている(写真89)。b地点では①表土・盛土、②褐灰色砂質シルト(旧耕土)、③灰黄色砂質シルト(旧床土1)、④黄褐色砂質シルト(旧床土2)、⑤にぶい黄褐色細砂混砂質シルト(遺物包含層)、⑥灰黄色シルト～細礫(地山)となっており、a地点とは様相が異なる(写真90)。a地点の遺物包含層は現地地表下40cm、地山層は現地地表下70cmに対し、b地点の遺物包含層は現地地表下85cm、地山層は現地地表下100cmと高低差がある。なお、E区の中央付近では現地地表下80cmで地山となるが、表土・盛土の下層は地山に至るまで攪乱を受けており、a地点からb地点への土層の繋がりは観察できなかった。



図 31 A区平面図・断面図



写真 74 A区河川跡完掘状況 (北東から)



写真 75 A区南壁①土層断面 (北から)



写真 76 A区西壁土層断面 (東から)



写真 77 A区南壁②土層断面 (北から)



写真 78 B区東端部遺構検出状況(北東から)



写真 79 B区東端部遺構完掘状況



写真 80 B区中央部遺構検出状況(北東から)



写真 81 B区北壁①土層断面(北東から)





写真 83 C-1区東壁土層断面(西から)

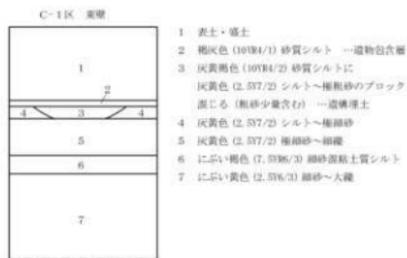


写真 84 C-2区a地点東壁土層断面(西から)



写真 85 C-2区b地点西壁土層断面(東から)



写真 86 D-1区東壁土層断面(西から)

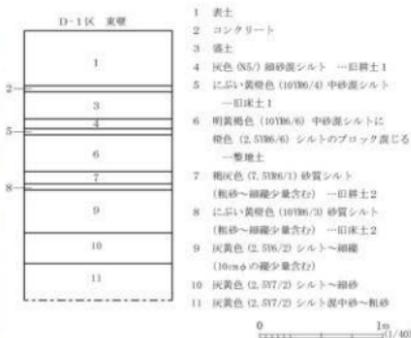


図 33 C・D区土層断面柱状図



写真 87 D-2区南壁土層断面 (北から)

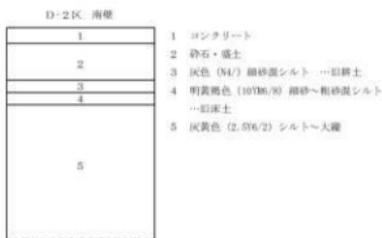


写真 88 D-3区南壁土層断面 (北から)



写真 89 E区a地点東壁土層断面 (南西から)

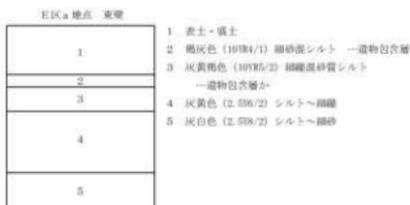


写真 90 E区b地点南壁土層断面 (北から)

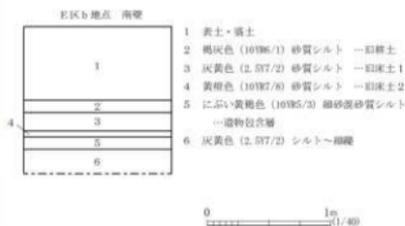


図 34 D・E区土層断面柱状図



写真 91 F区西壁土層断面(東から)

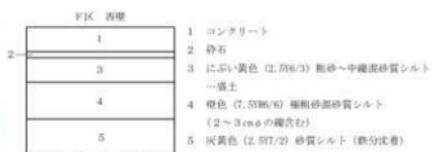


写真 92 G-1区西壁土層断面(東から)



写真 93 G-2区東壁土層断面(西から)



写真 94 H-1区西壁土層断面(西から)



図 35 F・G・H区土層断面柱状図

F区 (図35、写真91)

体育館東側通路を通る配管路である。①コンクリート、②碎石、③盛土、④橙色極粗砂混砂質シルト(地山)、⑤灰黄色砂質シルト(地山)の層序となっている。地山面は現地地表下45cmで地山層となる(写真91)。遺構・遺物は確認されなかった。

G区 (図35、写真92・93)

運動場北半の東端部に南北にのびる配管路で、調査の便宜上、G-1区とG-2区に分けている。G-1区の層序は、①表土・盛土、②黄灰色砂、③灰黄色シルト、④暗灰色シルト(粘性)、⑤青灰色シルト、G-2区の層序は、①表土、②盛土、③盛土、④暗灰色粘土質シルト、⑤青灰色シルトとなっており、大きく差異はない(写真92・93)。④暗灰色粘土質シルトの層については、G-2区の北端部では認められず、また、G-1区の南端部でも褐灰色粘土質シルト層が薄く堆積しているのが確認できるだけで、暗灰色層はみられない。このことから、④暗灰色粘土質シルト層はG-1区からG-2区にかけての約20～25mの間で堆積していると考えられる。

H区 (図35・36、写真94・95)

特別教室棟北側から体育館北東端部にかけての配管路である。H-1区は掘削深度45cmで全て盛土の範囲内で(写真94)、H-2区はコンクリート・造成土の下に⑤明黄褐色シルトの地山層が認められた(写真95)。

I区 (図37、写真96～98)

体育館南側の広場を通る配管路で、新規掘削となるため事前に調査を行った。I-1区は現地地表下180cmで地山層となるまでは全て盛土であった(写真96)。I-2区は現地地表下60～70cmで旧耕土に当たり、旧耕土・旧床土は数枚確認できた。地山と思われる礫層は現地地表下84cm～130cmで検出された(図37、写真97)。旧床土上で耕作にかかるものと思われる杭跡を1基確認したのみで(図37・写真98)、地山面上では遺構は認められず遺物も出土しなかった。

J区 (図38・39、写真99～105)

教室棟Aの南側を通る配管路で、調査の便宜上、J-1～7区に細分した。J-1・5区は表土・盛土の直下で地山となり(写真99・103)、J-4・6・7区では表土・盛土の下にぶい黄橙色細砂混砂質シルトの層があり、地山に至る(写真102・104・105)。J-2・3区は遺物包含層と遺構が確認された。J-2区は、現地地表下45cmで④暗灰黄色細砂混シルト層となり、④層に切り込んでピット状の遺構が認められた(写真100)。J-3区は、現地地表下35cmで遺物包含層と思われる②黒褐色細砂混シルトとなり、現地地表下50cmの深度で、④にぶい黄橙色砂質シルトを切り込むピット・土坑状の遺構が確認された(写真101)。

K区 (図40、写真106～109)

特別教室棟と教室棟Aとの間の配管路で、K-1～4区に細分している。K-3区のみ小学校の前身建物に関わるものかと思われる石積みがあったが(写真108)、それ以外は盛土の直下で地山となり、遺構・遺物は確認されなかった(写真106・107・109)。

L区 (図41・42、写真110～118)

体育館と体育器具庫との間にある。調査の便宜上L-1～3区に細分した。L-1区は、体育館の南端から北へ約10mの地点から体育館北端まで、L-2区はL-1区南端部から西へ曲がって運動場に至るまで、L-3区はL-1区南端部から体育館南側に向かって斜めにのびる配管路である。L-1区のみ新規配管路として発掘調査を行い、L-2・3区は立会調査を行った。

L-1区の基本層序は調査区の北半と南半とで若干の相違がある。調査区北端から約8m付近までは



写真95 H-2区北壁土層断面(南から)

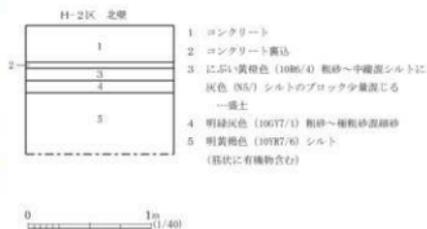


図36 H区土層断面柱状図

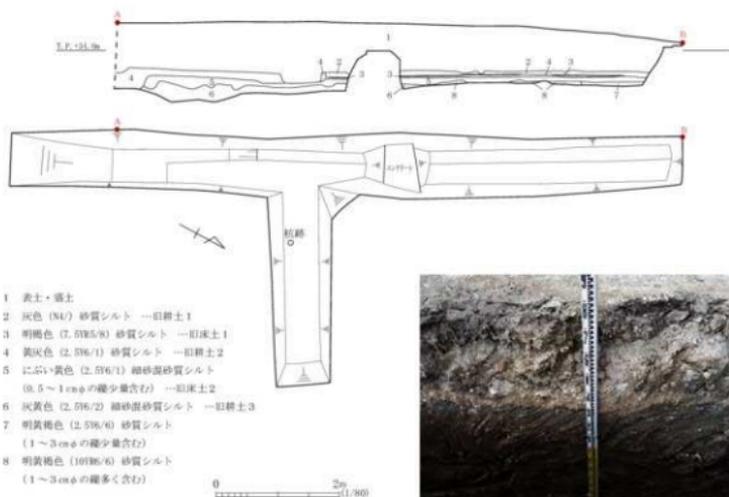


図37 I-2区平面図・断面図



写真96 I-1区南壁土層断面(北から)



写真97 I-2区西壁土層断面(北東から)



写真98 I-2区遺構検出状況(西から)



写真 99 J-1区南壁土層断面(北から)

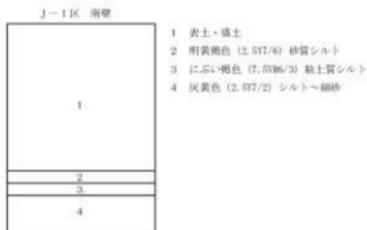


写真 100 J-2区北壁土層断面(南から)



写真 101 J-3区北壁土層断面(南から)

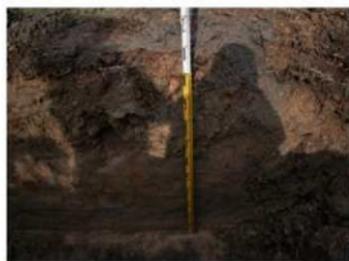


写真 102 J-4区北壁土層断面(南から)

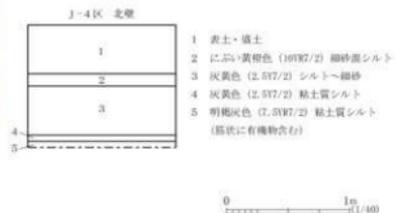


図 38 J区土層断面柱状図



写真 103 J-5区北壁土層断面(南から)



写真 104 J-6区北壁土層断面(南から)

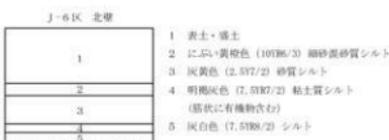


写真 105 J-7区北壁土層断面(南から)

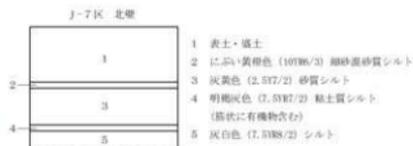


図 39 J区土層断面柱状図

旧耕土の下に現地表下35cmで③黒褐色中砂混シルトの遺物包含層の堆積が認められるが(写真110)、それより南では遺物包含層はみられず、造成土を挟んだ旧耕土と旧床土の互層の直下で地山面が検出された(写真116)。調査地点の現地標高はT.P.+34.4m～34.5mで、遺物包含層はT.P.+33.9m～34mで認められた。なお、工事にかかる深度までを調査対象としたため、調査区北半部では③の遺物包含層は掘削せず、その途中で止めている(写真111)。遺物包含層からは弥生土器複合口縁壺の口縁部片のほか、弥生土器・土師器の細片が出土している。

L-1区南半部では現地表下80～98cm(T.P.+33.5m～33.6m)で地山面を検出し、調査区東壁際にピット(SP1)1基、東西方向の溝(SD1)を1条検出した(図42、写真115)。溝は幅21cm、深さ13.6cmである。ピットからは土師器の細片が、溝からは底付近で土師器高杯の口縁部片が出土している(写真117)。ピットは東壁外に続いており、検出長88cm、深さ12～24cmである(写真118)。



写真 106 K-1区北壁土層断面(南から)



写真 107 K-2区北壁土層断面(南から)



写真 108 K-3区北壁土層断面(南東から)



写真 109 K-4区北壁土層断面(南から)



0 1m
①/40

図 40 K区土層断面柱状図



写真 110 L-1区全景 (北から)

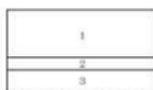


写真 111 L-1区北半包含層検出状況 (西から)



写真 112 L-1区北半東壁土層断面 (西から)
(北端から6m付近)

L-1区北半 東壁

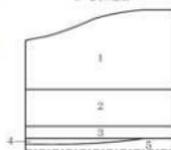


- 1 表土・盛土
- 2 灰黄色 (2.516/2) 細砂混シルト
(0.5cmφの礫少量含む) 一部粘土
- 3 黒褐色 (10103/1) 中砂混砂質シルト
(0.5~1cmφの礫多く含む) 一部粘土層



写真 113 L-2区北壁土層断面 (南から)

L-2区北壁



- 1 表土・盛土
- 2 褐色 (7.5106/30) シルト
(0.5~1cmφの礫含む) 一部土
- 3 灰灰色 (2.516/1) 砂質シルト
(0.5cmφの礫少量含む) 一部粘土
- 4 黄褐色 (2.515/2) 細砂混シルト
(0.5~1cmφの礫含む) 一部床土
- 5 暗灰黄色 (2.515/2) 中砂〜大礫混シルト



写真 114 L-3区北東壁土層断面 (南西から)

L-3区 東壁



- 1 表土・盛土
- 2 灰灰色 (2.516/1) 細砂混砂質シルト
一部粘土
- 3 明黄褐色 (10106/6) 粘土質シルト
一部床土



図 41 L区土層断面柱状図

令和元年 白石溝内(白石宮田遺跡)の調査

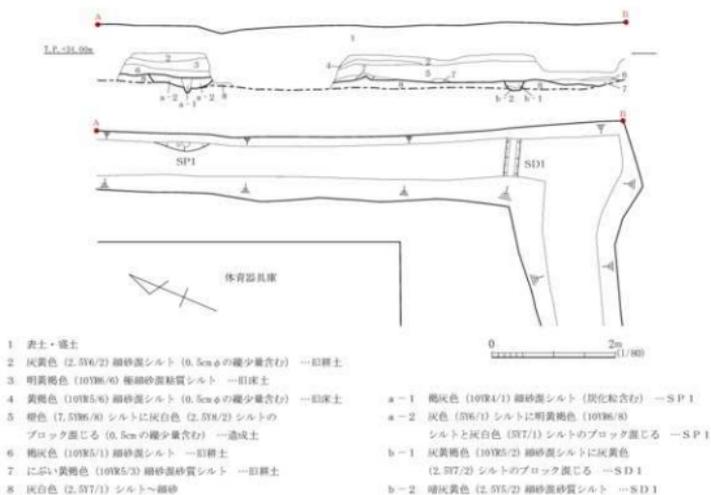


図 42 L-1 区南半平面図・断面図

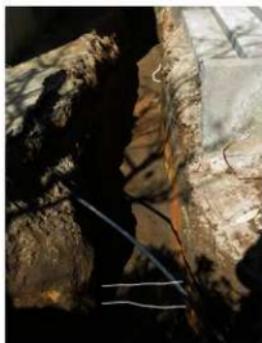


写真 115 L-1 区南半遺構検出状況 (南から)



写真 116 L-1 区南半東壁土層断面 (北西から)



写真 117 SD1 土器出土状況 (南西から)



写真 118 SP1 完掘状況 (西から)

L-2区は、表土・盛土が厚く盛られており、現地地表下95cmで旧耕土、その下に薄く旧床土があり、暗灰黄色中砂〜大礫の地山となる(写真113)。L-3区は現地地表下60cmで旧耕土、旧床土となる(写真114)。L-2・3区では遺構・遺物は確認されなかった。

M区(図43〜46、写真119〜132)

小学校正門前から駐車場にかけての配管路で、調査の便宜上、北半をM-1区、南半をM-2区とした。M-1区の現地標高はT.P.+34.2m、M-2区はT.P.+34.4〜34.45mとなっている。

M-1区では、調査区の北端では旧耕土、旧床土の下に地山層がみられたが、調査区中央付近から南にかけては旧床土と地山層の間に1層(⑦)にぶい黄褐色砂質シルトあり(写真119)、その上面で遺構が検出された(第1面)。第1面は現地地表下約50〜55cm(T.P.+33.60m〜33.65m)で、調査区北半部の地山面上のものも含めてピット14基と杭跡を検出した(図43、写真120)。第1面の記録作業の後、その基盤層(⑦層)を掘削し、地山面上での遺構検出を試みたが、天候と調査期間の都合上、簡易な検出写真のみにとどまった(写真121・122)。

M-2区においても遺構面が2面認められた。第1面は現地地表下80〜121cm(T.P.+33.25m〜33.58m)で、ピット33基と土坑2基、杭跡を検出した(図45、写真123〜125)。第1面の基盤となる層はM-2区全域に認められたが、調査にかけられる時間に限りがあるため、第2面(地山面)の検出は調査区の東半部のみに限った。第2面は現地地表下88〜115cm(T.P.+33.25m〜33.50m)で、ピット6基を検出した(図46、写真131・132)。

N区(図47、写真133・134)

幼稚園管理棟の南側通路を通る配管路で、このN区のみ電気工事に関する掘削となっている。調査区の西半は造成により削平されていたが(写真134)、東端部(a地点)では①表土・盛土、②褐灰色シルト、③にぶい黄色砂質シルト、④にぶい黄色シルト〜中礫、⑤にぶい黄色中砂〜大礫の層序が認められた(写真133)。②層は遺物包含層と思われる、③層以下は地山となる。

O区(図47、写真135)

教室棟Aの東側から北東方向にのびる配管路である。層序は、表土・盛土の直下に明黄褐色粘土質シルトの地山となっており(写真135)、遺構・遺物は確認されなかった。

P区(図48・49、写真136〜138)

教材管理棟の北側を通る配管路で、東西方向に3箇所管路の掘削が行われた。調査順にP-1〜3区と調査区名を付与した。P-2・3区は新規掘削であるため発掘調査と同等の調査を行い、P-1区だけは新規掘削ではなかったため立会調査での対応となった。層序はP-1〜3区で大きな差異はなく、表土・盛土の直下で灰色あるいは灰白色シルトの地山層となっている(写真136〜138)。

Q区(図50、写真139・140)

教室棟Aと共用棟との間で、既設管からわずかに逸れるため新規管路として調査し、造成土・攪乱土の直下で遺構が検出された。調査区の西端部の狭小な範囲でピット3基、土坑1基、溝1条を検出した(図50、写真139)。また、それら遺構の東側では砂礫がみられ、狭小のため判断は難しいが、河川跡であると思われる。

R区(図51、写真141・142)

教室棟Aと特別教室棟との間の渡り廊下から教室棟Aの北側にかけての配管路で、R-2区は新規掘削のため発掘調査を行った。R-1区は掘削深度70cmで盛土の範囲内であった(写真141)。R-2区は調査区の大半が攪乱を受けており、現地地表下20cmの深さで極一部でのみ地山面を確認したが、遺構・



図43 M-1区第1面平面図



図44 M-1区南半東壁土層断面柱状図



写真119 M-1区南半東壁土層断面 (西から)



写真120 M-1区第1面遺構完掘状況 (北から)



写真121 M-1区第2面遺構検出状況 (北から)

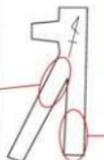


写真122 M-1区第2面遺構検出状況 (北から)

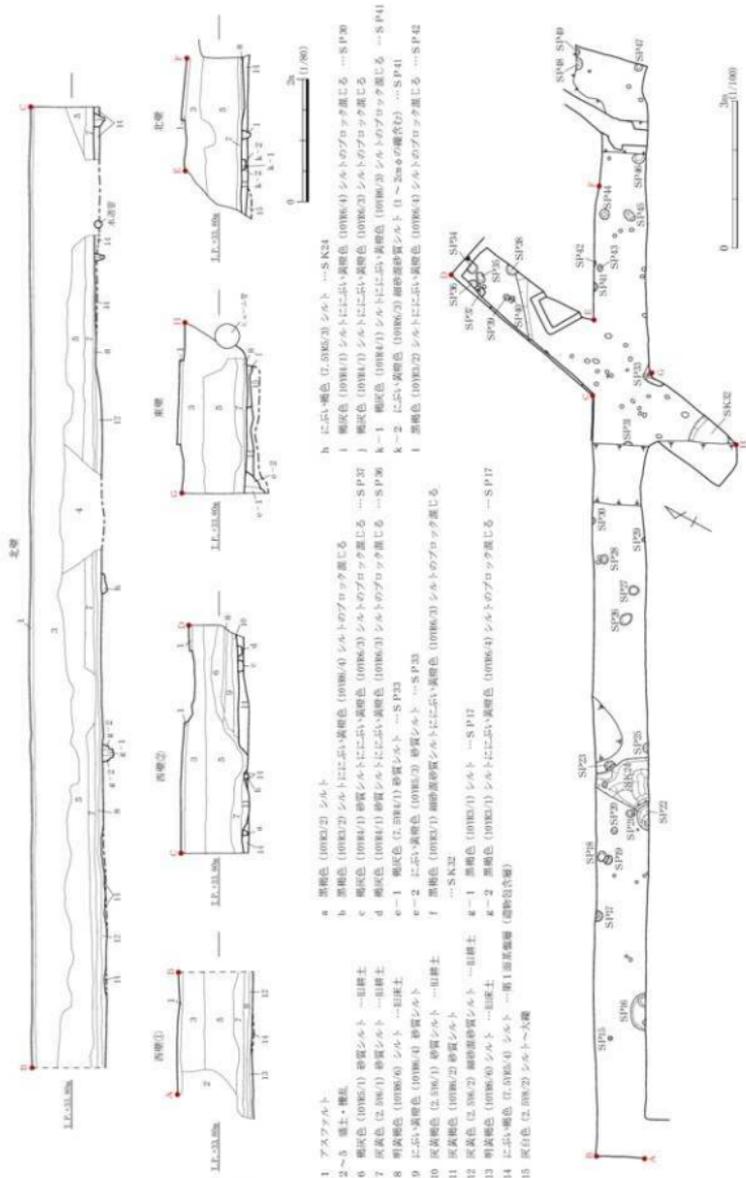


図 45 M-2区第1面平面図・断面図

- 1 アスファルト
- 2 灰白色 (10386/0) 砂質シルト → 粗砂土
- 3 灰白色 (10386/1) 砂質シルト → 粗砂土
- 4 灰白色 (10386/2) 砂質シルト → 粗砂土
- 5 灰白色 (10386/3) 砂質シルト → 粗砂土
- 6 灰白色 (10386/4) 砂質シルト → 粗砂土
- 7 灰白色 (10386/5) 砂質シルト → 粗砂土
- 8 灰白色 (10386/6) 砂質シルト → 粗砂土
- 9 灰白色 (10386/7) 砂質シルト → 粗砂土
- 10 灰白色 (10386/8) 砂質シルト → 粗砂土
- 11 灰白色 (10386/9) 砂質シルト → 粗砂土
- 12 灰白色 (10386/10) 砂質シルト → 粗砂土
- 13 灰白色 (10386/11) 砂質シルト → 粗砂土
- 14 灰白色 (10386/12) 砂質シルト → 粗砂土
- 15 灰白色 (10386/13) 砂質シルト → 粗砂土

- a 黒褐色 (10383/2) シルト
- b 黒褐色 (10383/3) シルト
- c 黒褐色 (10383/4) シルト
- d 黒褐色 (10383/5) シルト
- e-1 黒褐色 (10383/6) シルト
- e-2 黒褐色 (10383/7) シルト
- f 黒褐色 (10383/8) シルト
- g-1 黒褐色 (10383/9) シルト
- g-2 黒褐色 (10383/10) シルト
- h 黒褐色 (10383/11) シルト
- i 黒褐色 (10383/12) シルト
- k-1 黒褐色 (10383/13) シルト
- k-2 黒褐色 (10383/14) シルト
- l 黒褐色 (10383/15) シルト
- m 黒褐色 (10383/16) シルト
- n 黒褐色 (10383/17) シルト
- o 黒褐色 (10383/18) シルト
- p 黒褐色 (10383/19) シルト
- q 黒褐色 (10383/20) シルト
- r 黒褐色 (10383/21) シルト
- s 黒褐色 (10383/22) シルト
- t 黒褐色 (10383/23) シルト
- u 黒褐色 (10383/24) シルト
- v 黒褐色 (10383/25) シルト
- w 黒褐色 (10383/26) シルト
- x 黒褐色 (10383/27) シルト
- y 黒褐色 (10383/28) シルト
- z 黒褐色 (10383/29) シルト
- aa 黒褐色 (10383/30) シルト
- ab 黒褐色 (10383/31) シルト
- ac 黒褐色 (10383/32) シルト
- ad 黒褐色 (10383/33) シルト
- ae 黒褐色 (10383/34) シルト
- af 黒褐色 (10383/35) シルト
- ag 黒褐色 (10383/36) シルト
- ah 黒褐色 (10383/37) シルト
- ai 黒褐色 (10383/38) シルト
- aj 黒褐色 (10383/39) シルト
- ak 黒褐色 (10383/40) シルト
- al 黒褐色 (10383/41) シルト
- am 黒褐色 (10383/42) シルト
- an 黒褐色 (10383/43) シルト
- ao 黒褐色 (10383/44) シルト
- ap 黒褐色 (10383/45) シルト
- aq 黒褐色 (10383/46) シルト
- ar 黒褐色 (10383/47) シルト
- as 黒褐色 (10383/48) シルト
- at 黒褐色 (10383/49) シルト
- au 黒褐色 (10383/50) シルト
- av 黒褐色 (10383/51) シルト
- aw 黒褐色 (10383/52) シルト
- ax 黒褐色 (10383/53) シルト
- ay 黒褐色 (10383/54) シルト
- az 黒褐色 (10383/55) シルト
- ba 黒褐色 (10383/56) シルト
- bb 黒褐色 (10383/57) シルト
- bc 黒褐色 (10383/58) シルト
- bd 黒褐色 (10383/59) シルト
- be 黒褐色 (10383/60) シルト
- bf 黒褐色 (10383/61) シルト
- bg 黒褐色 (10383/62) シルト
- bh 黒褐色 (10383/63) シルト
- bi 黒褐色 (10383/64) シルト
- bj 黒褐色 (10383/65) シルト
- bk 黒褐色 (10383/66) シルト
- bl 黒褐色 (10383/67) シルト
- bm 黒褐色 (10383/68) シルト
- bn 黒褐色 (10383/69) シルト
- bo 黒褐色 (10383/70) シルト
- bp 黒褐色 (10383/71) シルト
- bq 黒褐色 (10383/72) シルト
- br 黒褐色 (10383/73) シルト
- bs 黒褐色 (10383/74) シルト
- bt 黒褐色 (10383/75) シルト
- bu 黒褐色 (10383/76) シルト
- bv 黒褐色 (10383/77) シルト
- bw 黒褐色 (10383/78) シルト
- bx 黒褐色 (10383/79) シルト
- by 黒褐色 (10383/80) シルト
- bz 黒褐色 (10383/81) シルト
- ca 黒褐色 (10383/82) シルト
- cb 黒褐色 (10383/83) シルト
- cc 黒褐色 (10383/84) シルト
- cd 黒褐色 (10383/85) シルト
- ce 黒褐色 (10383/86) シルト
- cf 黒褐色 (10383/87) シルト
- cg 黒褐色 (10383/88) シルト
- ch 黒褐色 (10383/89) シルト
- ci 黒褐色 (10383/90) シルト
- cj 黒褐色 (10383/91) シルト
- ck 黒褐色 (10383/92) シルト
- cl 黒褐色 (10383/93) シルト
- cm 黒褐色 (10383/94) シルト
- cn 黒褐色 (10383/95) シルト
- co 黒褐色 (10383/96) シルト
- cp 黒褐色 (10383/97) シルト
- cq 黒褐色 (10383/98) シルト
- cr 黒褐色 (10383/99) シルト
- cs 黒褐色 (10383/100) シルト



写真 123 M-2区第1面遺構検出状況
(調査区西端から10m付近まで(西から))



写真 124 M-2区第1面遺構検出状況
(調査区東端から10m付近まで(東から))



写真 125 M-2区第1面遺構検出状況(北から)



写真 126 M-2区西壁①土層断面(東から)



写真 127 M-2区北壁土層断面
(調査区西端から8m付近まで(南東から))



写真 128 M-2区北壁土層断面
(調査区東端から中央付近まで(南東から))



写真 129 M-2区東壁土層断面(北から)



写真 130 M-2区西壁②土層断面(南から)



図46 M-2区第2面平面図

写真131 M-2区第2面遺構検出状況
(東から)

写真132 M-2区第2面遺構検出状況(南から)

遺物は検出されなかった(写真142)。

S区(図52、写真143)

体育館の南東角部分で、新設スロープ設置工事のため調査を行った。調査区の大半が削平されていたが、北半の一部に遺構面が残存していた。表土・盛土の直下のT.P.+33.7mで地山面を検出し、ピット5基、土坑1基、不明遺構1基を確認した(図52、写真143)。

T区(図53、写真144・145)

共用棟の北側で、新設スロープ設置のため調査を行った。既設配管等による削平範囲が大きい。調査区の北壁際にピット1基を検出した(図53、写真144)。表土・盛土の直下で地山面を検出し、遺構検出面はT.P.+33.6mとなっている(写真145)。

U区(図54・55、写真146～151)

教室棟Bと教室棟Cの南側を通る管路で、調査の便宜上、U-1～6区に細分しており、U-1～4区は教室棟Cの南側にあり、U-5区は教室棟Bの南側、U-6区は教室棟Cから教室棟Bへつながる渡り廊下沿いにある。

U-1区の層序は、①表土・盛土、②灰色シルト(旧耕土1)、③明黄褐色シルト(旧床土)、④灰黄色シルト～細砂(旧耕土2)、⑤遺構埋土、⑥浅黄色シルト～中砂(礫多く含む)(遺物包含層)、⑦灰白色シルト～極細砂(地山層)となっており(写真146)、層厚や土質に若干の差異はあるもののU-3・4区でも概ね同じ層序で(写真148・149)、U-2区は③層がみられない堆積となっている(写真147)。U-1・3区では⑥層(現地地表下72cm)、U-2区では⑤層の上面(現地地表下67cm)から切り込むピット状の遺構が



写真133 N区a地点北壁土層断面(南から)

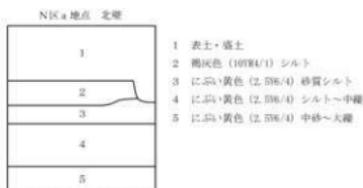


写真134 N区b地点北壁土層断面(南から)

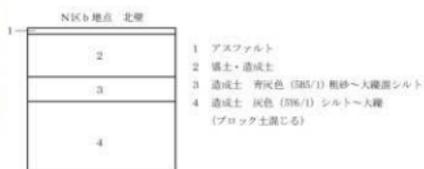


写真135 O区北西壁土層断面(南東から)



図47 N・O区土層断面柱状図

土層断面で確認された。遺構面の基盤となっている層はM区の第1面の基盤層につながるものとみられる。U-4区は大半が攪乱を受けていたが一部残存している部分があり、層序はU-1・3区とほぼ相異なかった。U-5区は現地表下59cmで旧耕土が確認でき(写真150)、U-6区は削平を受けているようで旧耕土・旧床土はみられず、現地表下75cmで黄灰色シルトの地山層となっている(写真151)。

V区(図55、写真152)

教材管理棟の東側の配管路である。掘削深度は80cmで現地表下40cmで灰白色シルトの地山層が検出されたが、遺構遺物は確認されなかった(写真152)。

(4) 遺物

調査が基本的に立会調査であったことや各調査区が狭小であったこともあり、出土遺物は多いとは言

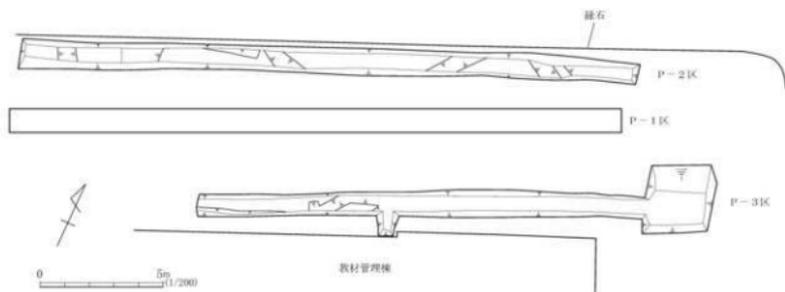


図 48 P区平面図



写真 136 P-1区南壁土層断面(北から)



写真 137 P-2区北壁土層断面(南西から)

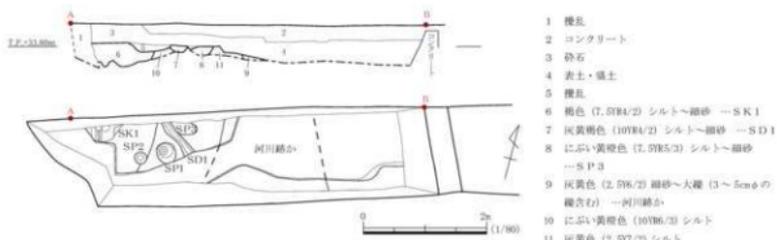


写真 138 P-3区南壁土層断面(北東から)



0 1m (1/40)

図 49 P区土層断面柱状図



- 1 雑瓦
- 2 コンクリート
- 3 砂石
- 4 表土・盛土
- 5 雑瓦
- 6 褐色 (7.5YR4/2) シルト～細砂 →SK1
- 7 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト～細砂 →SD1
- 8 にぶい黄褐色 (7.5YR5/3) シルト～細砂 →SP3
- 9 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂～大粒 (3～5cmの籾含む) →河川跡か
- 10 にぶい黄褐色 (10YR6/3) シルト
- 11 灰黄色 (2.5Y7/2) シルト

図 50 Q区西端部平面図・断面図



写真 139 Q区西端部遺構検出状況 (西から)



写真 140 Q区西端部北壁土層断面 (南西から)



写真 141 R-1区北壁土層断面 (南から)



1 表土・盛土



写真 142 R-2区北全景 (北から)



1 表土・盛土

0 5m 1/200

図 51 R区土層断面柱状図

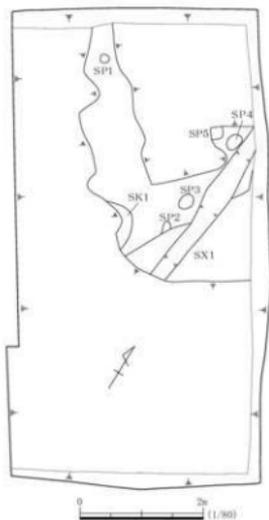
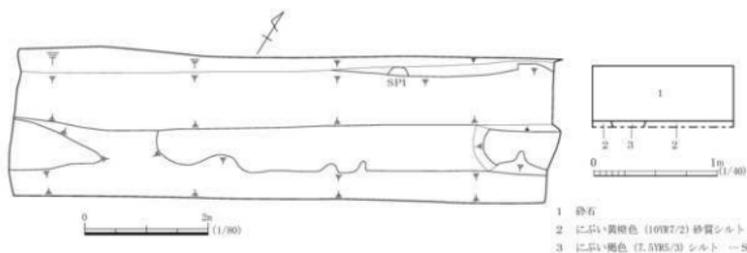


写真143 S区遺構検出状況(北から)



図52 S区平面図・土層断面柱状図



- 1 砂石
- 2 濃い黄褐色 (0.007/2) 砂質シルト
- 3 濃い褐色 (7.0/95/3) シルト -SP1

図53 T区平面図・土層断面柱状図



写真144 T区遺構検出状況(東から)



写真145 T区北壁土層断面(南東から)



写真 146 U-1区南壁土層断面(北西から)



写真 147 U-2区南壁土層断面(北から)



写真 148 U-3区北壁土層断面(南から)

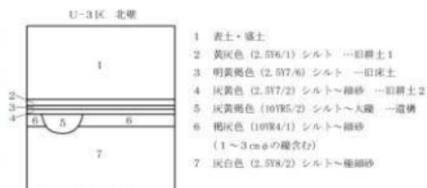


写真 149 U-4区南壁土層断面(北から)



0 1m (1/80)

図 54 U区土層断面柱状図



写真 150 U-5区北壁土層断面(南西から)



写真 151 U-6区西壁土層断面(東から)



写真 152 V区東壁土層断面(北西から)

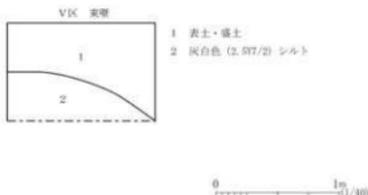


図 55 U・V区土層断面柱状図

えないが、事前に発掘調査を行ったL・M・Q区などでは、遺構や遺物包含層から出土を確認した。遺物は土師器の細片が主で、縄文土器片、弥生土器片などが出土している。

【土器】(図56、写真153、表7)

L区出土土器

L区は調査区の北半で包含層を検出し、南半では地山面および遺構を検出しており、遺物包含層からは弥生土器・土師器が出土している。遺構から出土したものは、1のSD1から出土した土師器高坏の口縁部片のみである。内外面にヨコハケのちナナメミガキが施されているのが確認できる。2は遺物包含層から出土した弥生時代終末の複合口縁壺の口縁部片である。内外面にナナメハケが残る。

M区出土土器

3～5はM-1区の第1面検出の遺構から出土したものの。3・4は器種不明の縄文土器の細片。条痕が

認められる。5は土師器の器種不明の底部片。台付鉢か。6はM-1区旧耕土・床土から出土した灯明皿。7・8はM-2区の第1面検出の遺構から出土したもの。7は器種不明の縄文土器の底部片で、外面に条痕が残る。8は器種不明の縄文土器片。条痕が残る。9はM-2区の遺構面の精査時に検出したもので土師器甕の口縁部片。

Q区出土土器

10は各遺構の形状を確認する前に全体に一つの不整形な状態で確認していた時点で出土したもので、土師器甕の体部片。外面にはハケ、内面はナデが施されている。11は機械掘削時に確認したもので土師器高坏の脚部片。12は正確には攪乱土となるが、遺構の埋土に食い込んだ状態で出土したもので土師器甕の口縁部片。

【石器】(図57、写真154、表8)

13・14はいずれもM-1区の遺物包含層から出土した黒曜石の剥片。

(5)まとめ(図58)

今回の調査は各調査区が狭小で調査成果も断片的ではあるものの、幼稚園・小学校の全域に渡って成果が得られ、調査地の遺構・遺物包含層の分布地域がさらに広がることが分かった(図58)。ここで改めて、既往調査の成果も含めて、小学校・幼稚園構内の遺跡の様相を確認していきたい。

既往の調査をみると、小学校運動場北西部では自然木・木製品が出土する溝状遺構が検出されており、その下層にも黒色粘土の遺物包含層が認められている(図58①)。また、体育器具庫・G-2区の西側にあたる場所では、黒色粘質土と砂礫層を埋土とする東西方向の溝状遺構が検出されている(図58②)。調査箇所から想定すると、G-1・2区で確認した④暗灰色粘土質シルト層(図35、写真92・93)は、おそらくこの溝状遺構の黒色粘質土層が対応するものと思われる。G-2区で確認した暗灰色粘土質シルト層は、調査区北端から10mほどのところで緩やかにあがって途切れてなくなり、礫層となる。既往の調査で検出された溝状遺構の土層断面図も緩やかな落ち込み状であり、G-2区の粘土質シルト層の肩と思われる位置とはやや隔たりがあるが、溝状遺構の肩はそれに関係するものとみてよいと思われる。

溝状遺構の埋土となる粘土質シルト層については、溝状遺構の肩部にあたると思われる箇所以外はG-2区からG-1区中央付近にかけてほぼ水平に堆積しており、G-1区の南部では層が希薄になっていく状況を確認している。溝状と表現するには南側の肩部が確認できないことから、G-1・2区周辺一帯は緩やかな落ち込み状の低湿地状態にあったのではないかと推測している。

小学校運動場の南部では古墳時代中期の方形竪穴住居跡(図58③)、弥生時代後期から庄内併行期の円形竪穴住居跡、庄内古段階の方形竪穴住居跡が検出されている(図58④)。それらに近い今回調査したB区ではピットや土坑を検出しており(図32、写真78～82)、出土遺物がなく詳細は不明であるが、住居跡に近い時期のものである可能性が高い。

小学校正門前から駐車場、教室棟C、事務棟の周辺一帯では、既往の調査において弥生時代から古墳時代の住居跡や土坑等が検出されており(図58⑤)、また、大内氏館B式土師器が出土するなど中世以降の遺構・遺物も認められている(図58⑥)。この周辺での今回の調査については、U区の土層断面において数基のピット状の遺構を確認し(図54、写真146～148)、新規掘削となるM区でも遺構・遺物を検出した(図43～46、写真119～132)。既往の調査成果の遺構平面図に陥穽があるようで不明瞭な点もあるが、当該地一帯では比較的密に遺構が分布していることが確認された。

M区では2面の遺構面を検出しており、遺物包含層から弥生土器・土師器の細片が出土していること

や、隣接する既往調査の成果から、おおよそ弥生時代から古墳時代に属する可能性が高いと思われるが、第1面検出の遺構から、細片ではあるものの、2枚貝条痕が施されている縄文土器片が出土していることは注視される。

小学校南側の五十鈴川沿いで行われた(財)山口県埋蔵文化財センターによる調査では、小学校駐車場の南側にあたる調査区で古墳時代中期の河川跡が検出されている(図58㉗)。平成元年度(1989)に小学校で行われた調査では、教室棟Bの南側の調査区において北東から南西に向かって地山が大きく落ち込んでいる状況が確認されており、位置から考えて、おそらくその河川跡に繋がるものと考えられる。なお、今回調査のU-5区も河川跡にあたると思われるが、掘削深度が旧耕土までであったため、河川跡の有無までは確認できていない。また、U-5区より北の調査区や周辺の調査区で河川跡に続くような地山の落ち込みはみられないが、これについては「構内の南西端部付近では東から西に延びる丘陵が局部的に樹手状に張り出している可能性を示唆している」と、白石遺跡一帯の地形の特徴によるものとの指摘がなされている。

その他の河川跡については、幼稚園舎の北側、特別教室棟と教室棟Aの間(図58㉘)、教室棟Aの南西隅部と教室棟Aの東側(図50)でも確認されており、幼稚園舎の北側の河川跡だけが出土遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭との時期が判明している(図58㉙)。それぞれ明確な繋がりが見出せるものではないが、各所での河川堆積を示す土層断面の記録も踏まえて、幼稚園舎北側から南西方向への流筋が想定できる。

今回の調査では、既設管や造成により削平された所が多いものの、事前に調査を行った調査区の一部では遺構や遺物包含層が確認された。また、立会対応としたところにおいても、壁断面で遺構を確認した箇所もあり、敷地内の所々で遺構の遺存が認められた。以後も掘削を伴う工事等の際には慎重に対応する必要があると思われる。

【註】

- 1) 田畑直彦(2012)「白石遺跡」, 山口市(編)『山口市史 史料編 考古・古代』, 山口 の中で示されている遺跡の範囲を参考に図58を作成
- 2) 森田孝一(1985)「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』, 山口
- 3) 木村元浩・河村吉行(1991)「教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 4) 註2に同じ
- 5) 古賀真木子・河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 6) 古賀真木子・河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 7) 横山成己(2021)「教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成28年度—』, 山口
- 8) 縄文土器については、遺構からの出土は確認されていない。幼稚園舎南側調査区で確認された河川堆積と思われる砂礫層

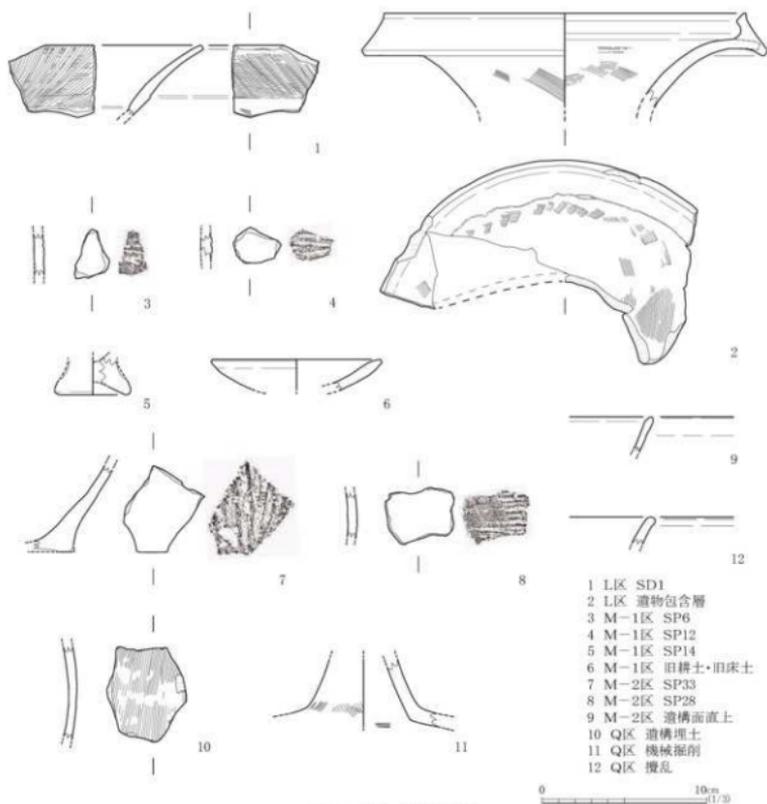


図 56 出土土器実測図



図 57 出土土器実測図

と、遺物包含層から縄文土器が出土している。

9)小南祐一(2006)『白石遺跡』,山口県埋蔵文化財センター調査報告第56集、山口県埋蔵文化財センター(編)、山口

10)註5に同じ

11)本章第3節1「教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査」を参照



写真 153 出土遺物(土器)

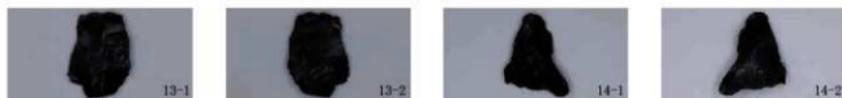


写真 154 出土遺物(石器)

表7 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底縁③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	LK SD1	土師器 高坏	口縁部	③残高4.4	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(7.5YR7/2)		0.3~0.5mmの長石含む	
2	LK 遺物包含層	弥生土器 壺	口縁部	①(22) ③残高6.0	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(7.5YR7/4)		0.5~2mmの長石・石英・くさり雜含む	
3	M-1K SP6	縄文土器 機種不明	胴部		①にぶい黄橙色(10Y17/3) ②褐色(10YR5/1)		0.5~2mmの長石・石英含む	
4	M-1K SP12	縄文土器 機種不明	胴部		①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②褐色(7.5YR6/6)		0.5~2mmの長石・石英含む	
5	M-1K SP14	土師器 機種不明	脚部	②(4.0) ③残高2.35	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)		0.5~2mmの長石・石英・チャート含む	
6	M-1K 田耕土 田床土	土師器 灯明皿	口縁部	①(10.2) ③残高1.95	①②黄褐色(2.5Y7/3)		0.3mmの長石少量含む	
7	M-2K SP3	縄文土器 機種不明	底部	③残高5.3	①灰黄褐色(10YR6/2) ②オリーブ黒色(5Y3/1)		0.5~2mmの長石・石英・チャート含む	
8	M-2K SP28	縄文土器 機種不明	胴部		①褐色(10YR5/1) ②褐色(7.5YR6/6) ③オリーブ黒色(10Y3/1)		0.5~1mmの長石含む	
9	M-2K 遺構面直上	土師器 甕	口縁部	③残高2.2	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)		0.5mmの長石含む	
10	QK 遺構埋土	土師器 甕	体部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)		0.5~1mmの長石・石英含む	
11	QK 機械掘削	土師器 高坏	脚部	③残高4.1	①②黄褐色(7.5YR7/6)		0.5~2mmの長石・チャートくさり雜含む	
12	QK 攪乱	土師器 甕	口縁部	③残高1.7	①にぶい黄褐色(10YR4/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/4) ③黒色(5Y2/1) ④にぶい黄褐色(10YR6/4)		0.5~1mmの長石・石英含む	

表8 出土遺物(石器)観察表

法量()は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm)				石材	備考
			①長さ	②幅	③厚さ	④重量		
13	M-1K 遺物包含層	剥片	①2.15	②1.4	③0.35	④1.49	黒曜石	
14	M-1K 遺物包含層	剥片	①1.5	②1.1	③0.35	④0.46	黒曜石	

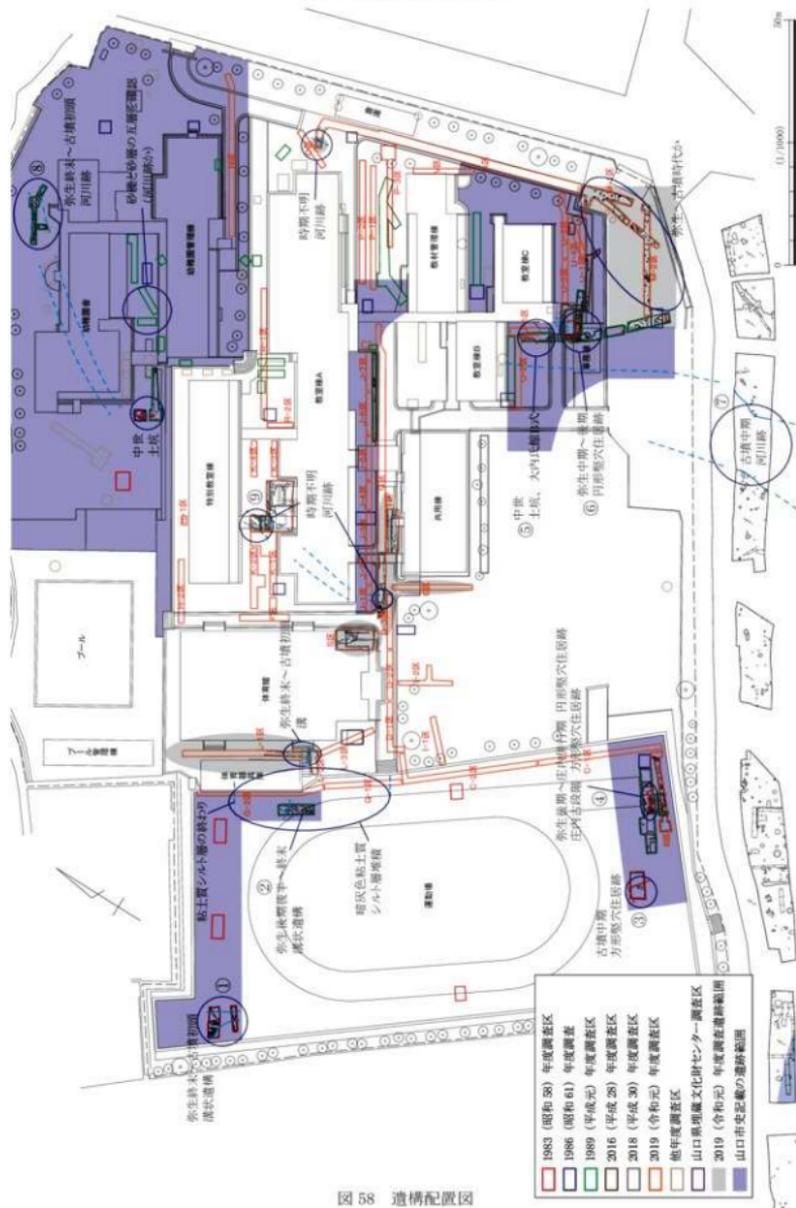


図 58 遺構配置図

3. 教育学部附属山口小学校改修に伴う仮設校舎設置工事に伴う立会調査

調査地区 共用棟A南東側運動場(臨時駐車場)

調査面積 205㎡

調査期間 令和元年8月26日、10月2日

調査担当 横山成己

調査結果

前項の通り、令和元年度に教育学部附属山口小学校の全面改修工事が実施されることとなったことから、代替教室の確保のため、共用棟Aの南東側にある運動場(臨時駐車場)に仮設校舎2棟の設置が計画された(図59のA・B区)。同地は前年に実施した鉄棒改修工事に伴う立会調査で、地下50cmまでは表土および造成土であることが確認されている。当工事での掘削は30cm以内で計画されていたが、掘削範囲が広域であることから、慎重を期し先行して実施されたA区の重機掘削時に工事立会を行ったところ、計画通り工事が実施されていることを確認した(写真155)。

仮設校舎設置後、A区北東側の設備工事に際して、部分的に深さ75cmの掘削が必要となったことから、急きょ立会調査を実施する運びとなった。

調査の結果、現地表下55cmまでが造成土で、以下に層厚7cmの旧耕土、層厚8cmの旧床土、そして層厚5cm以上の黄灰色シルト層を確認した(図60、写真156)。黄灰色シルト層中に遺物は認められなかったが、遺物包含層の可能性もあり注意が必要である。

【注】

- 1) 横山成己(2022)「教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修工事に伴う立会調査」、山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成29・30年度—』、山口



図60 C区土層断面柱状図

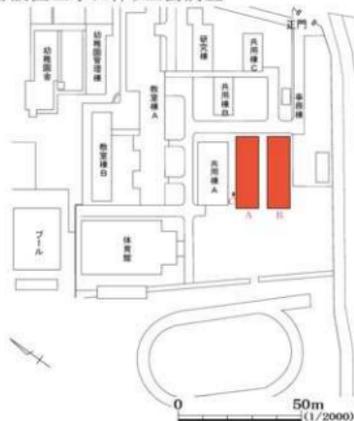


図59 調査区位置図



写真155 A区掘削状況(北東から)



写真156 C区北西壁土層断面(南東から)

4. 教育学部附属山口小学校基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査



図 61 調査区位置図



写真 157 掘削地点(南から)



写真 158 北東壁土層断面(南西から)



図 62 土層断面柱状図

調査地区 事務棟南西側門

調査面積 0.54㎡

調査期間 令和元年6月27日

調査担当 横山成己

調査結果

平成30年(2018)6月18日に震度6弱を観測した大阪北部地震では、ブロック塀の倒壊により2名の犠牲者が生じた。この痛ましい事故を受けて、全国規模でブロック塀安全調査が実施され、基準を満たさない塀の撤去改修が順次行われることとなった。本学でも、事故直後から調査が進められ、平成30年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(11月22日(木)開催)にて、全構内におけるブロック塀改修工事計画に対する埋蔵文化財保護対応が諮られ、新規に地下の掘削を伴う工事に対しては、立会調査にて対応することが諮られ、承認された。工事は平成30年度後半から実施されており、吉田構内および光構内での調査結果はすでに報告済みである。

白石構内教育学部附属山口小学校・幼稚園敷地では、令和元年度に至り着手されることになった。計画された工事は2箇所で、構内南西側運動場(トラック)北西隅のブロック塀については、上部構造物の撤去のみ行う計画であったことから、新規でフェンス基礎が設けられる事務局棟南西側工事地点にて立会調査を実施した。工事掘削深度は40cmで、造成土内に止まったことから埋蔵文化財に支障は生じなかった。

【注】

- 1) 横山成己(2022)「基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成29・30年度-』, 山口
- 田畑直彦(2022)「基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成29・30年度-』, 山口

付節1 令和元年度 山口大学構内遺跡調査要項

山口大学大学情報機構規則

平成15年2月18日規則第 11号

改正

平成16年4月1日規則第139号 平成18年3月14日規則第 27号

平成19年2月13日規則第 7号 平成21年4月20日規則第 50号

平成24年3月13日規則第 32号 平成27年3月10日規則第167号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大学情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

- (1) 図書館
- (2) メディア基盤センター
- (3) 埋蔵文化財資料館

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第3条 機構は、次の業務を行う。

(1) 大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。

(2) 大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。

(3) 情報セキュリティの施策及び実施に関すること。

(4) その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2 前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設、時間学研究所及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

(運営委員会)

第4条 機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機構長)

第5条 機構に機構長を置き、学術情報を担当する副学長をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を総括する。

(副機構長)

第6条 機構に副機構長を置き、本法人の教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐する。

3 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を相えることはできない。

4 副機構長に欠員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする。

(大学教育職員)

第7条 機構に、大学教育職員を置く。

2 大学教育職員の選考は、運営委員会の意見を聴いて、学長が行う。

3 大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8条 機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月20日から施行し、この規則による改正後の山口大学大学情報機構規則の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日規則第148号

改正

平成17年3月24日規則第52号

平成18年3月29日規則第54号

平成21年4月20日規則第50号

平成22年2月26日規則第10号

平成22年3月30日規則第42号

平成27年3月24日規則第172号

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構規則(平成16年規則第139号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

(業務)

第3条 資料館は、次の業務を行う。

- (1) 本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究
- (2) 本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の発行
- (3) その他埋蔵文化財に関する必要な業務

(職員)

第4条 資料館に、次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 副館長
- (3) 資料館所属の大学教育職員
- (4) その他必要な職員

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の意見を聴いて、館長が委嘱する。

(館長)

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の教授又は准教授

のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の意見を聴いて、大学情報機構長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に関し、館長を助けるものとする。

(事務)

第7条 資料館に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月20日から施行し、この規則による改正後の山口大学埋蔵文化財資料館規則の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、山口大学大学情報機構運営委員会規則(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に関し、次の事項について審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 整備充実に関する事項
- (3) 予算に関する事項
- (4) その他資料館に関し必要な事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (4) 副館長
- (5) 資料館所属の専任大学教育職員
- (6) 考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員
- (7) メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名
- (8) 施設環境部長
- (9) 情報環境部長
- (10) 情報環境部学術情報課長
- (11) 資料館所属の専任技術職員
- (12) 基盤調査地に関連のある部局の事務部の長

(任期)

第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、

委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間

とする。

(委員長)

第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、副館長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 専門委員会が必要と認めるときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。

(部会等)

第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。

2 部会等に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。

(事務)

第8条 専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年6月15日から施行し、この規則による改正後の山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成30年5月11日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

令和元年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 根ヶ山 徹 (大学情報機構長・館長・人文学部教授)

委員 多田村 克己 (大学情報機構副機構長・創成科学研究科教授)

藤間 充 (副館長 農学部准教授)

村田 裕一 (人文学部准教授)

江口 毅 (メディア基盤センター助教)

高野 潔 (施設環境部長)

欠員 (情報環境部長)

田中 俊二 (情報環境部学術情報課長)

田畑 直彦 (埋蔵文化財資料館助教)

横山 成己 (埋蔵文化財資料館助教)

水久保 祥子 (埋蔵文化財資料館技術職員)

付節2 山口大学構内の主な調査

表9 山口大学構内の主な調査一覧表

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壁・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠則	年報 11・12
	第II地区家畜病院新営	R-20~21 S-T-19~20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	# #	# #	年報 3
	第III地区		3			弥生土器、土師器	試掘	#	①
	第IV地区牛舎新営	S-T-10・11	4	300	弥生溝・土壁、古墳型穴住居、中世住居跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	年報 14
	第IV地区		5				試掘	#	
昭和42年	第III地区杭列区および野上競技場	D-19~20 E-17・19~21 F-17・18	6	1,600	杭列、弥生型穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢筈柱木柱	事前	#	①
	第III地区南区	G-21~23 H-22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	# #	# #	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20~21	8	1,400	型穴住居、溝、土壁、柱穴		# #	# #	
	第III地区東南区	G-23 H-23~24 I-J-24 K-23~24 L-23	9		弥生型穴住居	弥生土器	# #	# #	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	#	
	第V地区学生食堂	J-20 N-14 P-18	11		弥生溝、古墳土壁	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壁	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査団	
	第I地区CC区大学本部新営	K・L-14	13	600	型穴住居、溝、土壁	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	#	
	昭和44年	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大溝	弥生土器、木炭屑	# #	
第I地区D区第2地点		L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鏡	# #	# #	
第I地区D区第3地点		M-13・14	16		土壁、柱穴	弥生土器、瓦質土器	# #	# #	
第I地区D区第4地点		M・N-14	17		土壁、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石鏡	# #	# #	
第I地区D区第5地点		L-12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	# #	# #	
第I地区D区第6地点		M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	# #	# #	
第I地区D区第7地点		M・N-13	20			須恵器	# #	# #	
第I地区E区第2学生食堂新営		M・N-14・15 O-15	21	900	古墳型穴住居、土壁、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	#	年報 X II X VII
昭和50年	第II地区					弥生土器	試掘	#	①
昭和51年	第III地区				型穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	# #	# #	
昭和53年	人文学部校舎新営	M・N-21	22	160			#	調査担当 岩藤嘉一	年報 X
昭和54年	教育学部附属養護学校新営	A-20~21 B-19~20 C-19	23	410	溝、土壁	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学理蔵 文化財資料館 山口市 教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新営	N・O-19~20	24	250			#	#	年報 X
	農学部動物舎新営	P-19	25	380			#	#	年報 X
	本部管理棟新営	L-14	26	740	溝、土壁、柱穴、中世井戸、土壁墓、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前	#	年報 VII
昭和55年	経済学部校舎新営	K-21	27	66			試掘	#	
	農学部農業観測実験施設新営	P-Q-15	28	50	溝、土壁		事前	#	年報 X
	本部環境整備	E-14~16 F-15~16	29				立会	#	

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N-11 O-10-11 P-9-10	30				#		年報 X
昭和56年	教育学部校舎新営	H-19	31		弥生型穴住居、土壇、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		年報 I
	教育学部音楽棟新営	H-16	32		溝		#		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新営	J・K-19-20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	#		
	正門橋脚新営	I-11	34					立会	
	時計塔増設	I-14	35				#		
	本部構内擁壁取設	K-L-13-14 J-17	36				#		
	教養部構内擁壁取設	I-15-17 J-17	37				#	工法等変更	
	構内循環道路舗装	J~M-15 M-N-16	38				#		
	農学部中庭整備	N-O-17	39				#		
	暖房施設改修	O-16	40				#	工法等変更	
学生部文化会車庫新営	M-8-9	41				#	工法等変更		
学生部馬場整備	M-N-8-9	42				#			
昭和57年	附風岡書館増築	L・M-16	43	600	弥生～古墳溝、土壇、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		年報 II
	大学会館新営	M・N-14+15	44	130	弥生型穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校プール新営	A・B-21	45	880				立会	
	放射性同位元素総合実験室排水渠新営	O-18	46	2			#		
	教養部自転車置場耳隠し新営	L-17	47	10			#		
	教養部中庭環境整備	J・K-16	48	150			#		
昭和58年	大学会館新営	M・N-12+13	49	2,000	古墳井戸、土壇、柱穴、中世井戸、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、緑釉陶器、木簡、石器	事前		年報 III
	ラグビー場防球ネット新営	G-18-19 H-19-20	50	114	弥生溝、弥生～古墳型穴住居、土壇	弥生土器、土師器、石製品	#	型穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学校舎新営	M・N-20	51	409				立会	
	正門・南門二輪車置場および正門花壇新営	I・J-12+13 H-23	52	183			#		
	学生部アーチェリー場の台・電柱設置	N-8-9	53	33			#		
	学生部観音整備	M-7-8	54	1.6			#		
	学生部野球場散水栓取設	I-21 K-22	55	1				立会	
	教養部環境整備	I-15-16 J-15 K-17-18 L-18	56	81			#		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15-16 F-16	57	12			#		
	昭和59年	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土壇、柱穴	弥生土器	事前	
大学会館排水管布設		J~L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壇、古代～中世土壇、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	#		
学生部テニスコートファンシ改修		B-17 C-16-17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
経済学部樹木移植		K-19-21	61	8				立会	
昭和60年	大学会館環境整備	L-14-15 M・N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生型穴住居、貯蔵穴、土壇、古代～近世土壇、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鉄器、雷撃	試掘		年報 V
	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5				立会	
	農学部附属農場飼料園排水溝修復整備	R-17～19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、轆口、石器、鉄序	#		
	農学部附属農場農道改修	V-15～17	65	325			#		
	教育学部前庭環境整備(樹木移植)	I・J-19	66	430			#		
中央ボイラー棟車止設置	O・P-16	67	2.5			須恵器	#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	学生会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鏡、磁石、鉄滓	#		年報 V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(緑地設置)	N-21	71	4			#		
	農学部附属富家畜病院舗装	S-T-19	72	270			#		
昭和61年	国際交流会館新営	M-22・23 N-22	73	70	弥生～古墳(河川跡)中世～近世遺	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鉄組玉、加工意のある銅片	試掘		年報 VI
	山口銀行現金自動支払機設置(電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡小)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T-U-19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	#	工法変更	
	農学部附属農場農道交通規制(施設ポール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			#		
	正門横(水田内)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層小		#		
	経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		
昭和61年	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		年報 VI
	市道神郷1号線および周田神郷線の排水管理	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I-J-K-24 L-23・24 M-N-23 O-22・23 P-Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W-X-18	80	2,100	古墳・弥生溝、古代河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、須恵器(墨書のあるもの含む)瓦質土器、製塩土器、石斧、板石	立会	山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	教養部自動販売機埋設(屋根設置および観覧席移動)	K-L-18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用スロープ取設	L-15・16	81	3			#		
	経済学部散水線取設	L-20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場水道管理	S-12	85	3			#		
	吉田構内汚水排水管等総改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ取設	L-14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用スロープ取設	K-18～20 L-18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用スロープ取設	L-16	89	8		弥生土器	#		
	教養部37番教室改修	K-16	90	1			#		
	教育学部附属教育実践研究指導センター新営	J-K-18・19	91	240		プランク、銅器、植物遺体	事前		
	教養部複合棟新営	J-K-17	92	35	埋蔵土溝、溝、柱穴	土師器、須恵器、土師質土器、石斧	試掘		
教養部複合棟新営	I-J-16	93	30	現状遺構	弥生土器	立会			

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J・K-17・18	94	900	溝し穴、河川跡、 塹穴住居、土壇、溝、 井戸、埋壊土壇、 掘立柱建物跡、 谷状遺構、柱穴	縄文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、 陶磁器、石鏡、石斧、 木製品	事前		年報 Ⅵ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育 委員会 山口大学理論 文化財資料課	
	国際交流会館新営	M・N-22・23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校 自転車庫場移設	B-20	97	1			#		
	農学部附属農場付園場 排水管理設及び 玉圃場遊人路拡幅	L~N-12	98	55	中世土壇基か	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁、 国産磁器、磁石	#		
	農学部種枝	N-17	99	3			#		
	経済学部集水樹取設	J-20	100	0.5			#		
昭和63年	教養部複合棟新営に伴う 自転車庫場移設	I-16	101	1	包含層か		立会		年報 Ⅶ
	国際交流会館新営に伴う 排水管理設	N・O-22	102	35	河川跡(溝か)、 包含層	弥生土器、須恵器	#		
	教養部複合棟新営に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
	サッカーグラウンド改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#		
	消防用水設置	K~M-22	105	7.5			#		
平成元年	水銀灯新営	J・L-15	106	4	古墳溝状遺構柱穴	弥生土器、土師器、 六連式数珠土器	事前		年報 Ⅷ
	庭野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J・K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			#		
	体育施設系給水管改修	G・H-16	111	50		陶器	#	工法等変更	
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー種 地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、須恵器、 土師質土器、陶器、 剥片、 二次加工のある剥片	#		
	第2武道場排水溝新営	G-15	114	2	溝		#		
	案内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
平成2年	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		年報 Ⅸ
	大学会館前庭園整備	N-14・15	117	35	中世溝		#		
	大学会館前庭園整備	M-15	118	2			#		
	第1学生食堂設備改修	I・J-19	119	7			#		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E-20	120	1			#		
平成3年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	121	76	縄文河川	縄文土器、石器	試掘		年報 Ⅹ I
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室 土の他機修繕機械設備改修	P-17	123	8			#		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	124	2			#		
	サークル棟新営	F-14	125	1			#		
平成4年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	126	980	縄文河川	縄文土器、石器	事前		年報 Ⅹ II
	交通規制標識及びモニター設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路 (南門ロータリー) 取設	H-23	128	40			#		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			#		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	131	3			#		
	泉町平川線緊急地方道路整備工事 及び山口大学吉田団地 環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
泉町平川線緊急地方道路整備 (信号機設置)	I-11	133	7			#			
平成5年	本部裏給水管管理設	K~M-13	134	70	溝、柱穴	弥生土器、土師器、 滑石製埴造品	事前		年報 Ⅹ III
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
平成 5年	第2階内運動場新築	G・H-16	136	144	溝	弥生土器、須恵器、 砥石	#		年報 XIII
	農学部給水管理設	N~P-18	137	9					
	基幹整備 (屋外給水管改修)	L-15 M-17・18	138	16				立会	
	農学部産学連携医学科棟新築 電気設備	O-16	139	4				#	
	大学会館前庭パヴィー設置	N-14	140	1				#	
	大学会館前庭記念植樹	L-15	141	1.6				#	
	九田川河川局部改良	C-16 D-15・16	142	40				#	
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2				#	
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10				#	
	教育学部給水管理設	H・J-19	145	15				#	
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13~15 N-14・15	146	140.9				#	
	環境整備(遺跡保存地区)	H-20 I-19~21 J-20・21	147	361				#	
	環境整備(正門周辺)	G-13 H-12	148	350				#	
平成 6年	グラウンド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18・22 H-19・20 I-21	149	600	縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生~ 古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、 土師器、ガラス小玉、 砥石、磨石、磁石	事前	工法等変更	年報 XIV
	第2階内運動場新築	G・I-15・16	150	726	弥生~古代溝、 貯蔵穴、土坑、 近世溝、土坑	弥生土器、土師器、 須恵器、砥石、磨石、 磁石、剥片、須恵器、 瓦質土器、土師質土器、 陶器、磁器、瓦、下駄			
	グラウンド屋外照明施設配線理設	F-21 G-20・21 H-19・20	151	200	縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生~ 古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、 土師器、ガラス小玉、 砥石、磨石、磁石	#	工法等変更	
	経済学部商品資料館新築	K・L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験施設処理施設棟新築	H-12・13	153	2	河川				
	体育器具庫及び便所新築	G・H-17	154	60	河川			工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22・23	155	5				立会	
	人文学部前駐車場整備	K-23 L-22・23	156	6				#	
	教育学部附属風養護学校 生活排水管改修	F-19	157	2				#	
	テニスコート改修	B-17 C-16・18 D-15~17 E-15・16	158	15				#	
	教育学部附属風養護学校 生活訓練施設棟新築	B-20~22 C-20	159	16				#	
	陸上競技場整備(透水管理設)	C-18 D-18・19	160	200				#	
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K-22	161	30				#	
	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3				立会	
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か			#	
	九田川河川局部改良	D-15 E-14・15	164	100				#	
	第2階内運動場電柱仮設	G-14・15	165	0.5				#	
	教養部水道管破損修理	I-16	166	2				#	
	グラウンド屋外照明施設配線理設	E-20 F-20~21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150				#	
	公共下水道接続 (教育学部附属風養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4				#	
サークル棟給水管理設	F-14	169	1				#		
プール新営給水管理設	E-15 F-15・16	170	10				#		
公共下水道接続 (汚水管直水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器		#		
教育学部スロープ設置(音楽棟)	H-17	172	10				#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成7年	農学部実験研究施設新営	Q-R-17	173	86	中世井戸、近世溝	土師器、須恵器、瓦質土器	試掘		
	農学部実験研究施設新営	Q-R-17	174	514.5	近世溝	石片、須恵器、磁器、瓦質土器	事前		
	公共下水道布設	C-D-18 E-16 G-14	175	72.5	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道布設	C-D-18 E-16 F-10 F-10-15 G-14	176	344.9	土坑、河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新営	S-10	177	23.6			試掘		
	湯宿舎改修	O-22	178	23.5	包含層、河川	縄文土器、須恵器	試掘		
	第2学生食堂増築	N-O-15	179	52.8	柱穴、包含層	須恵器、石礫	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設新設	G-16	180	1.3			立会		
	機能分析センター新営工事用電柱仮設	O-19~22 P-20	181	1			#		年報 XV
	農学部附属薬学病院バリア新設	R-19	182	0.2			#		
	古田寮可燃ゴミ置場新設	N-10	183	6			#		
	農学部実験研究施設電気・情報通信ケーブル及びガス・給排水管布設	N-O-P-Q-18 P-Q-17	184	380.6			縄文土器、須恵器、土師器、瓦質土器、銅片	#	
	情報処理センタースロープ新設	O-19	185	26.1			#		
基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設)	E-19-2 F-10-9 H-11-28 I-11-28 I-12-27	186	276.3			弥生土器、土師器、須恵器	#		
基幹環境整備(外灯新設)	J-20 K-19 M-10-11 N-12 N-21-22 O-19~22 P-18-19 Q-17-18	187	15.2			#			
平成8年	基幹環境整備(地舎宿舎・国際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H-21-22	189	306	河川		縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘	
	農学部附属農場排水管布設	S-10-11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技部執務取設	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R-11	192	2.2			#		
	種野寮バリア新設	O-20-21	193	7			#		
	サッカー場給水管取替	H-19-20 I-19	194	12	包含層		#		年報 XVI
	基幹環境整備(共通教育センタースロープ・メタラス新設)	J-K-17	195	14.3	河川		縄文土器、須恵器	#	
	九田川河川局部改良	E-14	196	18			#		
	農学部附属農場道路舗装	K-12-13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	#		
	本部廊排水管取替	K-14	198	2			#		
	農学部附属農場薬学病院患舎舎固厚取設	S-T-19	199	1			#		
	平成9年	農学部附属農場堆肥舎新営	S-10	200	41.5			試掘	
農学部バイオ環境制御施設新営		Q-15-16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製瓦土器、石礫	試掘		
カーブミラー新設		M-11 N-21	202	0.8			立会		
基幹環境整備(外灯新設)		J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		#		年報 XVII
共通教育棟エレベーター新設		K-16	204	42			#		
九田川河川局部改良		E-14	205	48			#		
本部2号館西側バリア新設		L-13	206	0.5			#		
教育学部附属養護学校時計塔新設		D-21	207	1.4	包含層	土師器	#		
基幹環境整備(教育学部附属養護学校排水管取替)		C-D-21	208	17	河川		#		
基幹環境整備(遊歩場裏表土すきとり)		O-16	209	40			#		
平成10年	第2学生食堂の増築及び改修	N-O-15	210	967.2	繩立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石礫、鉄製品	事前 立会		年報 XVII
	教育学部附属養護学校給食室改修	C-21	211	12.3	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	九田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212	60			立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	造構	造物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(バリアー新設)	H-15・I-20 O-16・18 L-22	213	3.4			#		年報 XVII
	農学部動物用鏡却炉改修	Q-18	214	53			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17~19 M・N-18	215	4			#		
	理学部スロープ新設	M-18	216	16			#		
平成11年	ステップ回転モニュメント新設	M-13・14	217	27.6			#		年報 XIV
	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O-14~16	218	6.6	包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	#		
	九田川河川局部改良	F・G-13 G・H-12	219	222			#		
	第2学生食堂北西棟壁新設	N-14	220	43			#		
	サッカー場南側防球ネット新設	G・H-22	221	3.2			#		
	第1体育館・共通教育本部スロープ新設	H-15 R-16	222	201.1			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-12 K-L-18 L-15 M・N-17	223	4		須恵器	#		
平成12年	総合研究棟新築	Q-18 R-17~19	224	268	河川	土師器、須恵器	試掘		年報 XX
	総合研究棟新築	Q・R-18・19 S-20	225	808	河川、土坑	縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器、石蔵	事前立会		
	飯倉及び周切施設改修	M-8	226	3.6			立会		
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15・16 Q-14・15・18・19 R-13・14 R・S-19 S-14	227	268	包含層		#		
	九田川河川局部改良	H-11・12 I-10・11 J-9・10 K-L-9	228	616			#		
	山口合同ガスガバナ―新設及びガス配管布設	O・P-22	229	313			#		
	基幹環境整備(バリアー新設)	N-22 M-10 V-17	230	0.4			#		
	おずまや新設	L-18	231	5			#		
	共通教育センター空調設備新設	J-16	232	1.4			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K-21 M-10	233	2			#		
平成13年	経済学部校舎改修(プレハブ校舎新築)	K-21	234	40	河川	縄文土器、土師器、須恵器	試掘		年報 XXI
	九田川河川局部改良(平成12年度工事追加分)	K-9 L-8・9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新築(屋外配管布設)	P・Q-18	236	60			#		
	理学部改修1期(屋外配管布設)	M-18~20 N-19~21 O-19	237	76			#		
	九田川河川局部改良	L-8	238	96			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-14・15 J-15 M-15 N-16 Q-17・19 R-17・19 S・T・U・V-17	239	15.4	河川		新設		
	理学部校舎改修2期(ポンプ室配管布設)	M-19	240	11			#		
	理学部校舎改修3期(自転車庫・覆り廊下屋根新設)	M・N-20	241	196			#		
平成14年	第1学生食堂5-1改修	I・J-19	242	6			#		年報 XXII
	経済学部校舎改修(プレハブ校舎配管布設)	L-21	243	10			#		
	農学部校舎改修(解部実習棟プレハブ校舎新築)	R・S-19	244	520	縦立柱建物、柱穴、土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨土器)、製塩土器、緑釉陶器、瓦、轆口、鉋尾、瀬石	事前		
	農学部附属農場実験圃場整地	O-14	245				立会		
	農学部校舎他改修	N~Q-17・18	246		河川	縄文土器	#		
理学部改修3期工事(薬品庫提示板・自転車庫場新設)	N・O-19 M-19・20	247				#			

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	造構	造物	調査 区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新設	N-21	248				#		
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	249		河川、包含層		#		
	教育学部トレ改修	I-18	250				#		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩処理	O・P-16 Q-15	251	12	河川			立会	
	教育学部附属農業専門学校給食調理員 専用トレ新設	C-21	252	1.7			#		
	農学部環境観測実験棟南側温室	F・Q-15	253	52			#		
	理学部中庭通路屋根新設	N-19	254	5.8			#		
	理学部中庭あずまや新設	N-20	255	6.8			#		
平成17年	基幹環境整備(外灯)	F-16, H-14 G-13~15, 18 I-16, 19 J-19, L-12 Q-15	256	11.5	河川		#		
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J-K-16	257	130	ビツト、河川	赤生土器、土師器	予備		
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I・J-K-16 H-12, E-20	258	580	ビツト、河川	赤生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本・ドイツ学会 木田土壌の断面調査	R-16	259	3.1	河川		#		
	基幹環境整備(外灯)取設	H-17, 22, 23	260	7.7			#		
平成18年	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L-16, K-17 J-16-17	261	92	ビツト、溝、河川	赤生土器、土師器 石器	予備		
	農学部附属富家畜病院改修Ⅰ期	S-20	262	36	包含層・谷	土師器・須恵器 製塩土器	予備		
	農学部附属富家畜病院改修Ⅰ期	S-20	263	225	独立柱建物跡、溝、土壌	土師器、須恵器 緑釉陶器、木製品(柱状)	本		
	農学部附属富家畜病院改修Ⅰ期	S-20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L-16	265	84	ビツト、河川、杭列	縄文土器、赤生土器 土師器	立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J・K・L-16 I・J・K・L-17	266	480	ビツト、河川、溝	赤生土器、土師器 打製石斧、柱材	本		
	資料館(東亜経済研究所)新設	L・20-21	267	100	土壌、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I-16	268	29			立会		
	第一学生食堂改修	J-20	269	75			#		
	図書館前広場環境整備	L-17, 18	270	55			#		
平成19年	プレハブ校舎新設	F-14, 15, G-15	271	400			#		
	人文学部外灯用電源取設	M-20	272	6			#		
	テニスコートフェンス改修	B・C-17, C-18	273	10	河川、包含層		#		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ 期	T-20	274	48	土壌、ビツト	土師器・須恵器 瓦質土器	本		
	駐車場整備工事	J-21	275	10			立会		
	資料館(東亜経済研究所)新設	L・20-21	276	550			#		
	第一事務局庁舎改修	L-15	277	5			#		
	吉田寮配水管取設	M-11	278	11			#		
	農学部附属農場内電源取設	Q-15, S-18	279	0.5	ビツト	須恵器	#		
	経済学部研究棟改修工事	L-M-19	280	26	河川、落ち込み		予備		
平成20年	新教育研究棟新設	M・N-11・12	281	473	谷、ビツト、溝	赤生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	#		
	新教育研究棟設備関連工事	L-12~14 M-12-13	282	313	ビツト、溝、土壌	土師器、須恵器 緑釉陶器、白磁、青磁 因楽陶器、砥石	本		
	新教育研究棟新設	M・N-11・12	283	1,333	独立柱建物、ビツト 溝、土壌、井戸、谷	縄文土器、赤生土器 土師器、須恵器、青磁 緑釉陶器、瓦質土器 木製品	#		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ 期	T-19 S-20	284	250	独立柱建物、ビツト 溝、谷	赤生土器、土師器 須恵器、製塩土器 青磁、瓦質土器 木製品	#		
	国際交流会館B棟改修工事	N・O-22 N-23	285	457	河川		立会		
	サッカーグラウンド防球ネット取設	H-21-22 1-21	286	8.5	河川、ビツト		#		
	正門改修等工事	L-13 M-12+13	287	174	ビツト、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	#		
教育実践センター湖リファレンス取設	K-19	288	2	土壌	縄文土器	#			
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新設	K-21	289	117	溝、河川	赤生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	造構	造物	調査区分	備考	文献
平成21年	野球場防球ネット取設置	H-23 F-24 K-24	290	40	ビッド、溝、包含層	養生土器、礎石	予備		
	教育学部研究実験A棟改修	H-0-07-18 D-K-24	291	35.3			#		
	里山整備工事	Q-10 O-P-Q-11	292	36.9			#		
	新教育研究棟新築	L-12 P-M T-12	293	340.5			立会		
	ビオトープ周辺雨水配水管取設	H-12	294	60			#		
	仮設高圧引込工事	L-M-10-11	295	7			#		
	ため池整備工事	S-8	296	130			#		
	基幹整備(給水管改修)	J-14-15	297	156	包含層		#		
	事務局外灯設置	J-14	298	1			#		
	第1本館庁舎東駐車庫カーポート設置	L-14	299	1.2	ビッド		#		
	基幹・環境整備(第1体育館周辺排水整備)	H-13	300	300			#		
	男子学生食堂側丘陵及び寄復田	N-8 O-8-9	301	700			#		
	人文学部外灯設置	N-21	302	10			#		
	人文学部西側アプローチ改修	M-20	303	750			#		
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K-18	304	40	包含層、河川		#		
	理学部ノーラー外灯設置	O-20	305	0.3			#		
	農学部インターロッキング設置	P-17	306	9			#		
	農学部附属動物医療センター改修工期	S-19-20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	#		
	農学部附属風農圃水田暗渠排水	Q-15-16 R-15 S-15 T-15 U-15 V-15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	#		
	農学部植物工場新築	P-15	309	98	包含層	土師器、須恵器	#		
	男子学生食堂新築	M-10-11	310	1350			#		
ラビー場排水整備	E-20 F-21	311	58.6			#			
アーチェリー場整備工事	N-7-8 O-7-8	312	750			#			
テニスコート改修	C-17 D-16-17	313	48.3			#			
共通教育講義棟改修	L-17	314	11.6			#			
石実習場整備その他	N-O-P-8 Q-9	315	29			#			
平成22年	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H-1-J-18	316	80	落ち込み、溝	養生土器	予備 立会		
	音楽サークル棟新築工事	G-14	317	13.5			予備		
	教育学部研究実験棟C棟改修工事	G-18	318	22			立会		
	吉田寮改修工事	L-M-9	319	1,820			#		
	基幹整備(給水管改修)工事	Q-18	320	13.6	河川		#		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13	321	8			#		
	事務局2号館車寄せ取設工事	L-14	322	3.6	土壌		#		
	里山遊歩道手摺り取設工事	N-O-14	323	15.2			#		
	人文学部紅輪場外灯設置工事	M-22	324	13.6			#		
	教育学部附属特別支援学校構内雨水排水補修工事	C-D-21	325	18	包含層、河川		#		
平成23年	農学部附属農業実習圃開闢新設工事	R-S-19	326	10	ビッド、溝、土壌		#		
	特高受変電設備棟新築工事	P-Q-16 R-S-T-U-V-17	327	380	ビッド、杭列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石鏡	本 立会		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13-14	328	72			立会		
	埋蔵文化財資料館スロープ取設工事	N-16	329	48			#		
	第2学生食堂西側	M-15	330	8			#		
	テーブルベンチ取設工事	P-15	331	224	ビッド		#		
	農学部植物工場新設工事	P-15	331	224	ビッド		#		
	農学部連合獣医学科棟倉庫撤去・新設工事	O-17	332	75			#		
	教育学部附属特別支援学校散水栓増設工事	C-D-21	333	16.8			#		
	平成24年	図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事	M-16	334	172	河川、杭列	縄文土器、養生土器 土師器、須恵器 緑釉陶器、製塩土器 石器、木器、時形丸粘	本	
産業動物実験施設新築工事		S-T-10	335	45			予備		
理野寮新築工事		O-21-P-22	336	48	溝	須恵器	予備		
第1学生食堂増築工事		I-19-20 J-20	337	66.1	河川、ビッド	養生土器、土師器	予備		
陸上競技場トラック排水溝改修工事		D-17~19 E-17-19 F-16~19 G-16~18	338	495	河川、溝		立会		
人文・理学部管理棟EV設置工事		M-20	339	42.75			#		
農場本館事務室等改修機械設備工事		R-S-13	340	27			#		
図書館改修その他工事(産産物プール設置)		K-10	341	25			#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	M・N-22	342	15			立会		年報10
平成25年	獣医学国際教育研究センター棟新築工事	P・Q-17	343	608	縄文時代河川	縄文土器	本		年報11
	第1武道場前覆改修その他工事	F・G-16 G-17	344	692	弥生古墳時代河川遺土、土壁	弥生土器、土師器、右衛門製網代編み製品	#		
	第1武道場前覆改修その他工事	H-15	345	1			立会		
	農産本館研究・実験室改修工事	S-13	346	4			#		
	農産本館他電気接地改修工事	S-13	347	1			#		
	福野寮新築工事	O-20-21	348	35	落ち込み、ピット、河川		#		
	陸上競技場外灯設置工事	F-19-20 F-19 G・H-18	349	56			#		
	自転車置き場設置工事	G・H-15	350	90			#		
	基幹・環境整備(太陽光発電設備)工事	L・M-15 L-19	351	20			#		
	交通標識設置工事	J-15 K-11 L-13 M-11・12 O-18	352	6	包含層		#		
学術情報資産の集約管理システム設置工事	K-14	353	22.8			#			
平成26年	動物医療センター(ヒオアジ室等)新築その他工事	R-19 S-19-20	354	247	埋没谷 溝 土壁 ピット	須恵器、土師器、鉄器 製塩土器、墨書土器 木製品	本		年報12
	福野寮1号棟改修工事	O-20-21 P-20-21	355	801	落ち込み ピット 河川	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター改修電気設備工事	S-19	356	9			#		
	農学部附属農場水田排水路工事	U・V-17	357	50			#		
	経済学部D棟改修電気設備工事	K-19	358	4			#		
平成27年	第1学生食堂増築工事	J-19-20 J-20	359	341	河川	弥生土器	#		年報13
	第1学生食堂増築電気設備工事	J-19	360	16			#		
	南門アプローチ整備工事	H-1-21・22	361	66.5	河川	弥生土器、土師器	#		
	総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	H-18-19	362	56.5	土壁、ピット、溝	弥生土器	本	工事位置変更	
	動物医療センター(ヒオアジ室等)新築その他工事(設備関連)	R・S-19	363	44.5	埋没谷	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター(ヒオアジ室等)新築その他工事(プレハブ撤去)	S-19-20	364	50	埋没谷		#		
	動物医療センター(ヒオアジ室等)新築その他工事(外灯設置)	S-20	365	2	遺物包含層	須恵器	#		
	動物医療センター外灯設置工事	S-20	366	22	土壁、埋没谷	須恵器、土師器	#		
	共同獣医学部解剖実習棟前動物体施設却却設置工事	R-19-20 S-20	367	10.75	遺物包含層	#	#		
	共同獣医学部作場設置場工事	R・S-20	368	25	遺物包含層	#	#		
平成28年	共同獣医学部カーポート設置工事	N-17	369	3			#		年報14
	農学部附属農場水田排水路工事	T・U-15・17	370	100	溝		#		
	理学部実験棟屋根新設工事	N-20	371	16			#		
	図書館周辺雨水排水整備工事	N-16	372	35			#		
	総合研究棟小路(バリア)設置工事	Q-18-19	373	0.29			#		
	総合研究棟北側喫煙所新設工事	Q-17・18	374	4.5			#		
	陸上競技場横断歩道橋設置工事	E-20 H-18	375	2			#		
	正門南側木植樹工事	I-12	376	5			#		
	事務局前木植樹設置工事	K-15 J-16	377	14.5			#		
	実習棟(動物病理解剖施設)新築その他工事	Q・R-19	378	491	埋没谷、土壁、ピット 風倒木痕	須恵器、土師器、円面磁 製塩土器、輪切口 磁瓦割片、打製石 環石、磁石、磁石、 木製品	本		
実習棟(動物病理解剖施設)新築その他工事	Q・R-18-19	379	233	遺物包含層	須恵器、土師器	立会			
総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	H-18	380	160			#			
農学部栗樹園排水工事	O-15	381	9	堀穴式住居跡か 土壁、ピット	須恵器、土師器土器	#	工法変更 (盛土保存)		
人文学部駐輪場屋根新設工事	M-20	382	26			#			
共通教育棟周辺駐輪場整備工事	J・K・L-16 J・L-17	383	53	河川、遺物包含層		#			
平成29年	福利厚生施設新築工事	M-17-18	384	149	堀穴式住居跡	縄文土器、弥生土器 初期須恵器、須恵器 土師器、石磯、石磯 磨石	本	一部埋め戻し 保存	年報15
	福利厚生施設新築工事	M-17・18	385	1,104	堀穴式住居跡、河川 堀立柱建物跡、土壁 ピット、溝、風倒木痕 遺物包含層		#		
	教育学部附属特別支援学校ガスマ引修工事	C-21 D-20-21	386	41.5			立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成29年	解剖実習棟母外環境整備工事	R-19	387	40.3			立会		年報15
	環境整備(ため池5)雨水改修工事	O-6 K-10 L-10	388	18.5			#		
	理学部1号館駐輪場設置工事	N-20	389	3.8			#		
平成30年	福利厚生施設新営工事(緊急)	M-18	390	91	土壌、ビント、溝		立会		年報16
	福利厚生施設新営工事(設備)	M-18	391	20			#		
	農学部附属畜舎改修工事	T-10	392	1.35			#		
	経済学部身障者用駐車場カーポート設置	K-21	393	3.6			#		
	理学部3号館積貯庫設置	P-18	394	64.1			#		
	実験研究棟(中高温微生物研究センター)改修工事	O-16	395	21			#		
	国際総合科学部誘導サイン取設	I-16	396	0.85			#		
	基幹・環境整備(ブロック敷対策)工事	H-22・23 I-J-23・24 K-23	397	0.54			#		
	桜花園遊緑地工事	L-12	398	51.5			#		
	音楽サークル練習施設設置	G-14・15	399	52.4			#		
令和元年	学生会館(仮称)新営工事	G-13	400	7.5	河川	弥生土器	予備		年報17
	基幹・環境設備(ため池改修)工事	S-T-9	401	42			#		
	基幹・環境設備(ため池改修)工事	S-T-8	402	2.810			立会		
	基幹・環境整備(ブロック敷対策)工事	H-22	403	23	河川		#		
	生活排水処理施設解体に伴う排水管支障巡回工事	G・H-13	404	53			#		
	東門アベニス改修工事	V・W-17	405	2.25			#		
	総合研究棟(経済学系)改修工事	K-20	406	15.5			#		
	ライフライン再生(電気設備)工事	B・C・D-21	407	169.4	河川、遺物包含層		#		
	ライフライン再生(給水設備)工事	D・E-20					#		
	東アジア研究科・経済学部研究科棟階下屋根取設工事	K-21	408	9.7	河川		#		

白石構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属風山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳型穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報Ⅲ
昭和60年	教育学部附属風山口小学校 排水栓改修		2	1			立会		年報Ⅴ
	教育学部附属風山口中学校 球技コート整備		3	2			#		
	教育学部附属幼稚園 運動整備(植木植栽)		4	1			#		
昭和61年	教育学部山口附属学校 幼稚園・小学校部分		5	57	中世土壇小	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器	試掘		年報Ⅵ
	汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡の杭列	陶磁器、不明鉄製品、石鏝、銅片、繊維遺体			年報Ⅵ
昭和61年	教育学部附属風山口小学校 電柱移設		6				立会		年報Ⅶ
昭和62年	教育学部附属幼稚園 遊戯室拡張		7	40			#		年報Ⅷ
昭和63年	教育学部附属風山口中学校 屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、銅片	#		年報Ⅷ
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳型穴住居、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、播磨器、二次加工の赤土銅片、使用後の赤土銅片、銅片、石鏝、砥石	事前		年報Ⅸ
	教育学部附属幼稚園 バスコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、銅片、石鏝	#		
平成2年	教育学部附属風山口中学校 汚水排水管布設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏝、砥石、扁平打製石斧、砥石、銅片	事前		年報Ⅹ
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、因産陶磁器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属風山口小学校 プール新築給水管埋設		14	3			#		年報ⅪⅣ
	教育学部附属風山口中学校 プール新築給水管埋設		15	7			#		
平成7年	教育学部附属風山口中学校 自転車置き場新設		16	2.7			#		年報ⅪⅤ
平成10年	教育学部附属風山口小学校 給食室改修		17	15.8			試掘 立会		年報ⅪⅥ
平成12年	教育学部附属風山口中学校 防球ネット新設		18				立会		年報ⅪⅦ
平成14年	教育学部附属風山口中学校 給水設備改修		19				#		
	教育学部附属幼稚園 運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		
平成15年	教育学部附属風山口幼稚園並新設 山口小学校スロープ新設		21	27.7			立会		年報Ⅰ
平成16年	白石地区区道歩道改修		22	1	河川		立会		年報Ⅱ
	教育学部附属風山口小学校事務室新築		23	101	河川、土壇または溝		#		
	教育学部附属風山口幼稚園・小学校 フェンス・通用門改修		24	11			#		
平成17年	教育学部附属風山口幼稚園・小学校 給水管改修		25	10			立会		年報Ⅲ
平成19年	教育学部附属風山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ピット	縄文土器、弥生土器	予備 立会		年報Ⅴ
	教育学部附属風山口中学校校舎等改修		27	38	河川、包含層		立会		年報Ⅶ
平成21年	教育学部附属風山口小学校共用棟・教室B棟間渡り廊下屋根取設		28	2.5					年報Ⅶ

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献	
平成 21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池 改修整備			29	50	落ち込み		立会	年報 7	
	教育学部附属山口中学校中庭取付			30	1.5			#		
平成 22年	教育学部附属山口小学校 渡り廊下設置			31	12			立会	年報 8	
平成 23年	教育学部附属学校園案内板設置工事			32	1			立会	年報 9	
	教育学部附属幼稚園 渡り廊下屋根拡張工事			33	11.5			#		
平成 24年	教育学部附属幼稚園遊具設置工事			34	0.35			立会	年報 10	
	教育学部附属幼稚園 園舎テラス取設工事			35	7.9			#		
	教育学部附属山口中学校 看板表示設置工事			36	0.6			#		
	教育学部附属山口中学校テニスコート 防球ネット嵩上げ工事			37	4.8			#		
	教育学部附属山口中学校武道場新築 植物移植工事			38	3			#		
平成 25年	教育学部附属山口中学校 武道場新築工事			39	235.8			弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 木製瓦	予備	年報 11
	教育学部附属山口中学校武道場新築 工事に伴う外護及び渡り廊下取設工事			40	77.6			縄文土器、弥生土器、 土師器		
平成 27年	教育学部附属山口中学校 グラウンド防球ネット新設工事			41	1.3			立会	年報 13	
	教育学部附属山口小学校ガス管 交換工事			42	8			#		
平成 28年	教育学部附属山口小学校 雨水管改修工事			43	24	土壌、溝、ピット		弥生土器、瓦質土器 磁器	立会	年報 14
平成 30年	教育学部附属山口小学校 運動場鉄棒改修			44	15			立会	年報 16	
令和 元	教育学部附属山口小学校改修工事 (EV・渡り廊下)			45	60	河川			本	年報 17
	教育学部附属山口小学校 校舎改修工事			46	798	土壌、溝、ピット、		縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器	立会	
	教育学部附属山口小学校 基幹・環境整備(ブロック敷設)工事			47	0.54			#		
	教育学部附属山口小学校 校舎改修工事(仮設校舎)			48	205			#		

小串構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新営		3	1			立会		
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	#		
	医学部基幹整備(特高受変電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
	医学部臨床講義棟病理解剖棟新営		7	38			#		
昭和60年	医学部附属病院外来診療棟新営		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	#		年報Ⅴ
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	#		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			#		
昭和61年	医学部環境整備(樹木移植)		12	40			#		年報Ⅵ
	医学部附属病院外来診療棟新営		13	5			#		
	医学部附属病院外来診療棟周辺環境整備等(出水処理設)		14	18			#		
昭和62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			#		年報Ⅶ
	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		
昭和63年	医学部附属病院病棟新営		17	300		二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、礫石、礫、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報Ⅷ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			#		
平成元年	医学部附属病院MRI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核	試掘		年報Ⅸ
平成2年	医学部臨床実験施設新営電気工事		21	0.5			立会		年報ⅩⅠ
平成4年	焼却棟地盤調査		22				#		年報ⅩⅡ
平成5年	医学部臨床実験施設新営その他(焼却棟新営)		23	9			#		年報ⅩⅢ
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装置棟新営		25	300			#		年報ⅩⅣ
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新営		26	27			試掘		年報ⅩⅤ
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報ⅩⅥ
平成9年	医学部聖霊碑・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報ⅩⅦ
	基幹環境整備(看護婦宿舎浄化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部別棟移設		30	10			#		
平成10年	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		31	253.1	包含層、近世～近代用水路	剥片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇部市教育委員会と合同調査	年報ⅩⅧ
	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路)		32	381.1	包含層、近世～近代溝	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	#	宇部市教育委員会と合同調査	年報ⅩⅧ
平成11年	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		33	818.9	近世～近代用水路土坑	瓦質土器、土師質土器陶器、磁器、銭貨	#	宇部市教育委員会と合同調査	年報ⅩⅨ
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	試掘		年報ⅩⅩⅠ
平成14年	医学部附属病院高エネルギー棟新営		35	13.25			#		年報ⅩⅩⅡ
	総合研究棟新営		36	382	包含層	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	#		
平成15年	基幹環境整備(煙突)新営		37	76			試掘		年報ⅩⅩⅢ

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
平成 16年	医学部基幹環境整備 (地下オイルタンク他)		38	144		縄文土器、土師器、 陶器、磁器、石種	試掘		年報 2
	医学部職員宿舍他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、 瓦質土器、陶器、磁器	#		
	医学部総合研究棟北側 連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成 17年	医学部附属病院基幹環境整備 (冷熱源設備他改修)		41	37			#		年報 3
	医学部附属通用門廊取設		42	30			#		
平成 18年	モニメント設置		43	6.2			#		年報 4
平成 19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備		年報 5
平成 20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			#		年報 6
平成 21年	小串宿舎B棟埋設ガス管改修		46	58				立会	年報 7
平成 22年	医学部附属病院患者用 ・職員用立体駐車場建設		47	125		埴管、陶器、磁器、 瓦質土器、土師器	予備 立会		年報 8
	地域医療教育研修センター新営		48	156	畦畔、溝	磁器、陶器、瓦メコ、 土人形、埴管、土種、 土師器、須恵器、 弥生土器、縄文土器	予備		
平成 23年	地域医療教育研修センター新営工事		49	4				立会	年報 9
平成 26年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事		50	90		縄文土器、土師器、 石種	予備		年報 12
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事		51	30			立会		
	廃棄物管理棟新営工事		52	149			#		
平成 27年	保育所新営その他工事		53	50		陶器	予備		年報 13
平成 28年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事(自家発電設備工事)		54	100		弥生土器、石種	立会		年報 14
平成 30年	総合研究棟(医学系)新営工事 (機械設備工事)		55	6				立会	年報 16
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事		56	75			#		
	基幹・環境整備(熱源設備更新)工事		57	15			#		

常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新築		1	70		遺患跡	試掘		年報Ⅷ
	工学部図書館増築		2	70			〃		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管布設			30			立会		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎擁壁取設等			65			〃		年報Ⅴ
	工学部受水構改修		3	1.5			〃		
	工学部尾山宿舎排水管改修			6			〃		
昭和61年	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			〃		年報Ⅵ
	情報処理センター(常盤センター)空調設備取設		5	30			〃		
昭和63年	工学部焼却炉上屋新築		6	225			〃		年報Ⅷ
平成元年	工学部夜間照明装置及び防球ネット設置		7	2			〃		年報Ⅸ
	工学部記念緑樹		8	2.5			〃		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			〃		年報Ⅹ
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			〃		年報ⅩⅠ
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新築		11	6			試掘		年報ⅩⅡ
	工学部・工業短期大学の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新築		12	40			〃		
	工学部および工業短期大学部職員宿舎取壊		13	9			立会		
	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新築		15	12			試掘		年報ⅩⅢ
	工学部地域共同研究開発センター新築		16	16			〃		
平成7年	国際交流会館新築		17	6.4			〃		年報ⅩⅣ
平成8年	国際交流会館新築		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剥片	事前		年報ⅩⅤ
平成12年	工学部福利厚生棟新築		19	38.5			試掘		年報ⅩⅥ
平成13年	工学部インヴェーシジョンセンター新築		20	60		土師質土器、瓦	〃		年報ⅩⅦ
平成14年	総合研究棟新築		21	13.5			〃		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報Ⅰ
平成16年	工学部定重速度応力腐食割れ実験室新築		23	20			試掘		年報Ⅱ
	工学部光半導体素子実験室新築		24	52.5			〃		
	工学部消水幹線工事		25	9			立会		
平成17年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			〃		年報Ⅲ
	工学部会議棟身障者スロープ取設		27	38			〃		年報Ⅳ
平成18年	総合研究棟改修工事(Ⅱ期・本館北)		28	280			確認		年報Ⅴ
平成19年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)		29	147			〃		年報Ⅵ
平成20年	工学部女子学生寄宿舎新築その他		30	24			予備		年報Ⅶ
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報Ⅷ
平成26年	常盤寮C棟新築工事		32	103			立会		年報Ⅷ

光構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属風光小学校 自転車庫増設設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	教育学部附属風光小・中学校 地球伊新宮		2				立会		年報Ⅳ
昭和60年	教育学部附属風光中学校 外灯改修		3	1		土師器	#		年報Ⅴ
昭和61年	教育学部附属風光小学校創立 記念事業(フロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属風光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、瓦	#	御手洗湾採集	年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属風光小学校 遊器具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	#		年報Ⅷ
	教育学部附属風光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土雑	#	御手洗湾採集	
平成2年	教育学部附属風光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施釉陶器、磁器、 土雑、剣片、鉾浮	試掘	御手洗湾採集 遺物含む	年報Ⅹ
	教育学部附属風光小学校 運動場改修		9	23	土壌	土師器、須恵器、 須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮		10	38	土壌、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報Ⅺ
	教育学部附属風光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石雑	立会		年報Ⅺ
	教育学部附属風光中学校 バウンネット新設		12	0.5		土師器	#		
平成4年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮		13	500	土壌、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報ⅪⅡ
	教育学部附属風光中学校 武道館増設調査		14				立会		
平成5年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮その他		15	6			#		年報ⅪⅢ
平成6年	教育医学部附属風光小・中学校 プール新宮給排水管理施設		16	19			#		年報ⅪⅣ
平成8年	教育学部附属風光小・中学校 園障(外周フェンス・防球ネット)取設		17	7		陶磁器	#		年報ⅪⅤ
平成10年	教育学部附属風光小学校 給食堂改修		18	5.2			#		年報ⅪⅥ
平成11年	教育学部附属風光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世土灰、柱穴	土師器、須恵器、 韓式系土器、 縄文土器、陶器、磁器	試掘 立会		年報ⅪⅦ
平成12年	教育学部附属風光小・中学校 護岸石積改修		20	173	石垣	陶磁器	立会		年報ⅪⅧ
平成12年	教育学部附属風光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23			#		年報ⅪⅨ
平成15年	教育学部附属風光小学校エレベータ 昇降路等新設		22	169	ピット、土壌、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報Ⅰ
平成17年	教育学部附属風光小学校 体育器具新置		23	53		土師器、須恵器 磁器陶	予備		年報Ⅱ
平成17年	教育学部附属風光小・中学校護岸改修		24	40	石垣	陶磁器	立会		年報Ⅲ
平成21年	教育学部附属風光中学校校舎改修		25	107	ピット、土壌	須恵器	本		年報Ⅳ
平成21年	教育学部附属風光中学校校舎改修工事 に伴うプレハブ建設		26	225			立会		年報Ⅴ
平成22年	教育学部附属風光中学校 防球ネット設備		27	1			立会		年報Ⅵ
平成23年	教育学部附属風光小学校 下水道総工事業		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報Ⅶ
平成23年	教育学部附属風光小学校遊具設置工事		29	20			立会		年報Ⅷ
平成24年	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		30	125.4	ピット、土壌、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	本		年報Ⅷ
	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		31	889	ピット、土壌、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	立会		
平成25年	教育学部附属風光小学校校舎校舎 設置工事		32	57	土壌	土師器	立会		年報Ⅸ
平成25年	教育学部附属風光小学校校舎改修その他工事 教育学部附属風光小学校校舎改修その他機械 設備工事 教育学部附属風光小学校校舎改修その他電気 設備工事		33	412	落ち込み、包含層	土師器、須恵器	立会		年報Ⅹ

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	造構	遺物	調査区分	備考	文献	
平成26年	教育学部附属光小学校グラウンド 教棟新設工事			34	23	ピット	縄文土器、須恵器 土師器、鉄器	立会		年報 12
	教育学部附属光中学校校舎排水管 改修工事			35	3			緊急		
平成28年	教育学部附属光小学校 バスケットゴール設置工事			36	4			立会		年報 14
平成30年	基幹・環境整備(ブロック敷設)工事			37	7.3			立会		年報 16

その他構内

調査年度	調査名	構内地区別	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ボート艇庫 合宿研修所整備	宇部市大字小野 宇土井	0.5			立会		年報 IV
昭和60年	学生部ヨット艇庫 合宿研修所整備	吉敷郡秋徳町 東字宇道				〃		年報 V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	35	杭		〃		年報 VI
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市旭通9 2丁目3-32 山口市 水の上街6-9	1 7		土師質土器 瓦	〃	6号宿舎 2号宿舎	年報 VII
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市白石 二丁目8-7	1		須恵器、土師器、 土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	〃	7号宿舎採集	年報 VIII
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上街 6-1	1			〃	1号宿舎	年報 IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市石籠音町 1-25	1.2		陶磁器	〃	7号宿舎	年報 X
平成2年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市香山町 3-1	0.5			〃	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉 6丁目	30			〃		年報 XI
	経済学部6号職員宿舎 電柱設置	山口市旭通9 2丁目3-32	0.5			〃		
	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市天花 932-2	1			〃		
平成4年	上懸小路共同下水管布設	山口市上懸小路 字久保7-4	7			〃		年報 XII
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	44			〃		年報 XIV
平成15年	ボート合宿所給排水整備	宇部市大字小野 宇土井	80				確認	年報 1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新設	山口市湯田温泉 6丁目8-29	11				確認	年報 2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フェンス取替 排水施設改修	山口市水の上街6-9 宇部市工野字町 1-33-34	1 15				確認	年報 3
平成21年	秋徳団地(ヨット艇庫)浄化槽改修	山口市秋徳東706-2	4.5					年報 7

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団「吉田遺跡発掘調査概報」(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事の際に随時随時的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

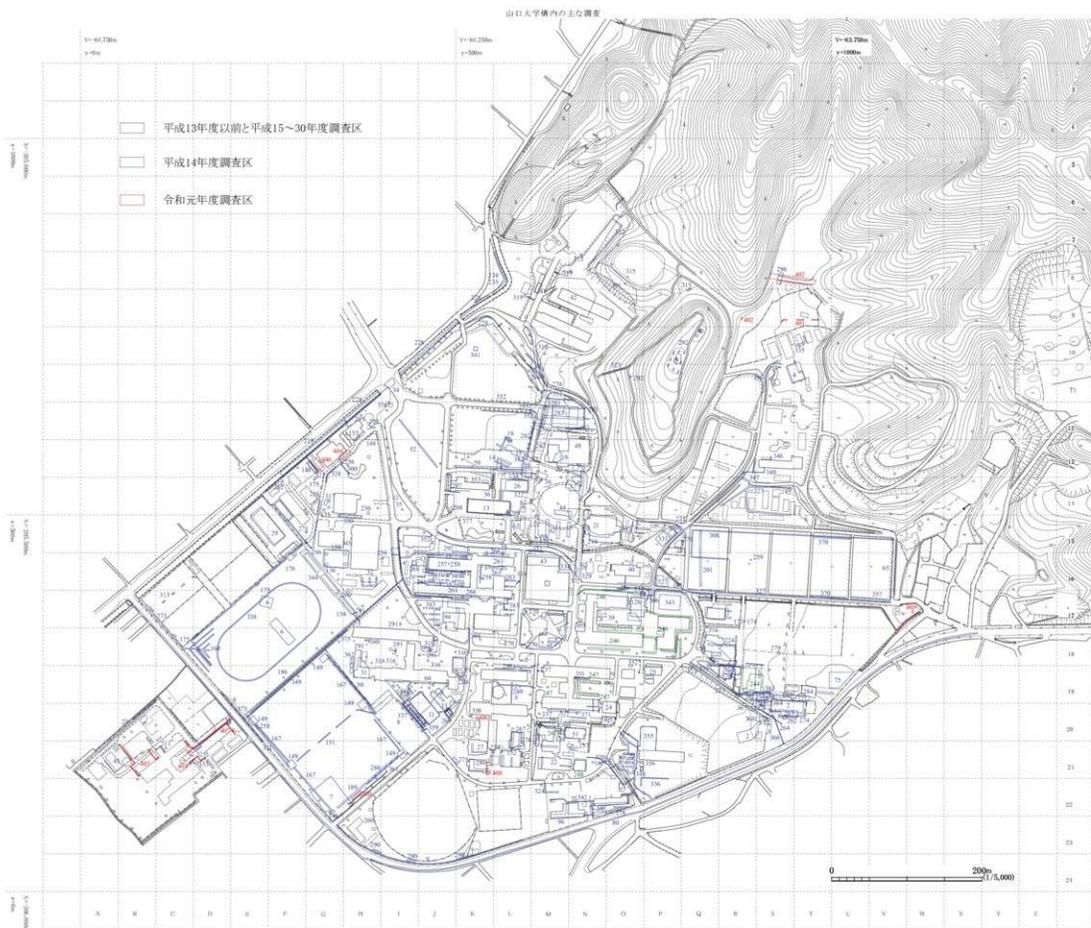


図63 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

山口大学構内の主な調査

- 令和元年度調査区
- 平成10年度以前と平成15～30年度調査区
- 平成14年度調査区

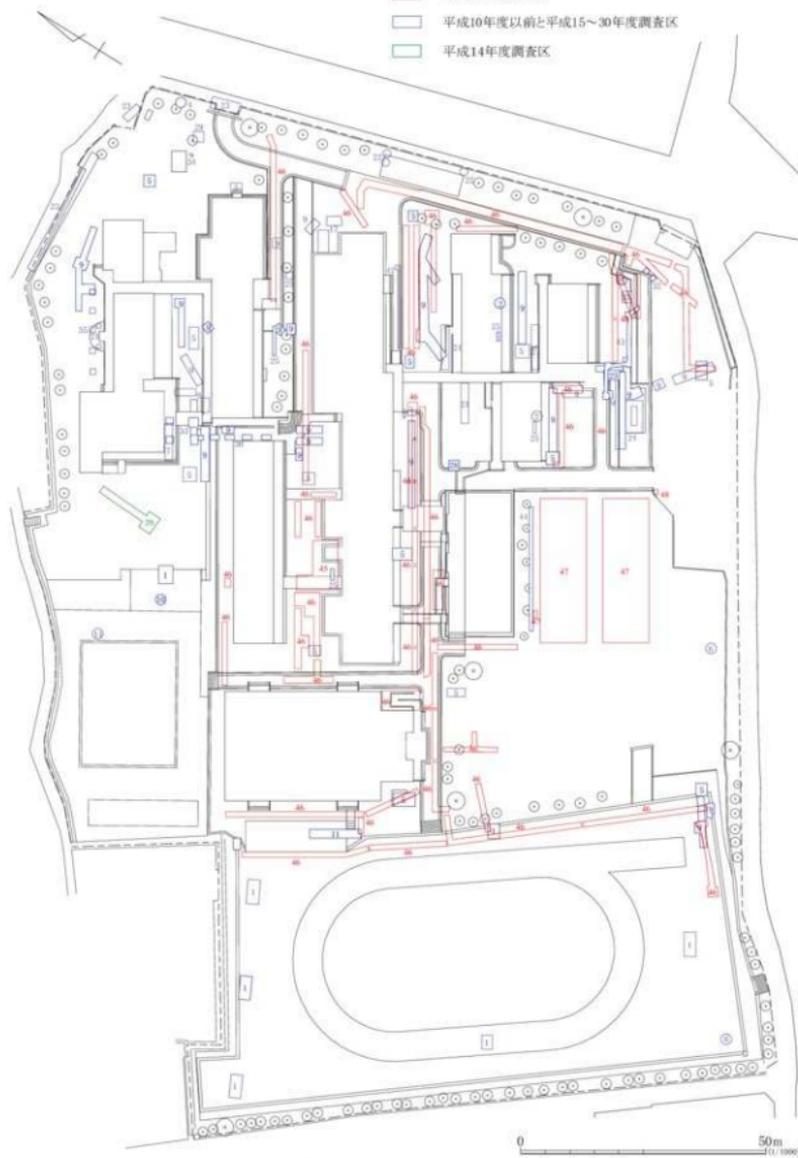


図 64 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

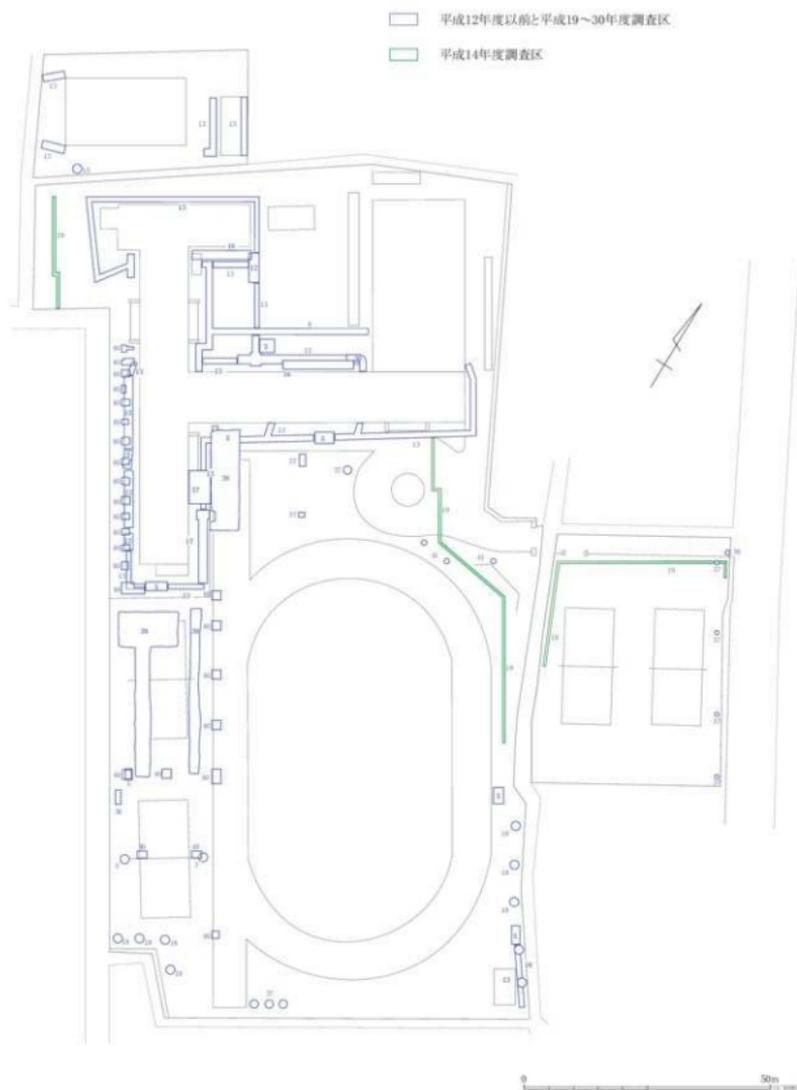


図65 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図



図66 山口大学小串構内調査区位置図

山口大学構内の主な調査

-  構内旧境界線
-  構内境界線
-  平成13年度以前と平成15～16年度調査区
-  平成14年度調査区

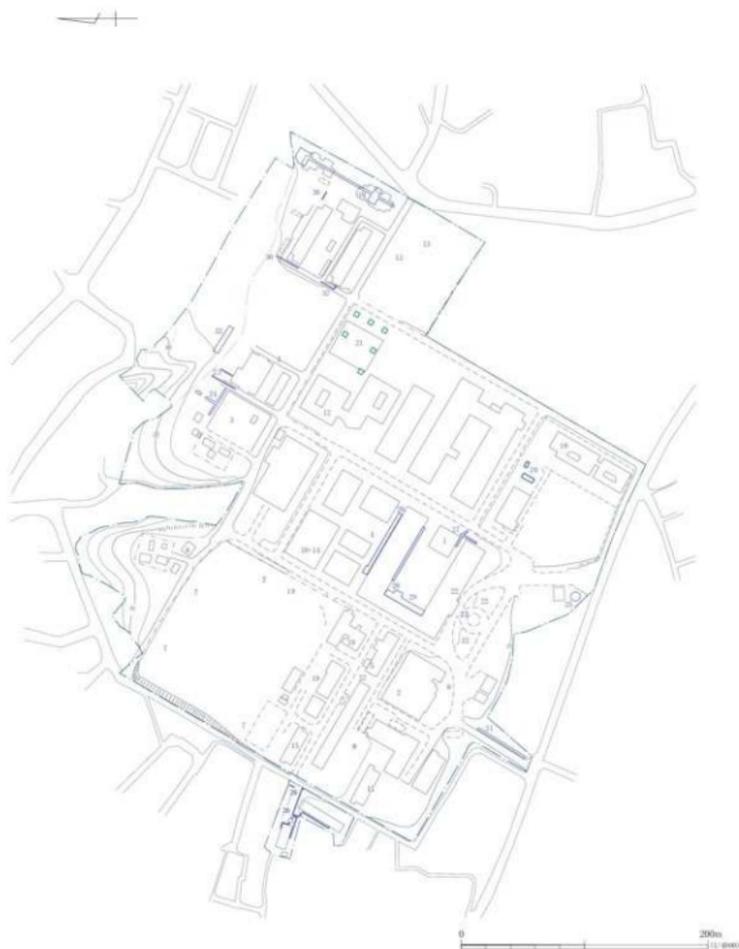


図67 山口大学常盤構内調査区位置図

山口大学構内の主な調査

- 構内境界線
- 昭和58年～平成30年度調査区

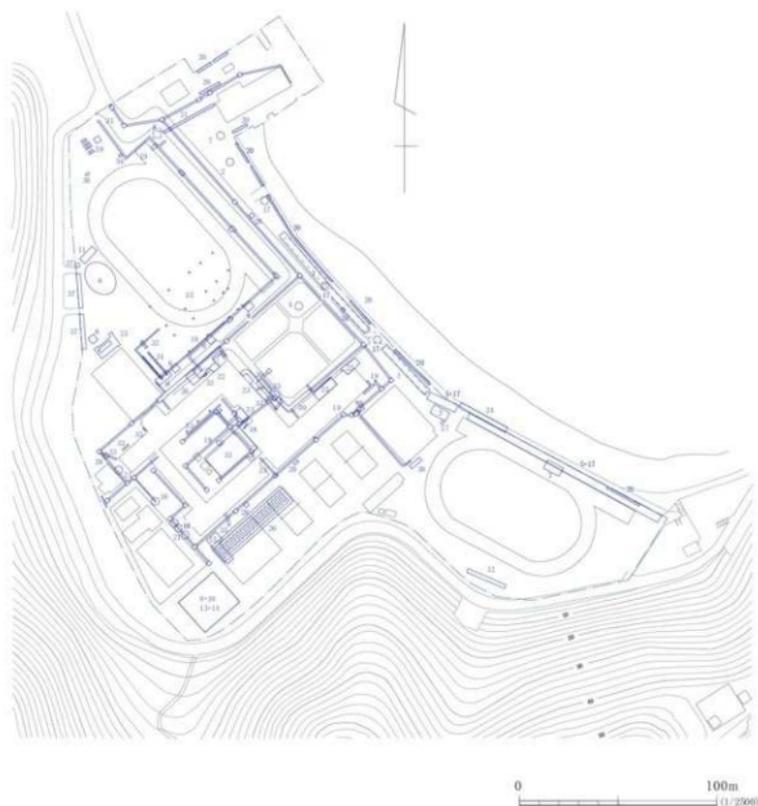


図 68 山口大学光構内調査区位置図

山口市大内御堀の採取遺物

横山 成己

1. 資料の由来 (図69, 写真159~161)

山口大学埋蔵文化財資料館には、当館設立以前に本学教員および学生により県内各地にて採取された考古資料が多数収蔵されている。その大多数は、本学教育学部で教鞭をとっていた小野忠熙氏と、氏の指導した山口大学地理学談話会や山口大学文化会考古学部に所属した学生により採取されたものと考えられ、時期としては小野氏の教育学部光分校着任まもなくの昭和25年(1950)以降から、本学吉田地区統合移転直前の昭和40年代中頃に集中する。

本稿にて紹介する山口市大内御堀採取資料は、一部が拙稿「館蔵品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—」(横山2020)にて紹介したものに加え、令和2年(2020)に山口県立山口博物館との共催で開催した『講座 古代ウォーク』が山口市大内地区を対象とすることになった(横山2021a)ことを受け、再度館蔵品の悉皆調査を実施し、図示可能品を抽出したものである。

山口市大内地区は、椈野川中流域に位置する山口盆地の東に接しており、四方を山に取り囲まれた小盆地(大内盆地)にある。盆地の北縁には仁保地区から仁保川が、南縁には小鯖地区から間田川が流入しており、盆地の西端で椈野川に合流している。盆地最西端の仁保川下流右岸城は、狭義の地名として御堀(大字御堀字御堀)と呼称されており、東に隣接する氷上(大字御堀字氷上)とともに、西折した仁保川により形成された上位段丘から中位段丘にかけて遺跡が密に展開している地域である(図69、写真161)。

当館所蔵の大内御堀に関わる遺物で最も古く採取されたものは、昭和26年(1951)12月18日の日付を有する(MH3:コンテナ9袋13)。小野氏による採取品であるかは不明であるが、氏の本学教育学部への異動が契機となり、氏や氏の関係した地理学談話会の学生により採取されたと推測される。遺物への



図 69 山口市大内御堀・氷上の遺跡分布状況

注記を見ると、御堀における資料採取は、昭和28年(1953)4月14日(MH28「大字御堀字下堀 最下部箱式棺付近散布」MH6「**御堀**」の注記あり)、5月18日(MH8、MH20「下堀原始墳墓地区」の注記あり)、7月3日と繰り返し行われたようである。遺物の採取地は、「下堀」の注記から象頭山南麓、現在の遺跡名では象頭山墳墓群と考えられる(写真159・169)が、「御堀Ⅰ8」「御堀ⅦⅠ」「御堀ⅨⅠ」「御堀ⅡⅡ」など地区を示すと思われる注記の存在(表10)は、より広域で採取が行われたことを想像させる。

本学による遺物採取が行われてまもなくの昭和28年8月11日には、山口県立山口博物館の学芸員であった佐伯敬紀氏により、象頭山墳墓群にて須恵器甕体部5片(うち2片は接合する)が採取されており、同年10月21日から23日にかけて象頭山麓(福田氏宅裏山)にて組合式箱式石棺1基(人骨歯が少量出土)と横穴式石室墳1基(金環2、銀環2、滑石製勾玉1、水晶製切子玉1、管玉1、ねり玉70、小玉1、鉄剣1が出土)の発掘調査が実施されている(佐伯1958)。佐伯氏の大内地区における一連の調査は、本学教員や学生による遺物採取に端を発した可能性がある。



写真 159 象頭山遠景 (南東から)



写真 160 象頭山南麓近景 (東から)



写真 161 昭和 22 年 (1947) の山口市大内地区

2. 御堀採取資料(図70・71、写真162～166、表10)

図示可能な資料は、土師器2点を除きいずれも須恵器である。**MH1**は10片の接合品で、完形復元可能な坏身である。「御堀 □ I」の注記が残る。焼き歪みの大きい個体で、器高3.6～4.4cm、復元口径10.3～11.8cmを測る。丸みを帯びた底部から、開き気味に坏部が立ち上がる。坏部外面2/3～1/2に回転ヘラ削りを施す。受部やかえりのつくりはシャープで、焼成状態も良好である。**MH2**は坏身の口縁一底部片で、ほぼ完形に復元可能である。内面に採取年月日とみられる「2□1□1□」の注記が残る。器高4.15cm、復元口径9.3cm、復元底部径4.5cmを測る。平底気味の底部から強く内湾して坏部が立ち上がる。回転ヘラ削りは外面1/6にのみ施されている。焼成はやや不良で、内外面とも灰白色を呈している。**MH3**は坏蓋の天井一口縁部片。天井中心部を失うが、ほぼ完形復元可能な資料である。外面に「御堀 2 II」[26.12.18]の注記が残るが、インクが異なっている。低いドーム状の天井部から、緩やかに内湾して口縁に降下する。口縁端部は屈曲気味に短く下垂させる。天井中心部を欠失しているため、つまみの有無は不明である。復元口径16.6cm、残存高3.1cmを測る。**MH4**は内外面の器面調整などから坏蓋天井部片と判断した。外面に「下堀原始墳墓地区出土」の注記が残る。低いドーム状の天井部の外面には重ね焼による変色が見られる。内面は不定方向のナデが施される。**MH5**は坏蓋口縁部片。遺物袋に同入されていたカードには「66-3下堀」と記されている。器壁が厚く、やや焼成不良の個体で、口縁部を水平に外方に開き、端部をほぼ垂直に短く下垂させる。残存高1.85cmを測る。内外面とも回転ナデが施される。**MH6**は坏蓋口縁部の小片。外面に「**㊦**御堀 28.4.14」の注記が残る。**㊦**は象頭山西端麓に鎮座する厳島神社を示すのであろうか。扁平な天井部から口縁端部をやや外方に短く下垂させており、外端部に沈線が1条巡らされる。残存高1.05cmを測る。**MH7**は須恵器坏の口縁部片で、「66-3下堀」資料である。体部と口縁部の境界外面には幅広の凹線が設けられ、口縁は器壁を窄めながら直線的に開く。高坏坏部の可能性を残す。**MH8**も坏口縁部片。内面に「下堀原始墳墓地区 二八・五一・一八」の注記が残る。器壁がやや厚めの個体で、わずかに外反して口縁が開く。**MH9**も坏口縁部小片。外面に「御堀」の注記が見られる。

MH10は有蓋高坏坏部片。「66-3下堀」資料である。坏部は浅く、受部は焼き歪みによるものか下垂している。復元口径18.4cm、口縁端部からの残存高2.8cmを測るが、これは内面天井部の稜(残存率1/12)から復元を行った数値である。脚柱部との接合痕跡が見られないことから、有蓋高坏蓋の可能性も否定できない。**MH11**も「66-3下堀」資料で、口径から有蓋高坏坏部と判断した。器壁の薄い個体で、緩やかに内湾する坏部は深く、受部とかえりのつくりはシャープである。胎土や焼成状態は**MH10**と類似する。復元口径15.8cm、口縁端部からの残存高は3.7cmを測る。遺存する受部(残存率1/12)から復元している。**MH12**も「66-3下堀」資料で、2片が接合した高坏脚柱部である。裾が大きく開く脚柱部で、外面の沈線間に長方形透かしを設けている。透かし幅は不明ながら、遺存する透かしの間隔から3方向透かしであることが分かる。

MH13も「66-3下堀」資料で、天井部と口縁端部が欠失するが、壺蓋とみられる。丁寧なつくりで、口径は9cm程度、器高は2.7cm程度である。**MH14**も「66-3下堀」資料。長頸壺の頸部片であり、頸部最小復元径は6.4cmを測る。**MH15**は壺の底部片。内面に「□□(御堀か)円墳付近9 I」の注記が見られる。丸底の底部で、外面に回転ヘラ削り、内面に回転ナデが施される。

MH16は「66-3下堀」資料で、甕の口縁部小片。頸部から直線的に外傾して口縁が立ち上がり、口縁内端を肥厚させる。口縁内面には灰を被っており、内端直下に短斜線のヘラ記号を4条以上施している。**MH17**も「66-3下堀」資料で、甕の口縁一肩部片。口縁は短く直立し、端部は内傾させて面を取り、

山口市大内新堀の採取遺物

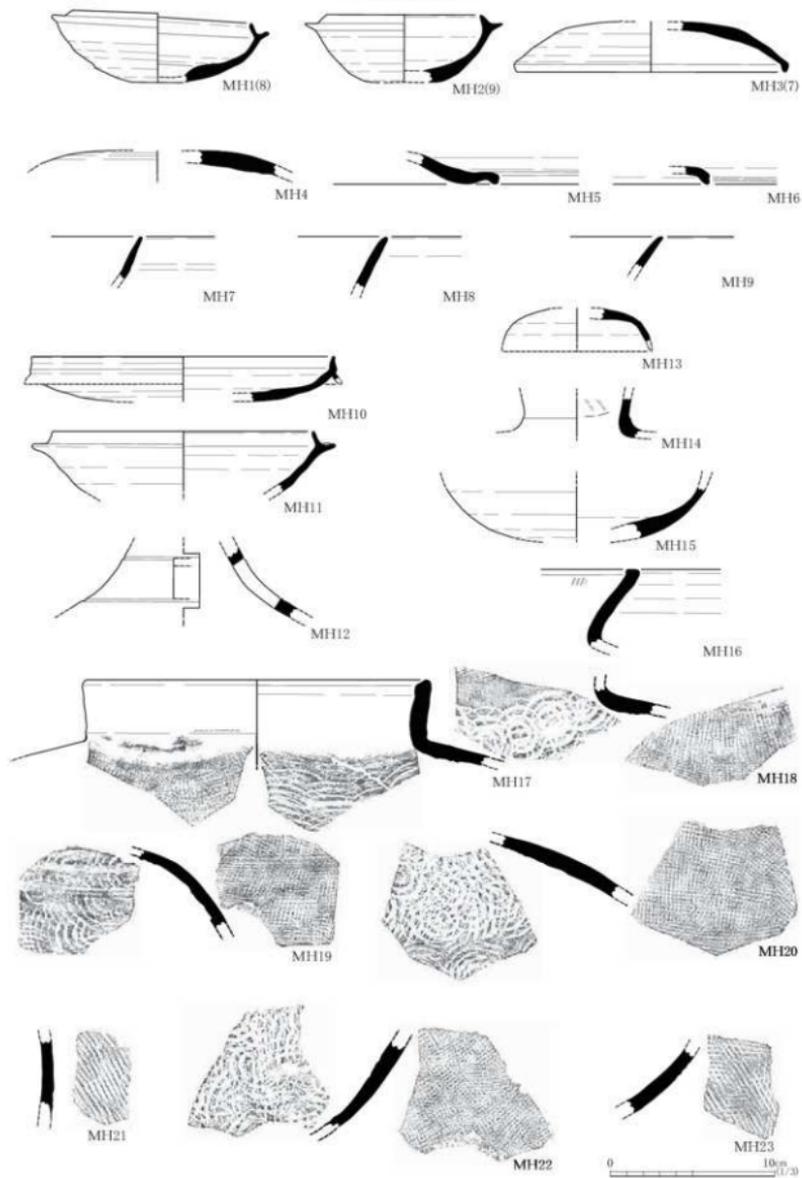


图70 遺物（土器）実測図①

内端をわずかに肥厚させる。肩部外面は平行文叩き(4条/cm)後カキ目を施し、内面は同心円文当て具痕をそのまま残す。頸部外面には板状工具の当たり痕が残っている。口縁端部と肩部外面に灰を被っている。MH18も「66-3下堀」資料。甕の頸-肩部片で、肩部外面は全面に灰を被っており、左上がりの平行文叩き(4条/cm)後カキ目が施されている。内面の同心円文当て具痕はそのまま残す。胎土の特徴や焼成状態からMH16と同一個体である可能性が高い。MH19は甕の肩-腹部片か。外面は縦および斜めの擬格子平行文叩き(4条/cm)後部分的にカキ目が施され、内面は同心円文当て具痕に部分的な横ナデが施される。H20は「66-3下堀」資料で甕の肩部片とみられ、断面に「下堀原始墳墓地区」「二八-五-十八」の注記が残る。外面は横および斜めの擬格子平行文叩き(4条/cm)後部分的なカキ目が、内面は同心円文当て具痕に部分的な横ナデが施される。H19と同一個体とみられる。H21は甕体部小片。外面には平行文叩き(3.5条/cm)が施され、内面の当て具痕は丁寧にナデ消されている。他に同一個体の可能性がある体部小片が7点採取されている。H22は甕底部付近の破片とみられる。外面は擬格子平行文叩き(4条/cm)が不定方向から施されており、内面の同心円文当て具痕はそのまま残す。胎土や器面調整の特徴から、H19・H20と同一個体である可能性が高い。H23も甕底部付近の破片。外面の平行文叩き(3.5条/cm)は不定方向から施されており、内面の当て具痕は丁寧にナデ消されている。H21と同一個体とみられる。

H24は壺の口縁部片。内面に「御堀 I 25.12.1□」の注記が残る。年月日が事実であれば最古の採取品となるが、誤記の可能性が高いと考える。「く」字状に屈曲する口縁部で、下端に断面蒲鉾形の突帯を巡らせている。頸部には2条の沈線が巡らされており、沈線上位に櫛描波状文を密に施している。H25は内面に「御堀 □」の注記が見られる。壺頸部小片であり、頸部復元径は12~13cm程度とみられる。緩やかに外反して立ち上がる頸部の外面には、わずかに櫛描波状文が残る。H26は壺の頸-底部片で、復元腹部径6.4cmとなることから、子持壺の子とみられる。山口県での子持壺は、狐塚古墳(山口市阿東徳佐:図72の1~6)、桜の木古墳(山陽小野田市小野田:同図7)、青井古墳群第1号墳(下関市豊浦町:同図8)の3例しか知られていないことから、貴重な事例となる。頸部の窄まりが強い器形は、狐塚古墳例に似る。H27は器台の台底部片。外面に「御堀 s I」の注記が見られるコンテナNO. 9-袋NO. 13資料2片と、内面に「下堀 墳墓地区 28.7.3」の注記がある「66-3下堀」資料1片が接合した。外面最上部に沈線が1条遺存しており、台底の外面には目の細かな平行文叩き(7条/cm)が、内面にも目の細かな同心円文当て具痕が見られる。H28は器台もしくは脚柱壺の脚柱部片。内面に「吉敷郡大内村 大字御堀字下堀 最下部箱式棺付近散布 28.4.14」の注記がある。沈線間に上下2段の櫛描波状文が施されている。H29も同器種の脚柱部片で、沈線間に上下2段の櫛描波状文が施されており、長方形透かしの片側面が遺存している。H30は内面に「大内御堀下堀 原始墳墓地区出土」の注記が残る脚柱部片で、外方に広がる脚柱から裾部をほぼ垂直に下垂させている。外面の脚柱-裾部境界部には沈線2条を巡らせており、脚柱部は上下2段で、裾部は1段で櫛描波状文を施している。復元裾部径は外端で27.0cm、残存高5.8cmを測る。径からみて器台裾部であろう。H31は脚柱部片。外面に朱書きで注記があるが判読不能である。裾部は失われているものの、外面には断面三角形の突帯と一段の櫛描波状文が遺存している。

H32は「66-3下堀」資料で、土師器塊底部片。底部から体部が開き気味に内湾して立ち上がる。底部外端に断面三角形の高台が付く。全面摩滅が著しく器面調整は体部外面の回転ナデしか観察できない。復元高台径5.6cm、残存高1.8cmを測る。H32は土師器甕口縁部片。頸部から外傾して口縁が開き、端部を屈曲気味に外反させている。残存高3.2cmを測る。

山口市大内新集の採取遺物

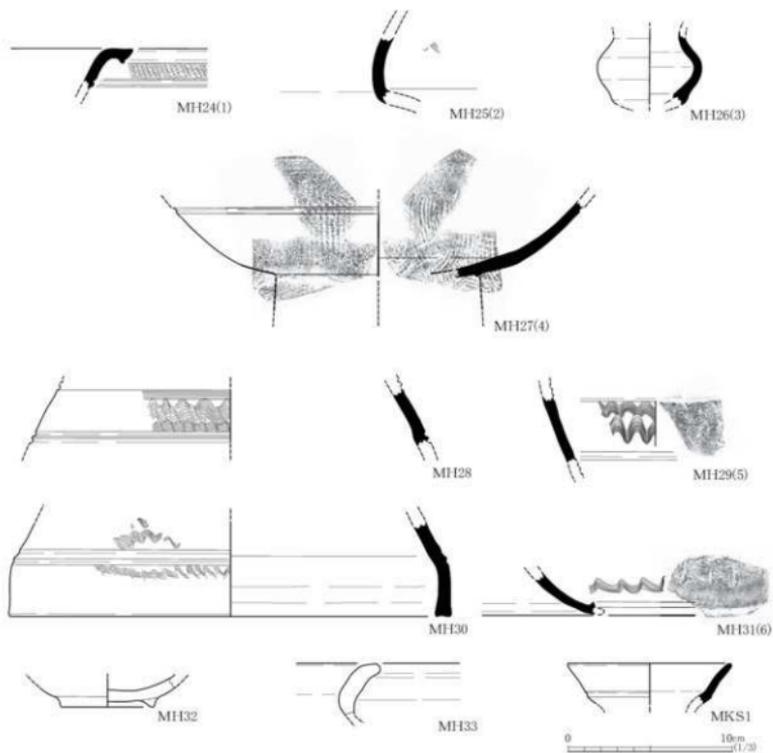


図 71 土器実測図②



写真 162 遺物写真①



写真 163 遺物写真②



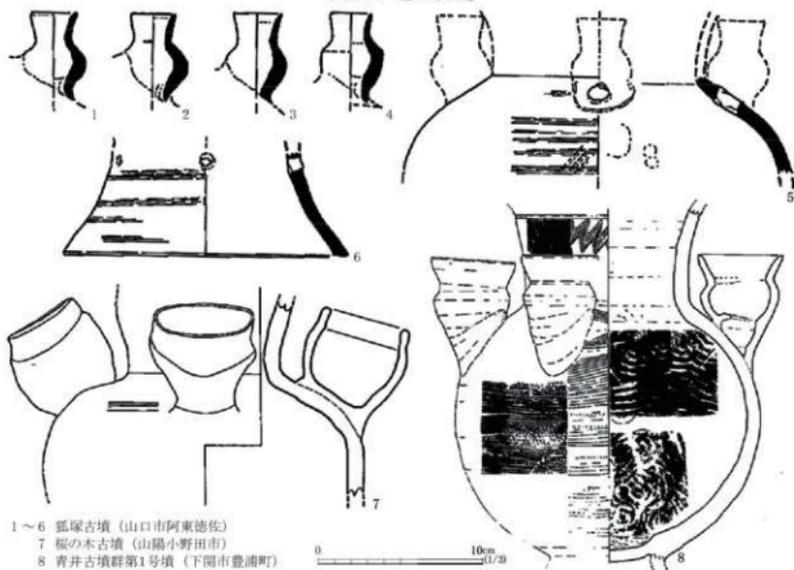
写真 164 遺物写真③



写真 165 遺物写真④



写真 166 遺物写真⑤



- 1～6 狐塚古墳 (山口市阿東徳佐)
 7 桜の本古墳 (山陽小野田市)
 8 青井古墳群第1号墳 (下関市豊浦町)

図 72 山口県内出土子持壺実測図

3. 妙見社古墳群採取資料(図71・73、写真166～168、表10)

令和2年(2020)開催の『講座 古代ウオーク』では、大内氷上に所在する妙見社古墳群の現地見学も予定していたことから、当館収蔵品の確認を行ったところ、コンテナNO. 14-袋NO. 7に「氷上墳墓地区(妙見奥の院)」と記されたカードと共に、須恵器片9点が確認された。併せて報告を行いたい。

妙見社古墳群は、大内盆地の北山麓、宮野丘陵から派生する支丘端部に位置しており、支丘間の狭小な谷地には、創建年は不明であるが大内氏の氏寺である氷上山興隆寺が位置している。1号墳は谷の東側丘陵、宝乗坊跡推定地の北西に隣接した小丘陵上に、2号墳は谷奥部丘陵の南端部、妙見社上宮跡への山道東側に立地している(宇野ほか2002)(図73、写真167・168)。カードの記載内容から、当館収蔵資料は2号墳に所属するものとみて良い。

妙見社古墳群では、現在まで上記の2基以外に古墳は確認されていないようであるが、山口市発行の埋蔵文化財地図では、より広域に範囲が設定されている。その一方で、2号墳は興隆寺跡遺跡の範囲に含まれているものの、古墳群の範囲からは外れていることから(図69)、遺跡の正式名称は異なると推測される。歴史的経緯を重視し、本稿では資料の所属先を暫定的に「妙見社古墳群2号墳」としておく。

当古墳群に関しては、具体的な記述は『大内村誌』(佐伯1958)に限られていることから、以下に転載しておきたい。

妙見社付近の古墳

氷見妙見社の北に二個あって共に円墳である。その中の妙見社より遠い方の円墳は横穴式古墳で、奥壁を北にし、南に開口している。奥壁の巾は五尺五寸五分、玄室の奥行一〇尺三寸、玄室と羨道との間には向って右に巾二尺、向って左に巾九寸の一枚石をもって区切っており、羨道の奥行は一尺五寸で極めて短い。天井はアーチ形をなし、高さは奥壁において四尺五寸、玄室入口の所で六尺一寸、多少土砂で埋っている。遺物は既に持ち出されて何も見当らない。(『大内村誌』61頁)

2号墳は墳丘・石室とも現存しているが、現在は「山口市の文化財を守る会」により立ち入りが禁止されているため、開口部からの観察しか行えない。佐伯氏の記述によると、左袖が広い両袖式の横穴式石室墳で、玄室長312cm、奥壁幅168cm、玄室高185～136cm、羨道残存長45cmを測るようである。

当館収蔵須恵器で図示可能なものは1点のみである。MKS1は甕の口縁部片。焼成の良好な資料で、頭部との境界に沈線を1条巡らせており、口縁はわずかに外反させる。復元口径10.0cm、残存高2.5cmを測る。外面に「氷上 I 2」、内面に「26.12.18」の注記が残る。日付から、御堀資料と同日に採取されたものであることが分かる。

他の8点は甕の小破片で、外面に平行文叩き、内面に同心円文当て具痕が観察される。

4. 小結(図74、写真169～171)

当館収蔵品の調査から、山口市大内地区御堀象頭山周域では、昭和26年(1951)12月から昭和28年(1953)7月まで山口大学関係者により複数回踏査が実施されたことが判明した。彼らは当地域を「下堀原始墳墓地区」と呼称したようであるが、昭和28年8月11日に現地踏査を行い、10月21日から23日にかけて箱式石棺1基と横穴式石室墳1基の発掘調査を実施した佐伯敬紀氏は、それぞれを「川向象頭山組合石棺」「川向古墳」と呼んでいる。

佐伯氏の記述によると、箱式石棺は可能性のあるものを含め5基が存在したようである。氏が調査した1基からは人骨歯以外の遺物は見られず(佐伯1958)、西方約100m地点で発見された1基からは鉄刀1振が出土したとされる(佐伯1961)。これらの石棺群は、弥生時代終末期から古墳時代初頭の所属とみら



写真 167 妙見社古墳群1号墳現況 (南から)
令和2年(2020)4月24日撮影



写真 168 妙見社古墳群2号墳現況 (南から)
令和2年(2020)4月24日撮影

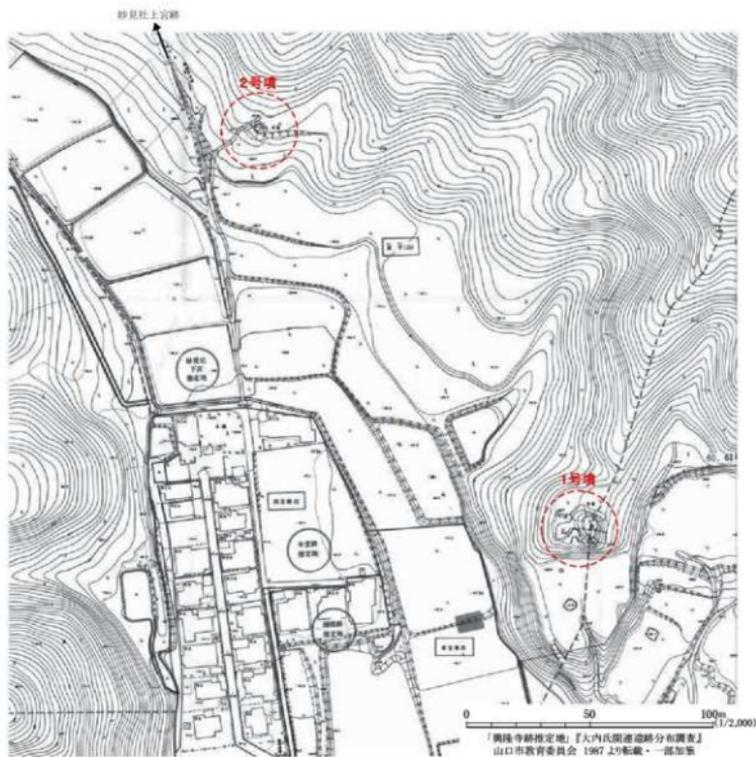


図 73 妙見社古墳群の位置

210
れる。

同じく佐伯氏の記述によると、古墳は2基存在したようであり、山口大学関係者により採取された須恵器を主とする土器群の多くは、現状では両者のいずれかに所属したと考えられる。本稿に掲載した須恵器に関して、手持壺についてはすでに述べたところであるが、器台も河口域を含め樞野川水系域では稀な存在であり、現在までに出土が確認されているのは、河口域右岸の梅ヶ崎古墳群3号墳(奥原1998)、大浦古墳群3号墳(豊島1998)、中流域右岸の朝田墳墓群第IV地区第2号横穴墓(尾野1979)、朝倉河内古墳群第4号墳(斎藤1976)、中流域左岸の吉田遺跡遺物包含層出土資料(横山2021b)、支流である仁保川右岸の高尾古墳群表採資料(森田2001a)、そして象頭山墳墓群にて採取されたとみられる資料の7例に過ぎない。各出土状況を見ると、梅ヶ崎古墳群3号墳では、羨道横墳丘裾部に据えられた須恵器大甕内部から出土しており、大浦古墳群3号墳でも墳丘裾部から出土している。朝田墳墓群第IV地区第2号横穴墓では、玄室から前庭部、羨道に散らばる状態で出土したようである。報告者は盗掘には否定的で、前庭部に供献された(報告では「墓前祭祀」という用語が用いられている)土器が拡散したと推測している。一方、朝倉河内古墳群第4号墳では半壊した横穴式石室玄室床面から出土している。吉田遺跡出土資料は、吉田構内南東部にて検出される古代官衙の南西域を区画する埋没谷の上位に堆積した遺物包含層からの出土で、埋没谷の南西丘陵では古墳時代後前半の円筒埴輪片が採取されている(吉田1986)ことから、古墳から流出したものと考えられる。高尾古墳群は、南に延びる丘陵先端付近の尾根上に築かれた5基からなる群集墳で、南北2箇所の頂部の南側に築かれた(仮)3号墳が主墳(首長墓)と推定されている(磯部2004)。資料は丘陵南端の南斜面にて採取されていることから、(仮)3号墳に所属する可能性が高いと思われる。本稿紹介例を含め、樞野川水系域にて確認された須恵器器台の約半数は葬送時の使用状況が不明であることから、将来的な資料の増加に期待したい。

仁保川流域に展開する弥生時代から古墳時代の墳墓については、箱式石棺を主体部とし、葺石と埴輪を有する径約36mの円墳で、古墳時代中期中頃から後半に比定されている大塚1号墳(前田ほか1984)や、石棺系竪穴式石室を主体部とする全長約28mの前方後円墳で、古墳時代中期に比定されている大内氷上古墳(谷口1986)、全長約19mの前方後円墳であった可能性があり、古墳時代後前半に比定されている山口市域最初期の横穴式石室墳、馬塚古墳(富士堅ほか1971)など、首長墓クラス



写真 169 象頭山箱式石棺
 昭和28年佐伯氏調査墳
 (佐伯1961より転載)



写真 170 象頭山箱式石棺
 昭和28年佐伯氏調査墳より西に100m
 (佐伯1961より転載)



写真 171 象頭山横穴式石室
 昭和28年佐伯氏調査墳
 (佐伯1958より転載)

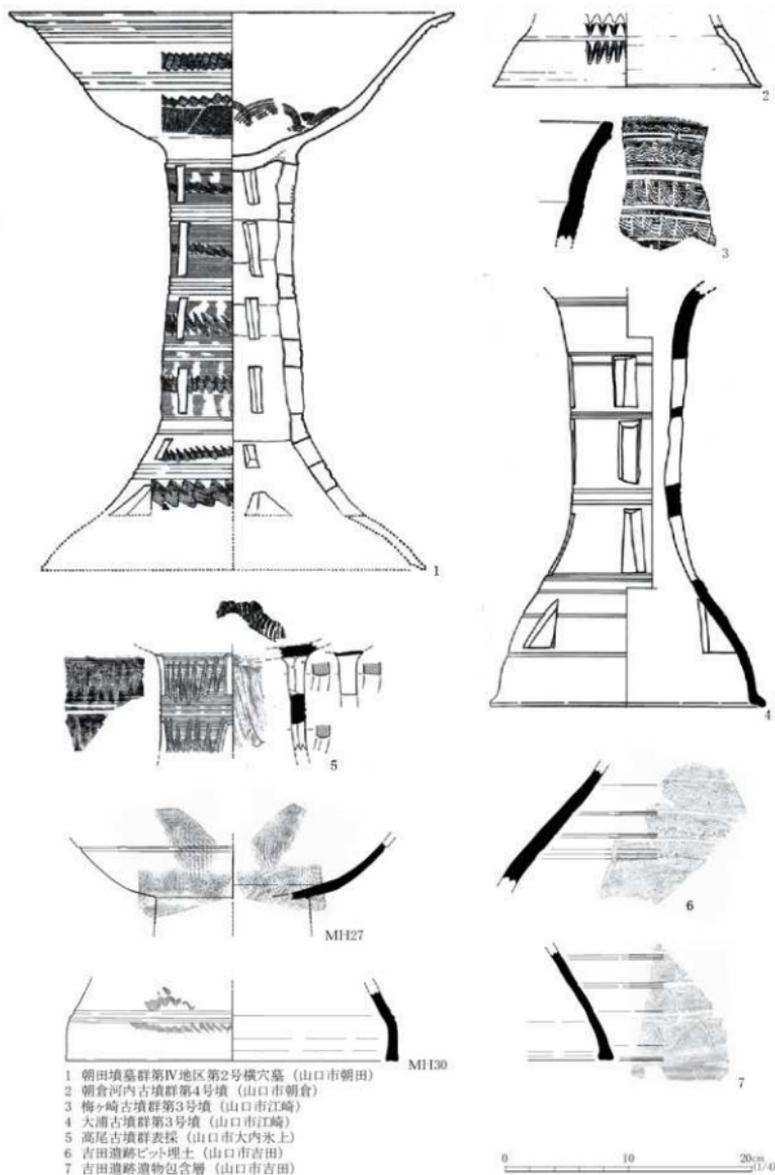


図74 榎野川水系出土の須恵器器台

には発掘調査の手が及んでいるものの、その他の動向については不明確な点が多い。特に大内御塚および氷上の北側丘陵部に関しては、戦前の開発ばかりでなく(山本1936a・b)、戦後の急速な経済成長に伴う宅地開発のため、墳墓をはじめとする数多の遺跡が未調査のまま破壊された(森田2001b)と考えられる。

本稿に掲載した資料群は、正確な出土地点、出土状況が分からない2級資料とはなるが、上記の間隙を埋める考古学情報として貴重な存在となりうる。また、新制国立大学発足期に、知的好奇心を持って活動した本学教員、学生の記録としても一定の価値を有するのではなかろうか。

末筆ではあるが、本稿執筆の契機を与えてくれた令和2年度『講座 古代ウォーク』関係各位、特に本年度より高等学校教育の場へと復職を果たされた山口県立山口博物館の荒巻直大学芸員には、多大なる協力を得た。記して感謝の意を表したい。

【注】

- 1) 当該期間の本学の関わった県内遺跡の発掘調査歴については、当館にて開催した令和3年度山口県大学ML連携特別展『新制山口大学遺跡調査のあゆみ50'～60'』にてその概要を公開した。
- 2) 『御塚 I 25.12.1口』の注記も見られる(MH24:コンテナNO. 9袋NO. 13)ことから、御塚での採取は昭和25年(1950)に始まっていた可能性もあるが、26.12.18の誤記である可能性が高いと考える。
- 3) 小野氏の本学教育学部異動は昭和26年(1951)3月とされる(森田2019)。
- 4) かつて当地の埋蔵文化I包蔵地名は「御塚石棺」であった(文化庁文化財保護部1974)。
- 5) 令和2年(2020)5月25日、荒巻直大氏(山口県立山口博物館学芸員:当時)の計らいにより山口県立山口博物館にて実見した。いずれも内面に「大内村御塚福田風裏山 28.8.11 佐伯」と注記されていた。
- 6) 佐伯氏は「川向古墳」と表記している(佐伯1958)。
- 7) 『山口県文化財概要 第4集』(1961)巻末に付された「山口県埋蔵文化財一覧」では、[発見年月日]昭和28年10月21日～23日、[発見者氏名]佐伯敬紀、[所在地]吉敷郡大内町川向、[遺跡および出土品]〔御塚遺跡〕銅製剣破片(1)・金環(2)・銀環(2)・玉類(74)・人骨片 となっている。
- 8) 大内地区における佐伯氏の調査は、昭和29年(1954)12月に大内村議会にて編集が議決され、昭和33年(1958)に刊行された『大内村誌』にまとめられている(佐伯1958)が、山口大学学生による遺跡情報に注釈として付せられている。
- 9) 図の遺物番号末尾の括弧内数字は、拙稿(横山2020)にて付した番号であり、本稿をもって正式な遺物管理番号とする。
- 10) 佐伯氏によると、前述の箱式石棺の棺材には石墨千枚岩が用いられ、後述の箱式石棺には花崗岩系の材が用いられていたという。前者は山口盆地周域の箱式石棺に通用されている周防変成岩であろうが、花崗岩は兜山古墳(山口市秋徳二島)、赤妻古墳(山口市赤妻町)、大塚1号墳(山口市大内長野)など、主として古墳時代中期の首長墓墳に用いられていることから注意が必要である。
- 11) 1基は破壊が甚だしく、石室の残骸がわずかに残るのみで、1基は封土や天井石は除去されるなど破壊が甚だしかったとされる。佐伯氏が発掘調査を実施したのは後者の古墳である(佐伯1958)。
- 12) 接合する破片の一部は遺構埋土からの出土であるが、中世遺構の埋設時に遺物包含層から混入したものとみられる。

【文献】

- 磯部貴文(2004)「高尾古墳群 第1次調査」, 山口市教育委員会文化財保護課(編)『山口市埋蔵文化財年報3—平成14(2002)年度—』, 山口
- 岩崎仁志(1998)「狐塚古墳」, 山口市教育委員会(編)『平成6～9年度 重要遺跡確認緊急調査報告書』山口県埋蔵文化財調査

- 報告 第185集, 山口
- 宇野慎敏ほか(2002)『山口の古墳』, 第28回九州・山口古墳時代研究会(編), 北九州(福岡)
- 奥原栄一郎(1998)『大浦古墳群 3号墳』, 山口県埋蔵文化財センター(編)『浦辺古墳群 大浦古墳群 梅ヶ崎古墳群 小郡開作経塚』山口県埋蔵文化財センター調査報告第1集, 山口
- 尾野采明(1979)『朝田墳墓群第Ⅳ地区 第2号横穴墓』, 山口県教育委員会文化財課(編)『朝田墳墓群Ⅲ・Ⅳ 糸米遺跡』山口県埋蔵文化財調査報告第45集, 山口
- 斎藤英夫(1976)『第4号墳』, 朝倉河内古墳群発掘調査委員会(編)『朝倉河内古墳群調査報告書』山口市埋蔵文化財調査報告第4集, 山口
- 佐伯敬紀(1958)『先史時代』, 河野通敏(編)『大内村誌』, 山口
- 佐伯敬紀(1961)『大内町の諸遺跡』, 山口県教育委員会(編)『山口県文化財概要 第4集』, 山口
- 谷口哲一(1986)『大内水上古墳』山口県埋蔵文化財調査報告第96集, 山口県教育委員会文化課・山口県埋蔵文化財センター(編), 山口
- 豊島正行(1998)『大浦古墳群 3号墳』, 山口県埋蔵文化財センター(編)『浦辺古墳群 大浦古墳群 梅ヶ崎古墳群 小郡開作経塚』山口県埋蔵文化財センター調査報告第1集, 山口
- 富士塾勇ほか(1971)『馬塚古墳』, 山口県教育庁社会教育課(編), 山口
- 富士塾勇ほか(1987)『青井・大迫古墳群』, 富士塾塾(編), 下関(山口)
- 文化庁文化財保護部(1974)『全国遺跡地図 35 山口県』, 東京
- 前田耕次ほか(1984)『大塚古墳』山口県埋蔵文化財調査報告第78集, 山口県教育委員会文化課・山口県埋蔵文化財センター(編), 山口
- 前田耕次(1988)『小野田桜の木古墳』小野田市埋蔵文化財調査報告第3集, 小野田市教育委員会(編), 山陽小野田(山口)
- 森田孝一(2001a)『山口市高尾山古墳群内の表採掘遺物に関して』, 森田孝一(編)『山口県考古学研究資料集報』, 美祿(山口)
- 森田孝一(2001b)『山口市水上遺跡(仏供田遺跡)の破壊と遺物について』, 森田孝一(編)『山口県考古学研究資料集報』, 美祿(山口)
- 森田孝一(2019)『小野忠熙先生追悼集 略歴』, 山口考古学会(編)『山口考古』第39号, 防府(山口)
- 山本博(1936a)『周防御嶺出土の弥生式遺物—石蓋土壇—』, 日本考古学会(編)『考古学雑誌』26巻3号, 東京
- 山本博(1936b)『周防・御嶺出土の弥生式遺物—石蓋土壇—』, 日本考古学会(編)『考古学雑誌』26巻8号, 東京
- 横山成己(2020)『館蔵品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—』, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成27年度—』, 山口
- 横山成己(2021a)『地域連携トピックス 講座「古代ウォーク」』, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『てらこや理文 令和3年春号』山口大学埋蔵文化財資料館通信第61号, 山口
- 横山成己(2021b)『1.実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査(5)遺物』, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成28年度—』, 山口
- 吉田寛(1986)『吉田遺跡採集の円筒埴輪について』, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』, 山口

表10 遺物(土器)観察表

法量()は復元値 △は残存値

遺物番号	シナナシ の形	器種	部位	法量(cm) (復元値)残存値	色調 (色相 塗内層)	胎土	焼成	備考
M011	シナナシ 器口	横形器 杯形	先筒部 口縁	①10.7~11.8 ②1.2 ③0.6~4.4	①灰白色(N)~灰赤色(N4) ②灰赤色(N4)	黄	良好	先筒部の寸法が揃い、口縁にノーズが付いている。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M012	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁 ~底筒	①10.20 ②1.15	①灰白色(N4)② ③灰白色(N4)	黄	やや劣	口縁が割れて内側に横溝が浅く付いている。口縁に口縁に凹凸がある。口縁に口縁で割って付いている。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M013	シナナシ 器口	横形器 杯形	先筒部 口縁	①10.60 ②0.11	①灰白色(N)	黄	良好	先筒部の寸法が揃い、口縁にノーズが付いている。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M014	シナナシ 器口	横形器 杯形	先筒部 口縁	①10.70 ②1.00 ③0.10	①灰白色(N)②③黄褐色(N4)④ ⑤黒褐色(N4)⑥⑦	黄	良好	先筒部の寸法が揃い、口縁にノーズが付いている。内面に下方方向のノーズが浅く付いている。外側に口縁に細かな凹凸がある。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M015	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.10	①灰白色(N)	黄	やや劣	器口の先筒部で、器口の先筒部に口縁に細かな凹凸がある。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M016	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.10	①灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M017	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.17	①灰白色(N)	黄	良好	器口の先筒部で、器口の先筒部に口縁に細かな凹凸がある。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M018	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.13	①灰白色(N)②灰赤色(N4)	黄	良好	器口の先筒部で、器口の先筒部に口縁に細かな凹凸がある。外側に口縁に細かな凹凸がある。
M019	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.18	①灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0110	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.80 ②0.18	①灰白色(N)②灰赤色(N4)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0111	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0112	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0113	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0114	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0115	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.11	①灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0116	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①0.47	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0117	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0118	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0119	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0120	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0121	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	やや劣	口縁部が割れて、下部がある。
M0122	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0123	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0124	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0125	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0126	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0127	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0128	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0129	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0130	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0131	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0132	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0133	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0134	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。
M0135	シナナシ 器口	横形器 杯形	口縁部	①10.10 ②0.17	①灰白色(N)② ③灰白色(N)	黄	良好	口縁部が割れて、下部がある。

付篇2

吉田遺跡古代理没谷出土の木製品(Ⅰ)

横山 成己

1. はじめに(図75・76)

発掘調査開始期の吉田遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡として著名であったが、吉田構内南東部においては、総合研究棟新営に伴う発掘調査(田畑2017)が実施された平成12年度以降、主として共同獣医学部(平成24年4月新設、旧名称は農学部連合獣医学科)の施設拡充を目的とした工事計画が頻出し、発掘調査が繰り返し実施されたことにより、官衙遺跡としても著名となりつつある。調査成果を見ると、いずれの調査区においても南東の山地を起源とし、北西に走る谷筋を検出しており、谷右岸傾斜地には大型掘立柱建物跡や総柱建物跡、柵列など古代官衙に関連する施設と目される遺構が確認されている(田畑2004・2017、横山・藤野2010、横山2012・2019・2020、川島・横山2021)。谷の埋土からは、千字文を書写した音義木簡や「官」「主」「口少カ 殿」などが記された墨書土器、円面硯などの文字関連資料、蛇尾末製品や銅鉾石、輪羽口などの金属製造関連資料が出土しており、やはり官衙の存在を強く示唆している。このほか当谷筋に関しては、調査域の南東部に限定して多量の木製品が出土することも注目されている(図75)。木製品には前述の音義木簡のほか、曲物、斧柄、横槌、木錘、杭、建築部材など原形の判明する資料が含まれているものの、そのいずれもが破損品である。出土状況からは、破損した土器および木製品などの廃材を谷底に投棄した様子がうかがえるため、近隣地に厨房や木工工房などの施設が存在した可能性を指摘することが可能である。

平成18年度に実施した動物医療センター(旧名称:農学部附属家畜病院)改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査では、谷右岸傾斜地に柱根腐食痕の残る掘立柱建物跡1、1間×2間の小規模建物である掘立柱建物跡2、その建替え建物で、柱根が遺存する大型の掘立柱建物跡3(1間×3間以上)などの遺構が検出されたほか、遺物包含層および谷埋土からは、やはり多量の須恵器片と少量の都城系土師器、緑釉陶器などが出土しており、木製品の廃材も数多く出土した。

出土した木製品に関しては、調査概報刊行時点では、先行して保存処理を行った掘立柱建物跡3の柱根3点以外は樹種同定が行えていなかった(横山・藤野2010)。その他63点の木製品に関しては、高級アルコール法による保存処理と樹種同定を(株)吉田生物研究所に委託し、平成21から24年度にかけて順次実施した。遅ればせながら本稿にて報告を行いたい。なお、樹種同定結果の詳細は本書付篇3に所収している。

2. 遺物の出土層位について(図76)

平成18年度の調査では、旧耕土および旧床土下位の基本層序を、遺物包含層L3、谷埋土(水性堆積)L1~4、下位の遺物包含層を大別してL4~6と分類した。その後の調査の層序との対応は、

(平成18年度)	(平成20年度)	(平成26年度以降)
遺物包含層 L 3	遺物包含層 2	遺物包含層 2
谷埋土 L 1	谷埋土 1	谷埋土 1
谷埋土 L 2	谷埋土 2	谷埋土 2 上層
谷埋土 L 3	谷埋土 3	谷埋土 2 下層
谷埋土 L 4	谷埋土 3	谷埋土 2 下層

遺物包含層8(L6)……谷理土4上層……谷理土3上層

遺物包含層9(L6)……谷理土4下層か……谷理土3下層か

遺物包含層谷10(L6)……谷理土5か……谷理土4か

となる可能性が高いと思われるが、遺物に関しては大きな相違も見られる。平成18年度調査遺物包含層8・9(L6)には7世紀後半の土器が多量に含まれるのに対し、平成26年度調査谷理土3では8世紀代の土器が主体となっており、遺物包含層10(L6)と同一層の可能性のある谷理土4には遺物がほとんど含まれていなかった。木製品は平成20年度調査谷理土4上層に、平成26年度調査谷理土3上層に集中するのに対し、平成18年度調査では遺物包含層8(L6)にも含まれるが、9、10層(L6)から多量の出土を見た。これらの状況から、遊離地点での谷理土の層序は、安易に同一視すべきでないとする。

3. 出土木製品の名称(分類)と概要(図77～81、表11～13)

本稿では、出土木製品における樹種の傾向を考察するため、調査概報に掲載した資料名称に若干の修正を加え、「柱根」「曲物」「刳物」「棒状製品」「角杭」「丸杭」「角材」「板材」「端材」「火付け木」の10種に分類し直した。遺物番号は変更していない。

このうち火付け木としたものは、棒や板状製品の先端または両端が焦げているもので、平成18年度および平成20年度調査報告では「松明」に分類し報告を行ったが、近年は「付け木」「燃えさし」として報告される例(藤田2014、浦2021)が散見されるようになった。当館では、平成26年度調査以降は同様の木製品を灯火具(松明)ではなく、着火や移し火に用いたものと判断し、中世後半以降、近代まで使用された民具資料「付け木(ヒノキなどの薄い木片(柿)に硫黄を塗布したもの)」と区別するため、「火付け木」という名称で分類することとしている。

なお、調査概報にて掲載した観察表(110～111頁の表5 出土遺物(木製品)観察表)には誤記が多々存在する。お詫び申し上げるとともに、本稿をもって修正したい。

遺構出土木製品 掘立柱建物跡3(図77の386～391、393)

Pit3、Pit4、Pit6に遺存していた柱根**386～388**の樹種はいずれもヒノキ科アスナロ属である(吉田生物研究所2010)。いずれも表面に炭化が見られる。**386**は幅細のチョウナ痕が残り、断面楕円形を呈しているが、**387**は11角形、**388**は9角形を呈している。**386、387**の外下面下端付近に見られる溝は、エツリ穴(イカダ穴)と同じ役割を有したと考えられる。

389～391、393も掘立柱建物跡3を構成する遺構から出土したものである。Pit1出土の板材**389**の樹種はイチイ科カヤ属カヤ、端材**390・391**の樹種はヒノキ科アスナロ属である。SP2出土角材**393**の樹種はイチイ科カヤ属カヤである。

遺構出土木製品 掘立柱建物跡2(図77の392)

掘立柱建物跡2Pit6出土品**392**は、棒状に加工された製品の端部が炭化したもので、火付け木である。樹種はヒノキ科アスナロ属。

谷理土出土木製品(図78)

総数で13点が出土している。

397は平面楕円形(長軸径16.1cm)の曲物蓋で、樹種はヒノキ科アスナロ属。**394**は上下を切断した角材で、作業台として広面(柃目面)を使用している。樹種はヒノキ科アスナロ属。**395・396**は端材で、樹種はともにヒノキ科アスナロ属。**399～406**は板材とした。**400**は図左側部上面が断面方形に肥厚していることから、元来刳物であった可能性を有している。**400～402**は端部が斜めに切り落とされており、以降の

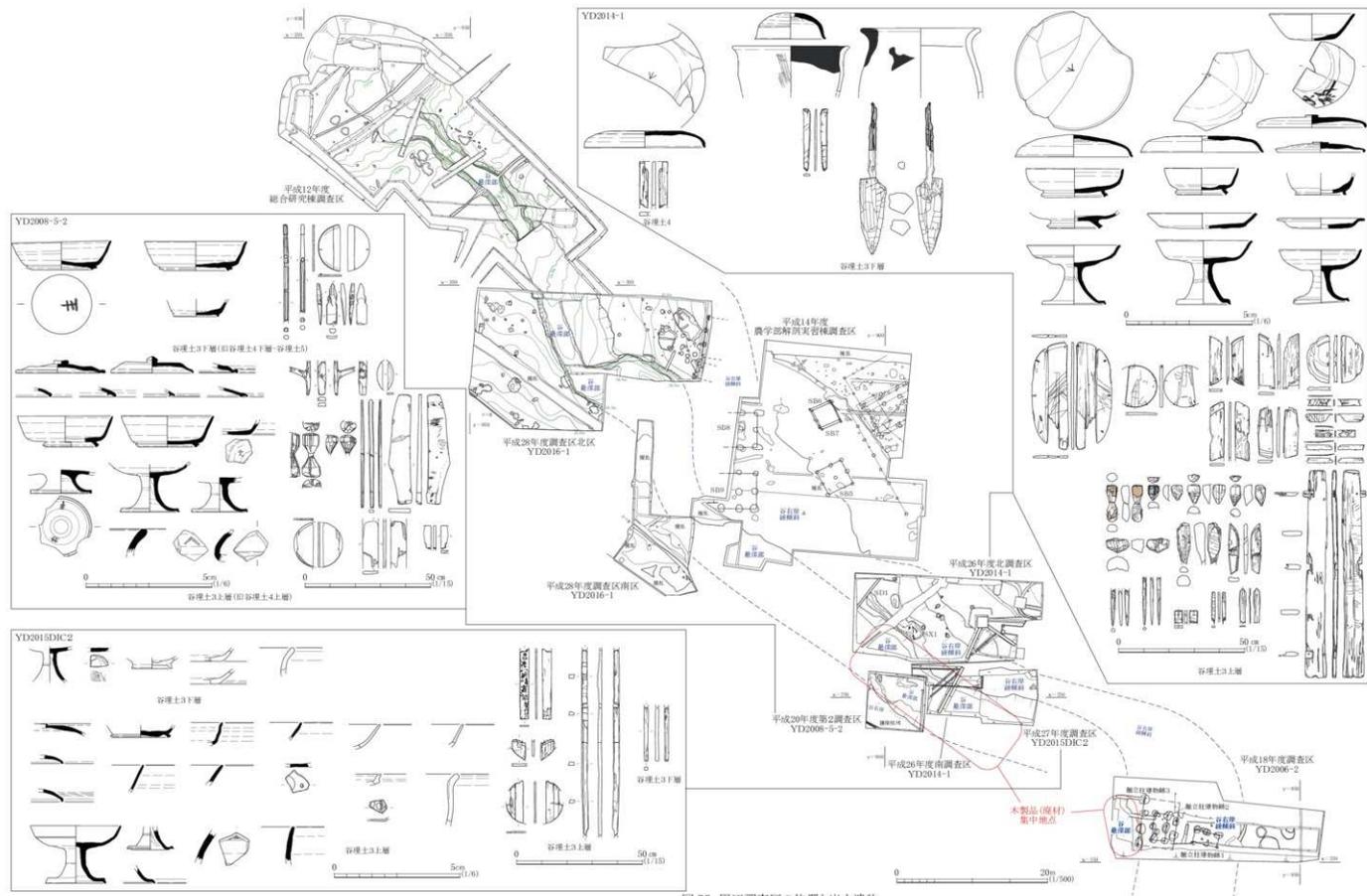


図 75 周辺調査区的位置と出土遺物

吉田遺跡古代理段谷出土土木製品の木製品(1)

【谷埋土】

- (1) 灰白色(2.574/1)砂質土…谷埋土1.1
 (2) 灰色(0.941/1)粘結砂質土…谷埋土1.1
 (3) 灰色(0.941/1)粘結砂質土…谷埋土1.2
 (4) オリーブ黒色(7.573/1)粘結砂質土…谷埋土1.3
 (5) 灰色(7.573/1)粘結砂質土…谷埋土1.4
 小縦(0.5~2cm)多く混ざる…谷埋土1.4



- 1 灰黒褐色(10.084/2)砂質土…埋土
- 2 灰黒褐色(12.535/2)粘結砂質土…埋土
- 3 埋土
- 4 灰白色(2.574/2)灰褐色(10.085/2)を混ざる砂質土…埋土
- 5 灰褐色(10.085/2)粘結砂質土…埋土
- 6 灰褐色(10.085/2)粘結砂質土…埋土
- 7 灰褐色(10.085/2)粘結砂質土…埋土
- 8 灰褐色(10.085/2)粘結砂質土…埋土
- 9 埋土
- 10 埋土
- 11 埋土
- 12 埋土
- 13 埋土
- 14 埋土
- 15 埋土
- 16 埋土
- 17 埋土
- 18 埋土
- 19 埋土
- 20 埋土
- 21 埋土
- 22 埋土
- 23 埋土
- 24 埋土
- 25 埋土
- 26 埋土
- 27 埋土
- 28 埋土
- 29 埋土
- 30 埋土
- 31 埋土
- 32 埋土
- 33 埋土
- 34 埋土
- 35 埋土
- 36 埋土
- 37 埋土
- 38 埋土
- 39 埋土
- 40 埋土
- 41 埋土
- 42 埋土
- 43 埋土
- 44 埋土
- 45 埋土
- 46 埋土
- 47 埋土
- 48 埋土
- 49 埋土
- 50 埋土
- 51 埋土
- 52 埋土
- 53 埋土
- 54 埋土
- 55 埋土
- 56 埋土
- 57 埋土
- 58 埋土
- 59 埋土
- 60 埋土
- 61 埋土
- 62 埋土
- 63 埋土
- 64 埋土
- 65 埋土
- 66 埋土
- 67 埋土
- 68 埋土
- 69 埋土
- 70 埋土
- 71 埋土
- 72 埋土
- 73 埋土
- 74 埋土
- 75 埋土
- 76 埋土
- 77 埋土
- 78 埋土
- 79 埋土
- 80 埋土
- 81 埋土
- 82 埋土
- 83 埋土
- 84 埋土
- 85 埋土
- 86 埋土
- 87 埋土
- 88 埋土
- 89 埋土
- 90 埋土
- 91 埋土
- 92 埋土
- 93 埋土
- 94 埋土
- 95 埋土
- 96 埋土
- 97 埋土
- 98 埋土
- 99 埋土
- 100 埋土

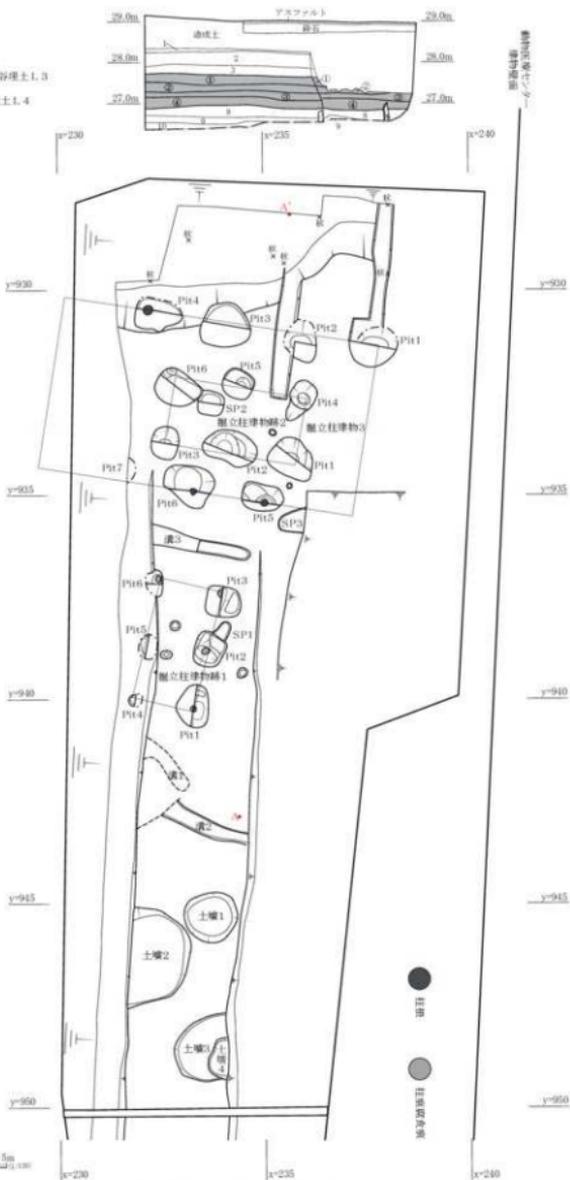


図 76 平成 18 年度調査区平面図・断面図

調査でも同様の特徴を有する腐材が多数確認されている。401・403の樹種はイチイ科カヤ属カヤで、他はヒノキ科アスナロ属である。398はヘラ状に加工した材の先端がわずかに炭化した火付け木である。樹種はヒノキ科アスナロ属。

遺物包含層L6出土木製品(図79～83)

総数で45点が出土している。

430は平面長方形を呈する刳物で、短辺は底面からはほぼ垂直に、長辺は底面から外傾して立ち上がる。深さ2.8cmの削り抜き部も平面長方形で、底面に向かい内傾して削り込まれている。樹種はヒノキ科アスナロ属。

板材は15点(425～429、441～448、450・451)出土している。425～429は端部が斜めに切り落とされており、429は表面が部分的に炭化している。板材については、木簡の可能性も考えられることから、保存処理時に赤外線による調査を依頼しているが、当資料群に墨痕は確認されていない。樹種は429がブナ科クリ属クリ、444がスギ科スギ属スギ、以外はヒノキ科で425～428、442・443、451の7点がヒノキ属、他の6点がアスナロ属である。

棒状製品は3点(432・433、449)が出土している。432は図上下両端を欠失しており、現存長64cmを測る棒状製品である。図上部断面は不定形な五角形を呈し、図下に向かい緩やかに細まり、断面は台形状に成形されている。433は現存長15cmの断面隅丸長方形の棒状製品で、図上部の全周が段状に削り込まれ、断端で折損している。449は現存長31.2cm、断面長方形の棒状製品で、図上端を斜めに切り落としており、図下端は欠損している。樹種は432がヒノキ科ヒノキ属、他の2点はヒノキ科アスナロ属。

411～412の3点は、ここでは角杭とした。411は角材の図下端を3方向から、412は2方向から切り落として杭先を成形しているが、図上端は両者ともに水平に切り落とされている。413は断面長方形の棒状製品の図下端を杭先状に尖らせたもので、図上端は折損している。現存長39.4cmを測る。樹種はいずれもヒノキ科ヒノキ属である。

407～410、414～416、418～420、423・424、431の13点は、丸杭または杭とした。407、408は杭先で、チョウナにより先端部を成形している。409は小片であるが杭先の一部である可能性が高い。410も図下端にチョウナによる切り落とし痕が残るが、柱材などの可能性もある。414の杭先にはチョウナ痕が明瞭に残り、415は腐食が進行しているため不明瞭である。423・424の図下端にも切り落とし面が認められるため、杭先の可能性がある。416、418～420、431には杭先が見られないが、切断面が見られることから、自然木ではなく杭の一部と見なしておく。これらの樹種は多様で、イチイ科カヤ属カヤ、バラ科サクラ属、ハイノキ科ハイノキ属、キブシ科キブシ属キブシ、ツバキ科ヒサカキ属、ブナ科ではクリ属クリ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が見られる。

火付け木は7点(434～440)が出土している。いずれも棒状、もしくはヘラ状の加工木で、資料数は少ないながら、全長から大型(長さ25cm程度 434～436)、中型(長さ15cm程度 437)、小型(長さ10cm程度 438～440)の3種に分類可能である。434～438は一方の端部(図下端)のみが炭化しており、439・440は両端が炭化している。樹種は436、439がヒノキ科ヒノキ属、他はマキ科マキ属イヌマキ。

417、421・422は不整形な端材である。422は全面が炭化している。樹種は417がヒノキ科ヒノキ属、421がヒノキ科アスナロ属、422がブナ科コナラ属アカガシ亜属である。

このほか、遺物包含層L6には多数の自然木が遺存していたが、調査では加工痕が認められたものだけをあげたため、自然木の樹種を確認できていない。試料として回収すべきもので、浅慮を恥じるばかりである。

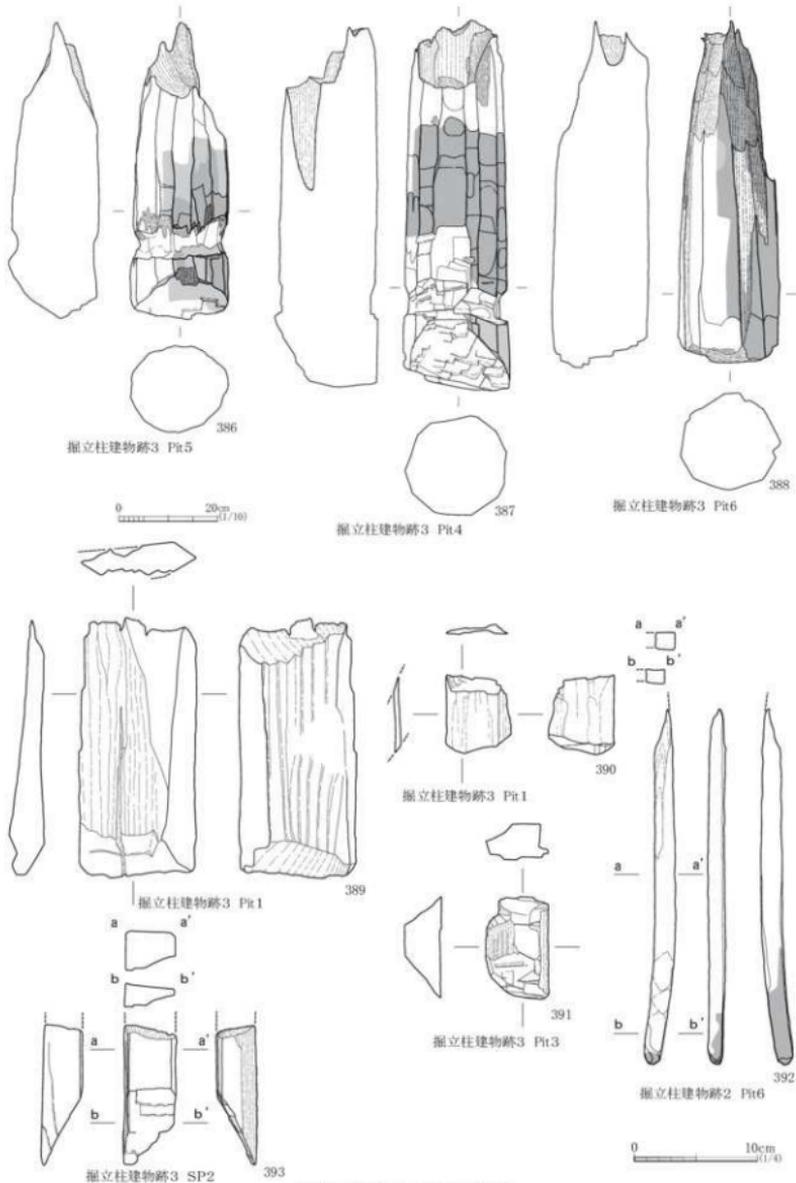


図77 遺構出土木製品実測図

吉田遺跡古代理段谷出土木製品の木製品(1)

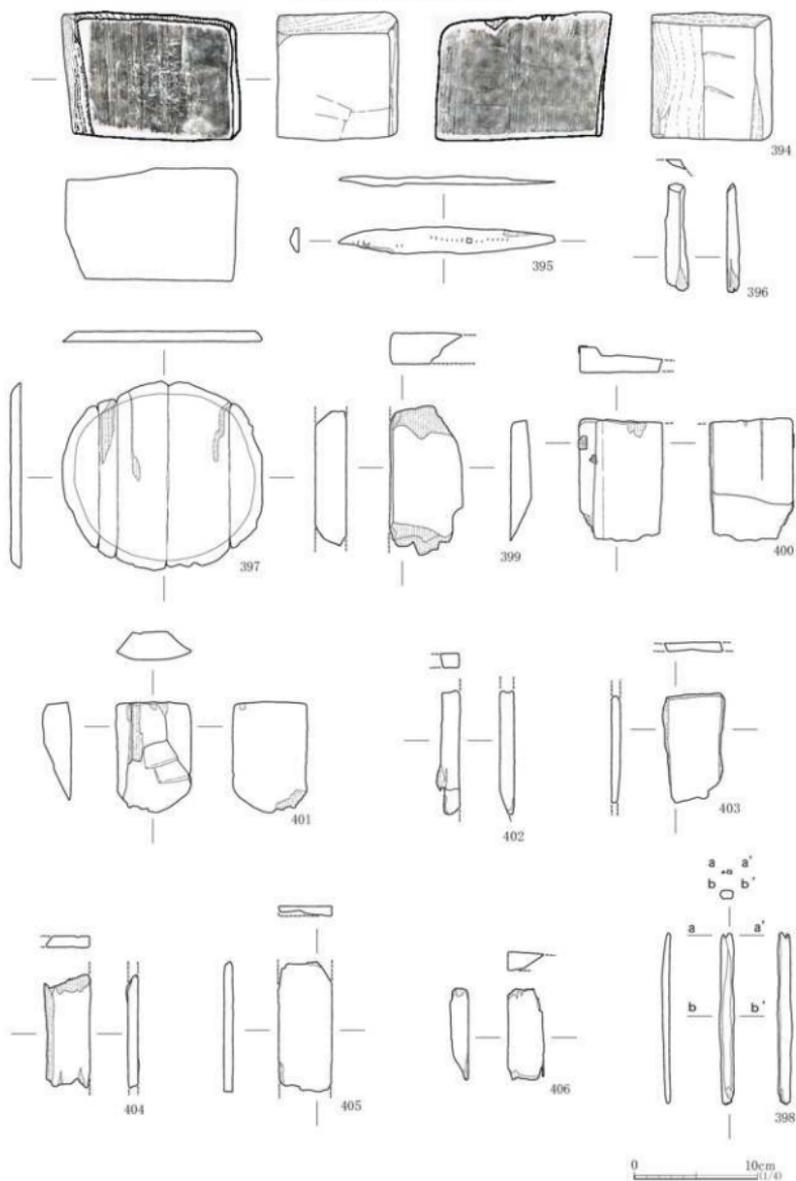


図 78 谷埋土出土木製品実測図

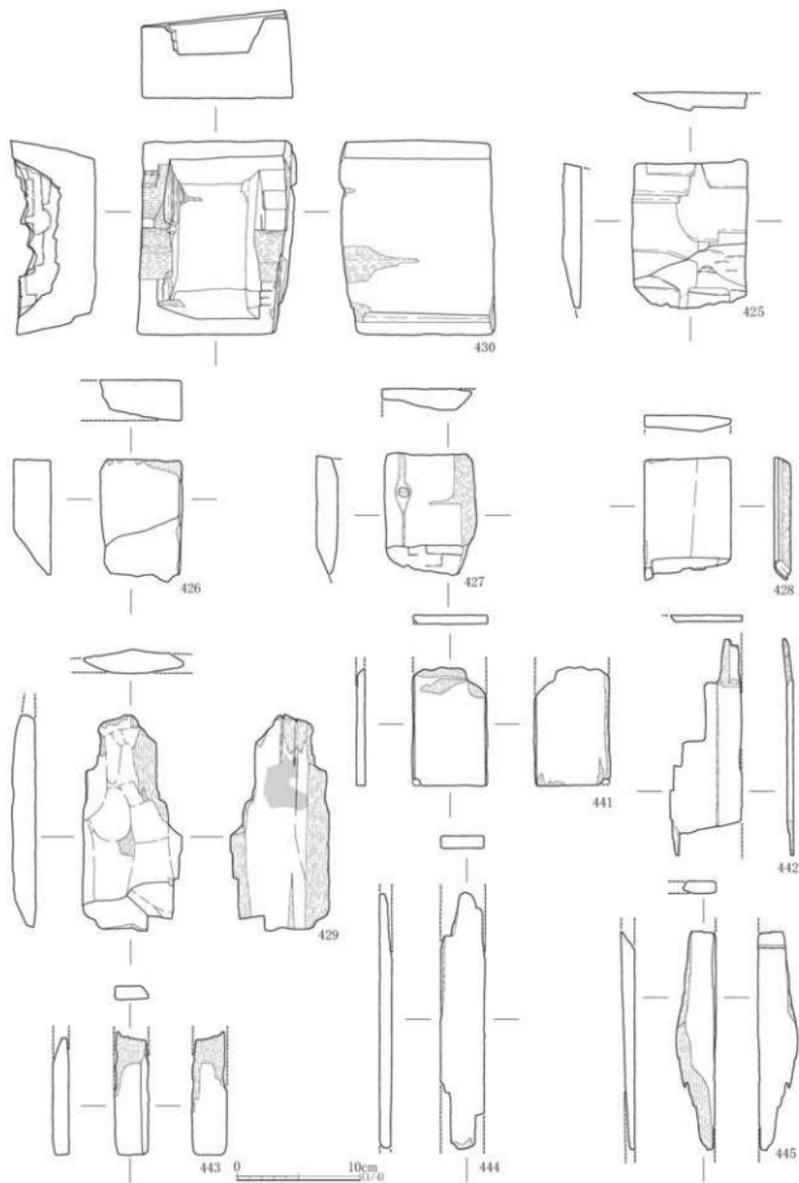


図 79 遺物包含層L6出土木製品実測図①

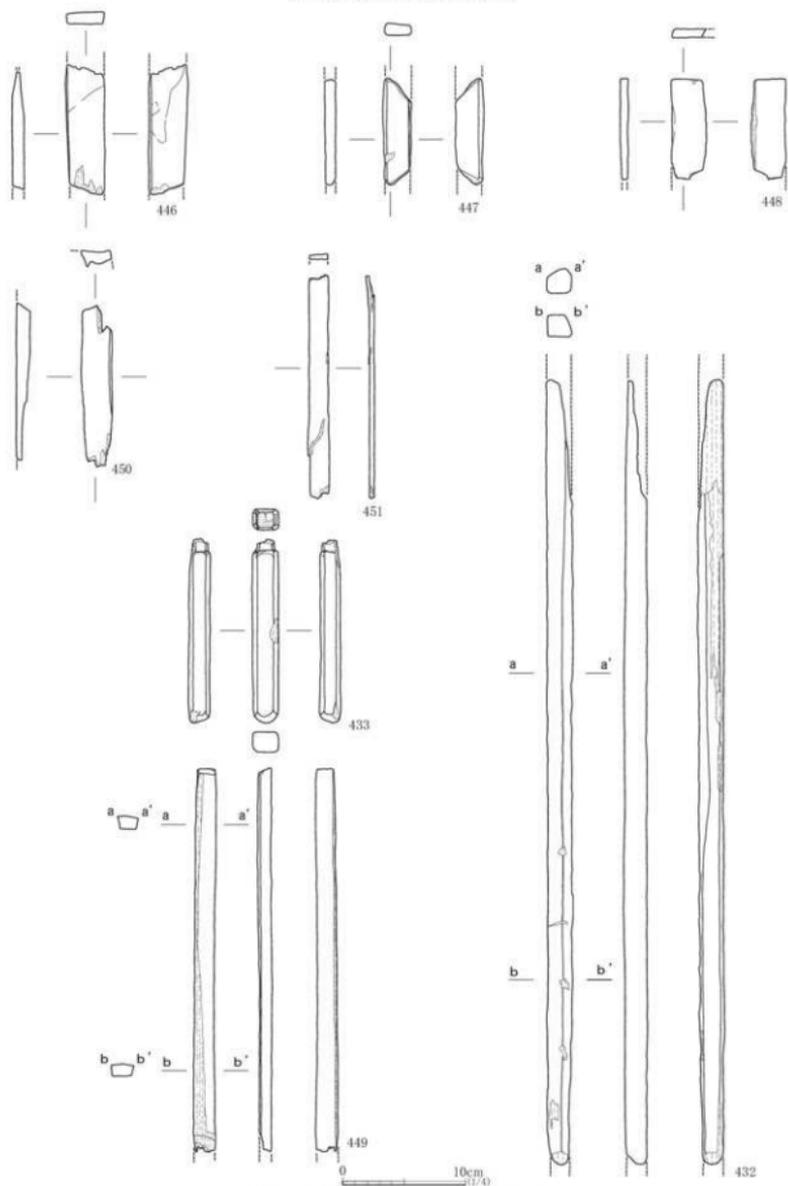


図80 遺物包含層L6出土木製品実測図②

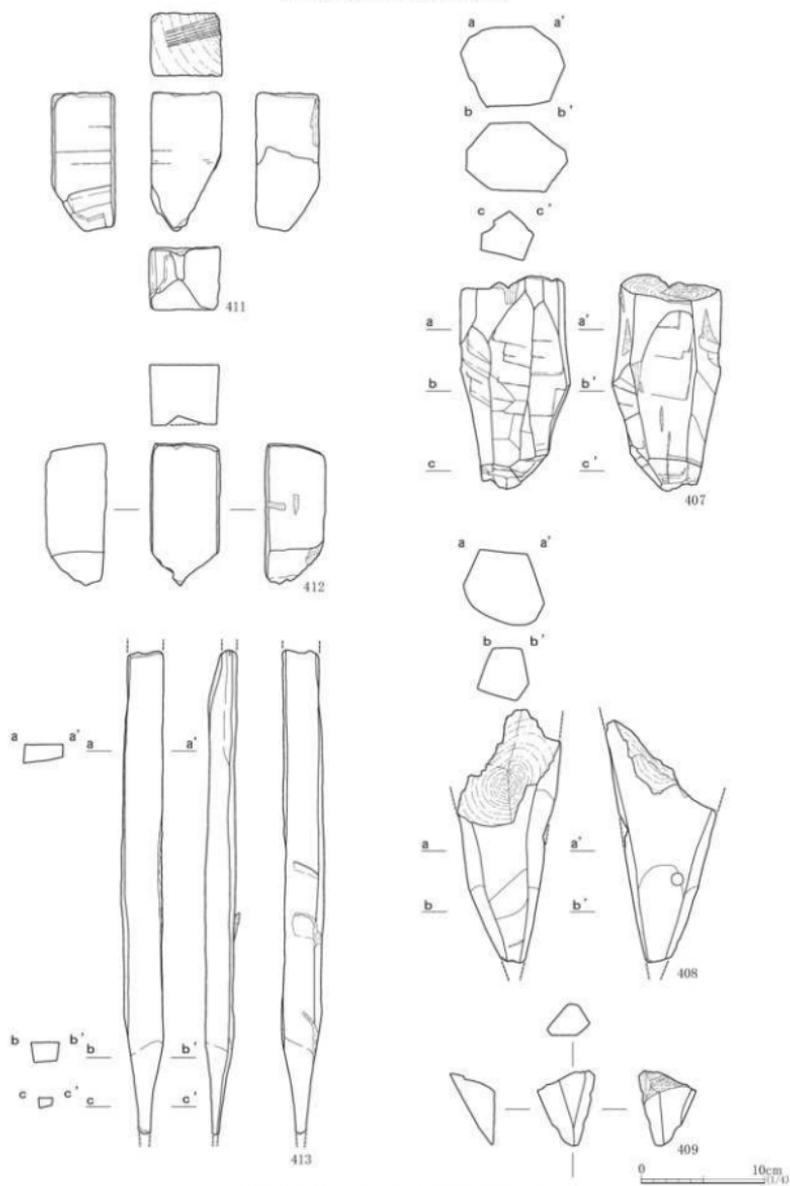
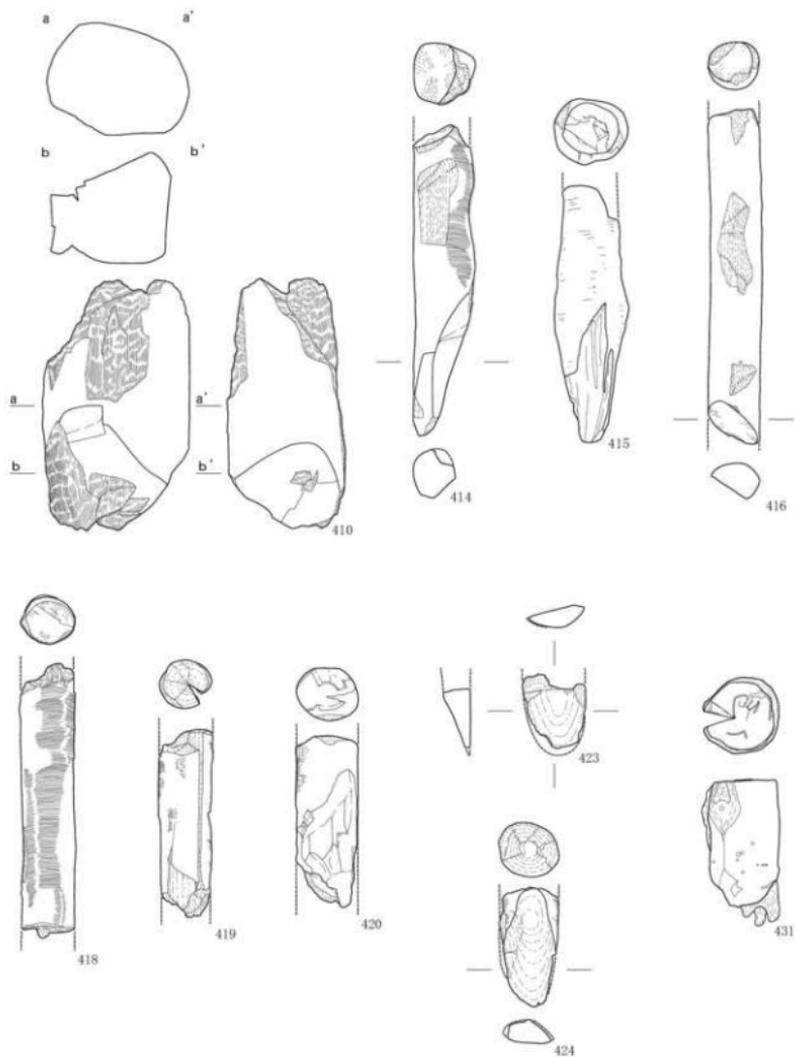
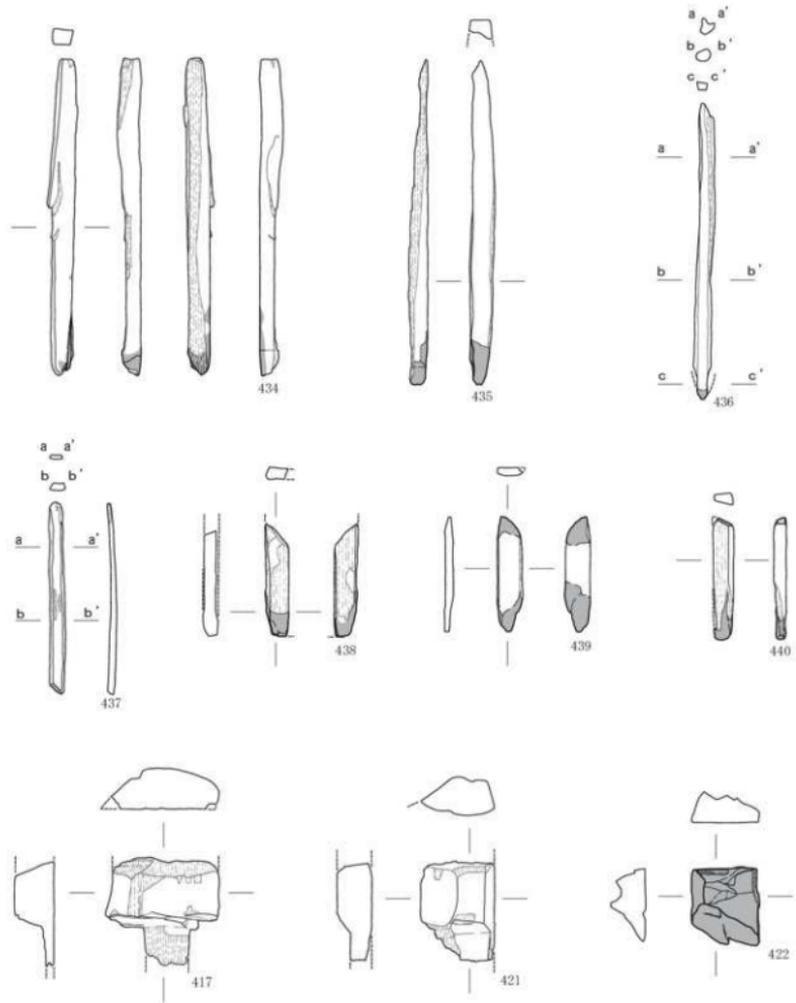


図 81 遺物包含層L6出土木製品実測図③



0 10cm
0/4

図 82 遺物包含層L6出土木製品実測図④



0 10cm
0/4

図 83 遺物包含層L6出土木製品実測図⑤

表 11 遺構出土木製品観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm)	樹種	備考
386	竪立柱建物3 P65	柱	残長60.5 最大径19.7	ヒノキ科アスナロ属	表面が炭化する
387	竪立柱建物3 P64	柱	残長75.7 最大径21.5	ヒノキ科アスナロ属	表面が炭化する
388	竪立柱建物3 P66	柱	残長69.8 最大径20.3	ヒノキ科アスナロ属	表面が炭化する
389	竪立柱建物3 P61	板材	残長20.2 残幅9.2 残厚1.9	イチイ科カヤ属カヤ	
390	竪立柱建物3 P61	端材	残長6.6 残幅5.2 残厚0.5	ヒノキ科アスナロ属	
391	竪立柱建物3 P63	端材	残長8.3 残幅5.2 残厚3.0	ヒノキ科アスナロ属	
393	竪立柱建物3 SP2	角材	残長11.3 残幅4.0 残厚3.2	イチイ科カヤ属カヤ	
392	竪立柱建物2 P66	火付け木	残長29.0 残幅1.6 残厚1.4	ヒノキ科アスナロ属	一方の先端が炭化する

表 12 谷埋土出土木製品観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm)	樹種	備考
397	谷埋土	曲物蓋	最大径16.1 厚み0.9	ヒノキ科アスナロ属	
394	谷埋土	角材(作業台)	長さ10.5 幅13.9 厚み9.2	ヒノキ科アスナロ属	
395	谷埋土	端材	残長17.5 幅2.1 厚み0.7	ヒノキ科アスナロ属	
396	谷埋土	端材	残長8.8	ヒノキ科アスナロ属	
399	谷埋土	板材	残長12.1 残幅5.8 厚み2.5	ヒノキ科アスナロ属	
400	谷埋土	板材	残長10.0 残幅6.7 最大厚2.1	ヒノキ科ヒノキ属	
401	谷埋土	板材	長さ8.0 幅6.1 最大厚2.3	イチイ科カヤ属カヤ	
402	谷埋土	板材	残長10.0 残幅1.5 厚み1.2	ヒノキ科アスナロ属	
403	谷埋土	板材	残長9.1 残幅4.7 厚み0.7	イチイ科カヤ属カヤ	
404	谷埋土	板材	残長8.2 残幅3.5 厚み0.9	ヒノキ科アスナロ属	
405	谷埋土	板材	残長10.6 幅4.3 厚み0.7	ヒノキ科アスナロ属	
406	谷埋土	板材	残長7.5 残幅2.9 厚み1.5	ヒノキ科アスナロ属	
398	谷埋土	火付け木	長さ13.9 幅1.1 最大厚0.6	ヒノキ科アスナロ属	一方の先端が炭化する

表 13 遺物包含層L6出土木製品観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm)	樹種	備考
430	遺物包含層 L6	判物	長さ15.8 幅12.3 厚み6.9 内法 上端長さ13.1 上端幅 8.0 下端長さ8.5 下端幅 5.4 深さ2.7	ヒノキ科アスナロ属	
425	遺物包含層 L6	板材	残長22.1 残幅9.2 残厚1.5	ヒノキ科ヒノキ属	
426	遺物包含層 L6	板材	残長10.0 残幅6.6 厚み3.3	ヒノキ科ヒノキ属	
427	遺物包含層 L6	板材	残長9.9 残幅7.2 最大厚1.7	ヒノキ科ヒノキ属	
428	遺物包含層 L6	板材	残長10.0 幅7.0 厚み1.2	ヒノキ科ヒノキ属	
429	遺物包含層 L6	板材	残長17.4 残幅8.0 最大厚2.0	ブナ科クヌ属ク	表面が炭化する
441	遺物包含層 L6	板材	残長9.6 幅6.0 厚み0.7	ヒノキ科アスナロ属	
442	遺物包含層 L6	板材	残長17.6 残幅5.8 厚み0.5	ヒノキ科ヒノキ属	
443	遺物包含層 L6	板材	残長10.0 幅2.7 厚み1.3	ヒノキ科ヒノキ属	

遺物番号	遺構	器種	分量(cm)	樹種	備考
444	遺物包含層 1.6	板材	残長20.7 幅3.5 厚み1.0	スギ科スギ属スギ	
445	遺物包含層 1.6	板材	残長17.8 残幅3.2 厚み1.0	ヒノキ科アスナロ属	
446	遺物包含層 1.6	板材	残長10.6 幅3.1 厚み1.0	ヒノキ科アスナロ属	
447	遺物包含層 1.6	板材	残長8.7 幅2.3 厚み1.0	ヒノキ科アスナロ属	
448	遺物包含層 1.6	板材	残長8.2 残幅2.8 厚み0.7	ヒノキ科アスナロ属	
450	遺物包含層 1.6	板材	残長13.0 残幅2.5 残厚1.3	ヒノキ科アスナロ属	
451	遺物包含層 1.6	板材	残長17.2 幅1.5 厚み0.4	ヒノキ科ヒノキ属	
432	遺物包含層 1.6	棒状製品	残長64.0 幅2.0 厚み1.8	ヒノキ科ヒノキ属	
433	遺物包含層 1.6	棒状製品	長315.0 幅2.1 厚み1.6	ヒノキ科アスナロ属	
449	遺物包含層 1.6	棒状製品	残長31.2 幅1.8 厚み0.9	ヒノキ科アスナロ属	
411	遺物包含層 1.6	角杭	残長11.3 幅5.7 厚み5.0	ヒノキ科アスナロ属	
412	遺物包含層 1.6	角杭	残長11.6 幅5.6 厚み4.9	ヒノキ科アスナロ属	
413	遺物包含層 1.6	角杭	残長39.4 幅3.1 最大厚1.6	ヒノキ科アスナロ属	
407	遺物包含層 1.6	杭	残長17.4 幅8.9 厚6.4	イチイ科カヤ属カヤ	
408	遺物包含層 1.6	杭	残長19.6 残幅7.6 残厚6.1	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	
409	遺物包含層 1.6	杭か	残長6.1 残幅4.6 残厚4.6	バウ科サクラ属	
410	遺物包含層 1.6	杭か	残長20.5 幅11.9 厚み9.0	ハイノキ科ハイノキ属	
414	遺物包含層 1.6	丸杭	残長25.3 最大径5.0	キブシ科キブシ属キブシ	
415	遺物包含層 1.6	丸杭	残長20.9 最大径6.0	ブナ科クリ属クリ	
416	遺物包含層 1.6	丸杭か	残長27.3 最大径4.2	キブシ科キブシ属キブシ	切断面が残る
418	遺物包含層 1.6	丸杭か	残長22.4 最大径4.5	ツバキ科ヒサカキ属	切断面が残る
419	遺物包含層 1.6	丸杭か	残長15.3 最大径4.2	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	切断面が残る
420	遺物包含層 1.6	丸杭か	残長14.0 最大径5.0	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	切断面が残る
423	遺物包含層 1.6	丸杭	残長6.0 最大径5.1	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
424	遺物包含層 1.6	丸杭	残長9.7 最大径4.8	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
431	遺物包含層 1.6	丸杭か	残長11.9 最大径6.5	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節	切断面が残る
434	遺物包含層 1.6	火付け木	残長25.9 幅1.8 厚み1.3	マキ科マキ属イヌマキ	一方の先端が炭化する
435	遺物包含層 1.6	火付け木	残長26.5 残幅1.9 残厚1.6	マキ科マキ属イヌマキ	一方の先端が炭化する
436	遺物包含層 1.6	火付け木	残長25.1 残幅1.2 残厚1.0	ヒノキ科ヒノキ属	一方の先端が炭化する
437	遺物包含層 1.6	火付け木	残長15.7 幅1.1 厚み0.6	マキ科マキ属イヌマキ	一方の先端が炭化する
438	遺物包含層 1.6	火付け木	残長9.2 幅1.9 厚み1.0	マキ科マキ属イヌマキ	一方の先端が炭化する
439	遺物包含層 1.6	火付け木	残長9.3 残幅2.0 厚み0.7	ヒノキ科ヒノキ属	両端が炭化する
440	遺物包含層 1.6	火付け木	残長10.0 幅1.6 厚み1.0	マキ科マキ属イヌマキ	両端が炭化する
417	遺物包含層 1.6	端材	残長8.8 残幅8.8 厚み3.2	ヒノキ科ヒノキ属	
421	遺物包含層 1.6	端材	残長8.1 残幅6.0 残厚3.1	ヒノキ科アスナロ属	
422	遺物包含層 1.6	端材	残長6.3 残幅5.5 残厚2.8	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	全体が炭化している

4. 樹種に見る木製品の特徴(表14~16)

柱根を含め、遺構埋土から出土した木製品8点の樹種は、針葉樹のヒノキ科アスナロ属(6点)とイチイ科カヤ属カヤ(2点)に限られている。谷埋土から出土した木製品13点の樹種も同様の傾向を見せており、ヒノキ科アスナロ属(10点)とヒノキ属(1点)、イチイ科カヤ属カヤ(2点)に限られる。

一方、遺物包含層L6から出土した木製品45点には12種が確認されているが、全体での割合はヒノキ科が50%強を占めており、ブナ科の20%、マキ科マキ属イヌマキの11.4%を除くと他の樹種は5%未満(1~2点)である。

木製品の分類から概観すると、曲物などの製品と板・角・端材22点ではヒノキ科が86.4%(19点)で大多数を占めており、他は針葉樹のスギ、落葉広葉樹のブナ科クリ属クリ、常緑広葉樹のブナ科コナラ属アカガシ亜属であり、いずれも1点のみの出土である。遺構や谷埋土出土木製品の樹種割合からみても、建材や各種道具類の材として、ヒノキ科の樹木が主に使用されたと考えて良い。

これに対し、丸杭(杭)とした木製品13点の樹種はバリエーションに富んでおり、8種が確認されている。広葉樹のブナ科が53.9%(7点)とおよそ半数を占めており、バラ科サクラ属、ハイノキ科ハイノキ属、キブシ科キブシ属キブシ、ツバキ科ヒサカキ属とも広葉樹で、針葉樹はイチイ科カヤ属カヤの1種1点のみである。

以上の傾向から見ると、形状から角杭とした3点の木製品は、いずれもヒノキ科アスナロ属であることから、杭として製作されていない可能性が高い。

火付け木7点の樹種は針葉樹に限られており、マキ科マキ属イヌマキが71.6%(5点)を占め、他はヒノキ科ヒノキ属2点である。ただし、遺構および谷埋土から出土した火付け木2点の樹種がいずれもヒノキ科アスナロ属であることから、着火や移し火に際しては、ヒノキ科樹木とイヌマキが選択的に用いられたと理解しておきたい。

表14 遺構出土木製品の樹種

樹種	ヒノキ科アスナロ属	ヒノキ科ヒノキ属	スギ科スギ属スギ	イチイ科カヤ属カヤ	マキ科マキ属イヌマキ	ブナ科クリ属クリ	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	ブナ科コナラ属コナラ属	バラ科サクラ属	ハイノキ科ハイノキ属	キブシ科キブシ属キブシ	ツバキ科ヒサカキ属	総数
点数	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8
%	75	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	100

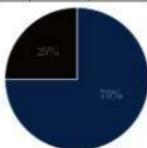


表15 谷埋土出土木製品の樹種

樹種	ヒノキ科アスナロ属	ヒノキ科ヒノキ属	スギ科スギ属スギ	イチイ科カヤ属カヤ	マキ科マキ属イヌマキ	ブナ科クリ属クリ	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	ブナ科コナラ属コナラ属	バラ科サクラ属	ハイノキ科ハイノキ属	キブシ科キブシ属キブシ	ツバキ科ヒサカキ属	総数
点数	10	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	13
%	76.9	7.7	0	15.4	0	0	0	0	0	0	0	0	100

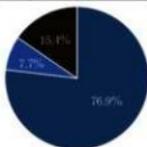


表16 遺物包含層L6出土木製品の樹種

木製品全点

樹種	ヒノ科 アスノ属	ヒノ科 ヒノ属	スギ科 スギ属スギ	イチイ科 カヤ属カヤ	マキ科 マキ属イヌマキ	ブナ科 ブナ属	ブナ科 コナラ属 コナラ属コナラ節	ブナ科 コナラ属 アカガシ属	バナ属 ササ属	ハイノ科 ハイノ属	キリン科 キリン属キリン	ツバキ科 ヒサカキ属	総数
点数	15	31	1	1	5	2	3	4	1	1	2	1	45
%	28.9	24.4	2.2	2.2	11.1	4.4	6.7	8.9	2.2	2.2	4.4	2.2	99.8



製品・板角材・端材

樹種	ヒノ科 アスノ属	ヒノ科 ヒノ属	スギ科 スギ属スギ	イチイ科 カヤ属カヤ	マキ科 マキ属イヌマキ	ブナ科 ブナ属	ブナ科 コナラ属 コナラ属コナラ節	ブナ科 コナラ属 アカガシ属	バナ属 ササ属	ハイノ科 ハイノ属	キリン科 キリン属キリン	ツバキ科 ヒサカキ属	総数
点数	10	9	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	22
%	45.5	40.9	4.5	0	0	4.5	0	4.5	0	0	0	0	99.9



角柱

樹種	ヒノ科 アスノ属	ヒノ科 ヒノ属	スギ科 スギ属スギ	イチイ科 カヤ属カヤ	マキ科 マキ属イヌマキ	ブナ科 ブナ属	ブナ科 コナラ属 コナラ属コナラ節	ブナ科 コナラ属 アカガシ属	バナ属 ササ属	ハイノ科 ハイノ属	キリン科 キリン属キリン	ツバキ科 ヒサカキ属	総数
点数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
%	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100



丸柱

樹種	ヒノ科 アスノ属	ヒノ科 ヒノ属	スギ科 スギ属スギ	イチイ科 カヤ属カヤ	マキ科 マキ属イヌマキ	ブナ科 ブナ属	ブナ科 コナラ属 コナラ属コナラ節	ブナ科 コナラ属 アカガシ属	バナ属 ササ属	ハイノ科 ハイノ属	キリン科 キリン属キリン	ツバキ科 ヒサカキ属	総数
点数	0	0	0	1	0	1	3	3	1	1	2	1	13
%	0	0	0	7.7	0	7.7	23.1	23.1	7.7	7.7	15.4	7.7	100.1



火付け木

樹種	ヒノ科 アスノ属	ヒノ科 ヒノ属	スギ科 スギ属スギ	イチイ科 カヤ属カヤ	マキ科 マキ属イヌマキ	ブナ科 ブナ属	ブナ科 コナラ属 コナラ属コナラ節	ブナ科 コナラ属 アカガシ属	バナ属 ササ属	ハイノ科 ハイノ属	キリン科 キリン属キリン	ツバキ科 ヒサカキ属	総数
点数	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	7
%	0	28.6	0	0	71.4	0	0	0	0	0	0	0	100



5. 2種の火付け木

火付け木に関しては、平城京ではヒノキが用いられていることが指摘されており、木製品製作時の端材や腐材が用いられたと推測されている(浦2021)。同じく遠方の資料ではあるが、大丹保遺跡出土(富山県砺波市)から出土した10点の樹種は、ヒノキ(5点)、アスナロ(4点)、マツ属(1点)であり、やはり木製品製作過程で生じた端材を利用し、点火具として使用するため先端部だけを加工したと推測されている(藤田2014, 2019)。山口県内では長登銅山跡(美祿市)での出土資料が挙げられる。大切ⅢC区1Tの谷埋土から多量に出土しており(図示は6点)、樹種はヒノキとされている。大切ⅢB区1Tの谷埋土28層(8世紀)からも数多く出土したとされるが、図示されたのは10点のみで、樹種はやはりヒノキとされる(池田ほか1993)。周防鋳銭司跡(山口市)からも先端が炭化した棒・板状製品が複数出土しているものの、報告書には樹種等詳細な記述がない(小田ほか1978)。このように見ると、古代の遺跡において火付け木は特異な存在ではなく、木製品製作過程で生じたヒノキ科樹木の端材を用いることが通例であったと考えられ、吉田遺跡においても一定数の存在から同様の風習であったと考えられる。その一方で、吉田遺跡では建材や工具、容器などの材として使用された形跡のないイヌマキが、火付け木として相当の割合を占めている状況を、どのように解釈するべきであろうか。

ヒノキ科樹木は着火性に優れることから、現在でもアウトドアシーンで薪として目にする事が多い。木製品製作過程で多数生じる端材であるばかりでなく、その性質も材の選択に大きく影響した可能性が指摘できる。

他方イヌマキは、当県では生垣用樹として日常的に目にするが、防火用樹としての役割もあるらしく、さらに耐水性があることから建築材(屋根板や天井板、縁板)に使用されるほか、桶や水槽、漁網の浮子などにも用いられている。さらに樹脂が多いことから、薪炭材としても利用されるそうである(林1969、西川・片山1977)。ヒノキ科と同じ針葉樹ではあるが、着火性に劣るものの火持ちは良い、ということであろう。

このように見ると、吉田遺跡では選択的に2種の樹木を用いた可能性が高いと思われる。短期的な火の使用にはヒノキ科を、一定時間が必要な火の使用にはイヌマキを用いたのではなかろうか。

火付け木は先端部が炭化しただけの端材であることから、発掘調査により出土したとしても、報告では割愛されやすい資料であろう。長登銅山跡、周防鋳銭司跡はいずれも金属鑄造を行う古代の官衙遺跡であり、吉田遺跡においても出土遺物から金属鑄造が行われたことが確実視されることから、遺跡の性格に結びつく重要な要素となる可能性を秘めている。今後の報告事例の増加を期待したい。

6. 花粉分析と木製品の樹種(図75、84・85)

平成14年度に実施された農学部校舎他改修(解剖実習棟校舎新営)に伴う発掘調査(田畑2004)では、埋没谷の右岸が検出されており、南北に並ぶ総柱建物跡や柵列等を確認している(図75)。当調査では、谷埋土を含む堆積層の花粉分析も実施されている(野井2004)ことから、ここで分析結果と木製品樹種との関係を確認しておきたい。

花粉分析の試料採取は、旧床土以下、谷埋土最下層の8・9層を除く全層で行われた(図84)が、分析されたのは3層(試料A3 黒褐色シルト)と4層(試料A4 灰色シルトに数cm大の礫・粗砂を多く含む)、5層(試料B2 灰色シルトに粗砂・シルトブロックを含む)、7層(試料B5 灰色粘土)である。正式な調査報告書が未刊行であることから断定はできないが、平成26年度に隣接地で実施した動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う発掘調査(横山2019)にて確認された層序と対応させると、下位より10層＝谷埋土5、9層＝谷埋土4、7層＝谷埋土3上層、6層＝谷埋土2下層、5層＝谷埋土2上

層、4層＝谷埋土1、3層＝遺物包含層2、2層＝遺物包含層1となる可能性が高い。平成26年度調査では、谷埋土3上層から多量の木製品廃材が投棄された状況で出土している。

野井氏による花粉分析では、7層堆積時の植生は「潜在自然植生であるシイ類・カシ類を種とする照葉樹林が今回の調査区周辺の広い範囲で残されていた」とする一方で、「イネ科花粉も60%程度検出され、マツ科花粉もみられることからすると、調査区の範囲に限ってみると、人間の植生への干渉がすでに始まっており、住居・水田・畑地など開発を目的とした照葉樹林の破壊が行われ、イネ科雑草が茂る地域や二次林のマツもみられたであろう」とされている(図85)。

すでに見たように、出土したブナ科の木製品は極少量で、杭としての利用にほぼ限定されるようであり、マツを用いた木製品も確認されていない。それに対し、分析では木製品の主な材であったヒノキ科の花粉が検出されておらず、その飛散距離を考えると違和感を覚える。筆者はかつて、掘立建物跡3に遺存したヒノキ科アスナロ属の柱根に溝が抉り込まれていることから、遠隔地からの柱材の輸送を想定したが、現状では柱材ばかりでなく、各種木製品製作のために、多量のヒノキ科樹木を遠隔地から吉田の地に運搬したと考えるを得ない。

7. おわりに

平成18年度の発掘調査から15年以上が経過し、遅きに失した感があるものの、本稿では古代の埋没谷に遺存した木製品を再報告し、樹種を中心に若干の考察を行った。現在は平成20年度調査で出土した木製品の再整理に着手しており、近い将来に報告を行う予定である。

谷に投棄されているの木製品の多くは、役割を終えた廃材であり、元来の用途も不明なものが多い。加工痕が残る以上、調査では遺物として回収すべきものであるが、その後の水漬け保管の労力や保存処理の経費を考えると、頭を悩ませる資料でもある。本稿が地方における官衙運営を考察する上で何らかの端緒となれば望外の喜びである。

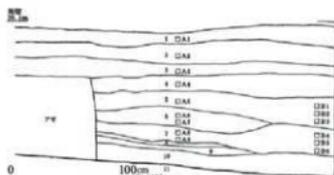


図84 花粉分析試料採取層準
(野井2004Fig.83を転載・一部修正)

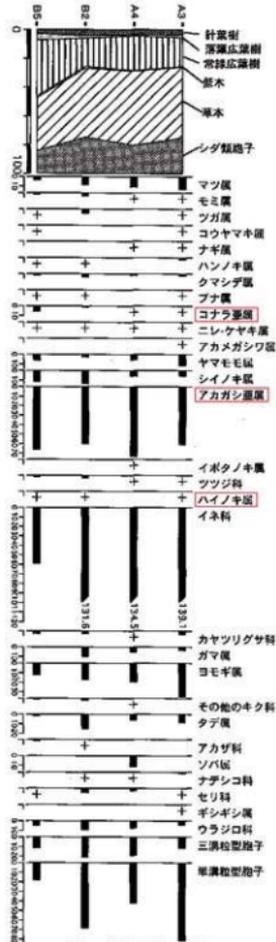


図85 花粉ダイアグラム
(野井2004Fig.84を転載・加筆)

【註】

- 1) 「法量」「備考」の記載において、遺物番号433は434、434は436、435は449、436は435、437は433、438は437、439は451、440は450、449は439、450は438、451は440の内容となっているほか、法量の数値にも複数の誤りが見られる。
- 2) 報告書では「松明片」として掲載されている。
- 3) 小田富士雄ほか(1978)の170頁第26図の18・19、171頁第27図の32、176頁第32図の23、177頁第33図の23、178頁第34図番号不詳1点、179頁第35図の24が該当する。
- 4) 調査担当者は「河川」と呼称している(田畑2004)。

【文献】

- 池田善文ほか(1993)『長登銅山路Ⅱ』美東町文化財調査報告書第5集、美東町教育委員会(編)、美祿(山口)
- 小田富士雄ほか(1978)「第三編 周防鋳銭司の考古学的調査 第4章 出土遺物の調査 第一節 第1次調査出土の遺物」、山口市教育委員会(編)『周防鋳銭司跡』山口
- 浦君子(2021)「奈良時代の燃えさしについて」、深澤芳樹・浦君子(編)『古代の灯火—先史時代にいたる灯明具に関する研究』基礎研究(C)15K0300、奈良
- 川島尚宗・横山成己(2021)「実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成28年度—』山口
- 田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』山口
- 田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XX』山口
- 西川正高・片山文雄(1977)『樹木 庭園樹・公園樹』、株式会社ワールドグリーン編集部(編)、高松(香川)
- 野井英明(2004)「山口大学構内吉田遺跡における官衙遺構立地前後の植生変化」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』山口
- 林亦栄(1969)『有用樹木図説(林木編)』、誠文堂新光社、東京
- 藤田慎一(2014)「付け木について」、砺波市教育委員会・株式会社上智(編)『大丹保遺跡発掘調査報告書』、砺波(富山)
- 藤田慎一(2019)「砺波市大丹保遺跡・増山遺跡出土の付け木について」、『学術財研究』編集事務局(編)『学術財研究』第1集、京都
- 横山成己・藤野好博(2010)「農学部附属家畜病院改修1期工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成18年度—』山口
- 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成20年度—』山口
- 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成26年度—』山口
- 横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成27年度—』山口
- 吉田生物研究所(2010)「付篇 山口県吉田遺跡出土木製品の樹種調査結果」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成18年度—』山口

付篇3

平成18年度吉田遺跡出土木製品の樹種同定

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は平成18年度に吉田遺跡から出土した木製品63点である。

2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果(写真172~192)

樹種同定結果(針葉樹5種、広葉樹7種)の顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。なお、写真の掲載順は付篇2の図掲載順に準ずる。

1) ヒノキ科アスナロ属(*Thuopsis* sp.)

26点(390~392, 394~399, 402, 404~406, 411~413, 421, 430, 433, 441, 445~450)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

2) ヒノキ科ヒノキ属(*Chamaecyparis* sp.)

12点(400, 417, 425~428, 436, 439, 442, 443, 451, 452)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

3) スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)

1点(444)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) イチイ科カヤ属カヤ(*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)

5点(389・393・401・403・407)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~4個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州(中・南部)、四国、九州に分布する。

5) マキ科マキ属イヌマキ (*Podocarpus macropylus* Sweet)

5点 (434, 435, 437, 438, 440)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別な軸方向に連続(ストランド)をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州(中・南部)、四国、九州、琉球に分布する。

6) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

2点 (415, 429)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管(~500 μ m)が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2~3個集まって火災状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり(ストランド)、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道(西南部)、本州、四国、九州に分布する。

7) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. *Prinus* Loudon syn. *Diversipilosa*, *Dentata*)

3点 (408, 419, 431)

環孔材である。木口では大道管(~380 μ m)が年輪界にそって1~3列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2~3個複合して火災状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

8) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

4点 (420, 422~424)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちの大きさの道管(~200 μ m)が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で櫛状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州(宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

9) バラ科サクラ属 (*Prunus* sp.)

1点 (409)

散孔材である。木口ではやや小さい道管(~100 μ m)がほぼ一定の大きさで、単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なり分布している。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上

下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～1mmからなる。サクラ属はサクラ、ヤマナシなどがあり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

10) ハイノキ科ハイノキ属 (*Symplocos* Jacq.)

1点(410)

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管(～60 μm)が平等に分布する。虫害によりできた傷害組織(ビスフレック)が見られる。柾目では道管は階段穿孔と側壁に螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔がある。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ～600 μmからなる。単列部と多列部との幅はほぼ同じですっきりとした形をしている。ハイノキ属はハイノキ、クロバイがあり、本州(千葉以西)、四国、九州、琉球に分布する。

11) キブシ科キブシ属キブシ (*Stachyurus praecox* Sieb. et Zucc.)

2点(414, 416)

散孔材である。木口では極めて小さい道管(～50 μm)が単独ないし2～4個複合して多数分布する。柾目では、道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～3細胞列で、高さ～2.5mmからなる。木繊維にはときに螺旋肥厚が見られる。キブシは北海道(中西部)、本州、四国、九州、琉球に分布する。

12) ツバキ科ヒサカキ属 (*Eurya* sp.)

1点(418)

散孔材である。木口では極めて小さい道管(～50 μm)が単独ないし2～4個複合して平等に分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は1～4細胞列で、高さ～5mmからなる。木繊維の壁には有縁壁孔が一系列に多数並んでいるのが全体で見られる。ヒサカキ属はヒサカキ、ハマヒサカキがあり、本州(岩手、秋田以南)、四国、九州、琉球に分布する。

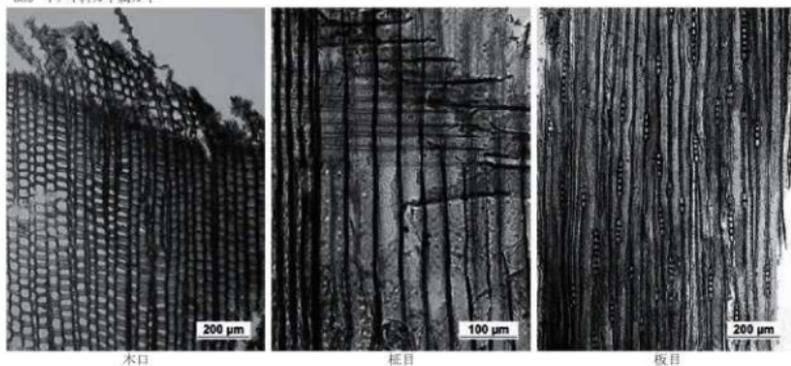
【参考文献】

- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所(1991)
 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所(1999)
 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)
 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社(1979)
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

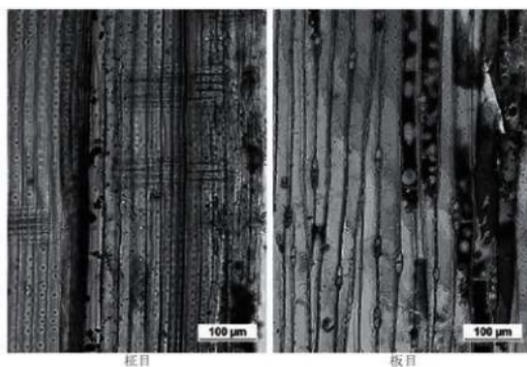
【使用顕微鏡】

Nikon DS-F11

389 イチイ科カヤ属カヤ



390 ヒノキ科アスナロ属



391 ヒノキ科アスナロ属

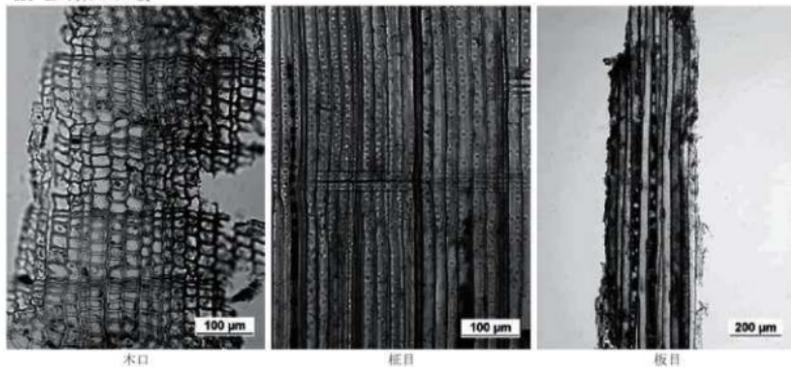
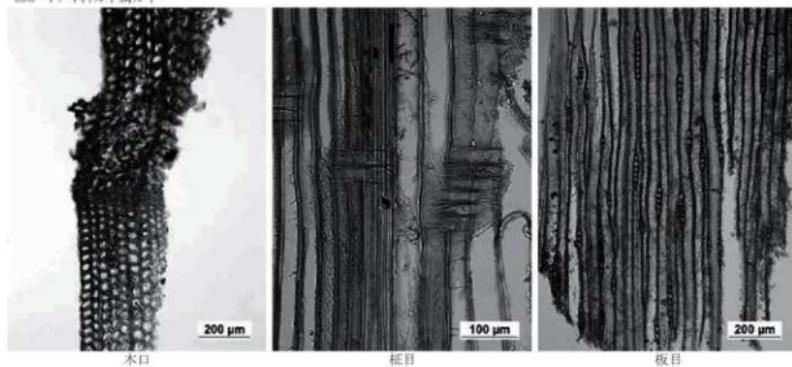
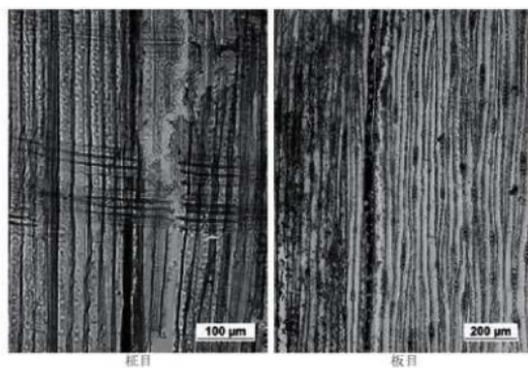


写真172 木製品顕微鏡写真①

393 イチイ科カヤ属カヤ



392 ヒノキ科アスナロ属



397 ヒノキ科アスナロ属

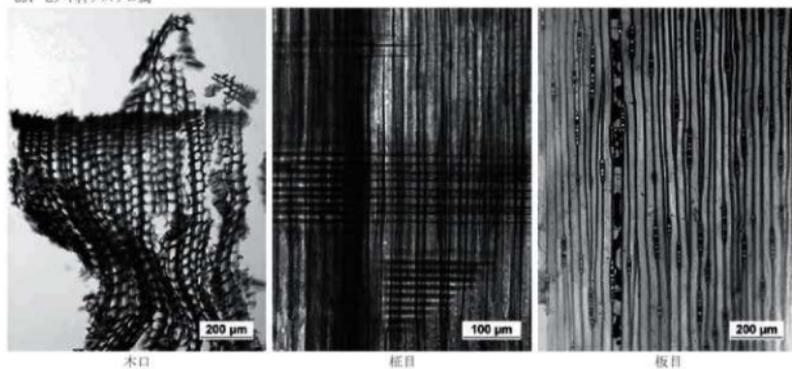


写真 173 木製品顕微鏡写真②

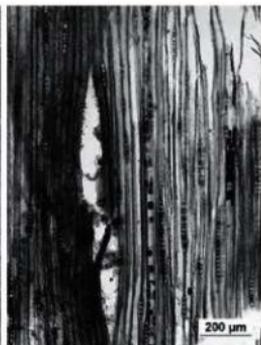
394 ヒノキ科アスナロ属



木口



柀目



板目

395 ヒノキ科アスナロ属



柀目



板目

396 ヒノキ科アスナロ属



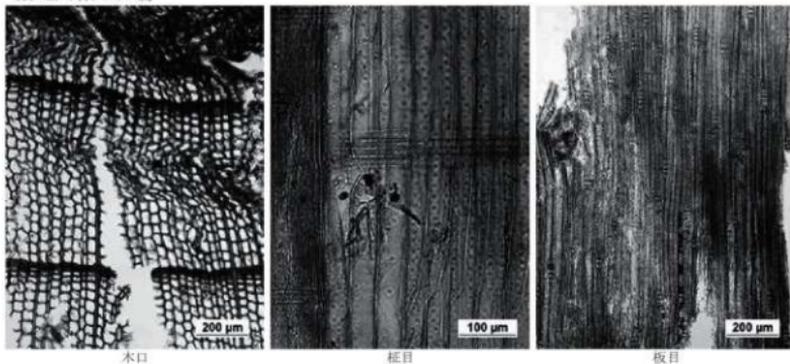
柀目



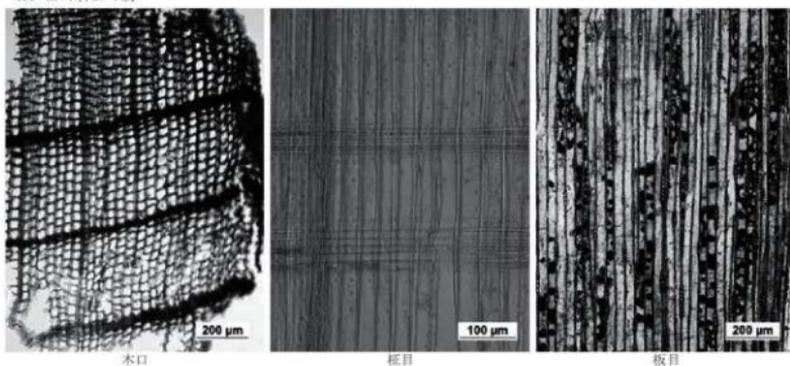
板目

写真 174 木製品顕微鏡写真③

399 ヒノキ科アスナロ属



400 ヒノキ科ヒノキ属



401 イチイ科カヤ属カヤ

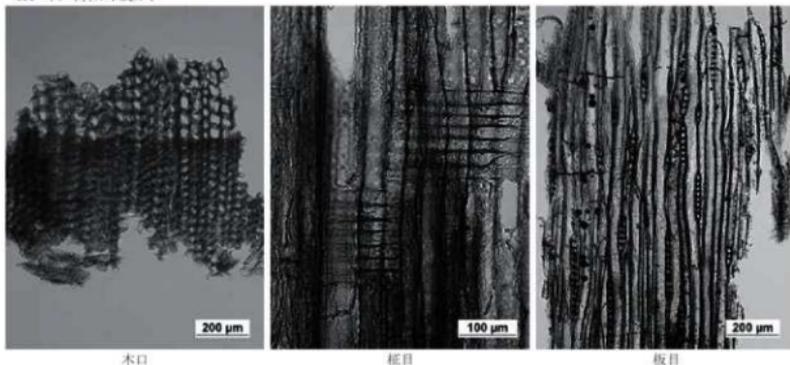
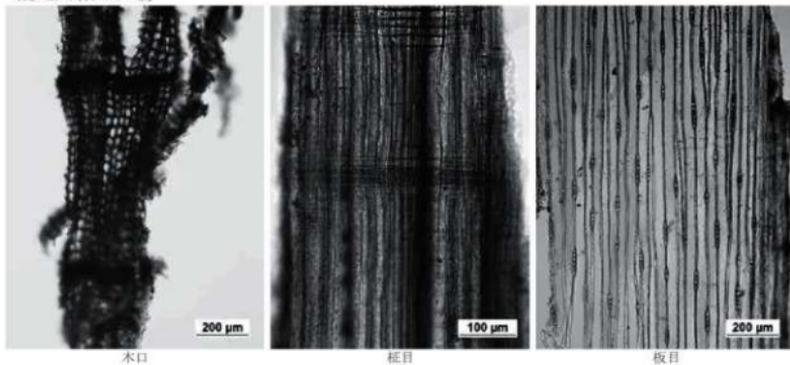
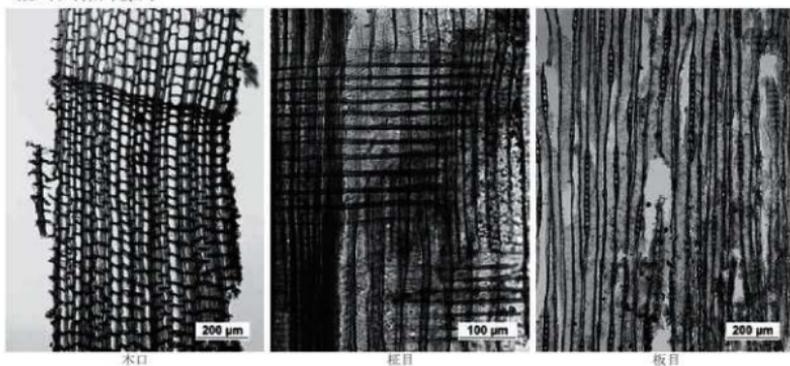


写真 175 木製品顕微鏡写真④

402 ヒノキ科アスナロ属



403 イチイ科カヤ属カヤ



404 ヒノキ科アスナロ属

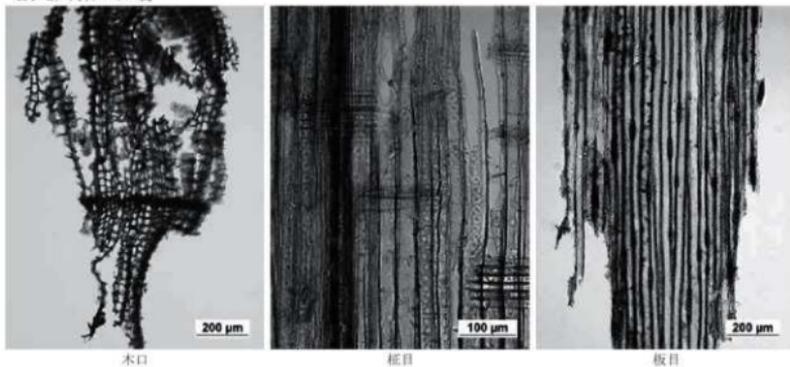
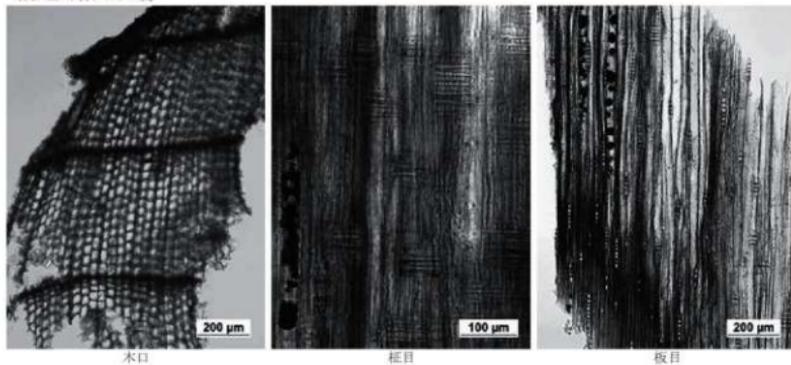
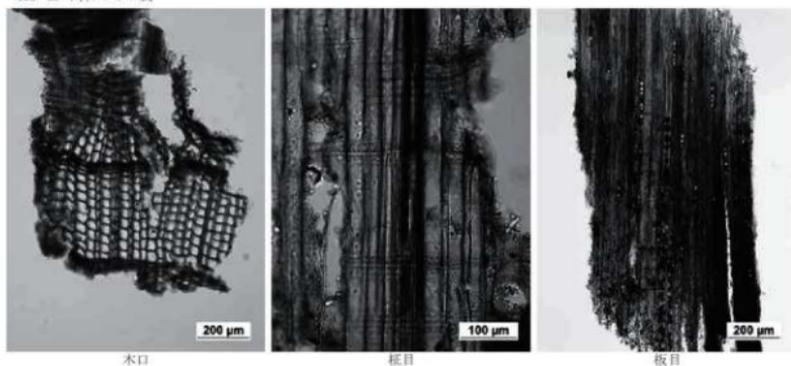


写真 176 木製品顕微鏡写真⑤

405 ヒノキ科アスナロ属



406 ヒノキ科アスナロ属



398 ヒノキ科アスナロ属

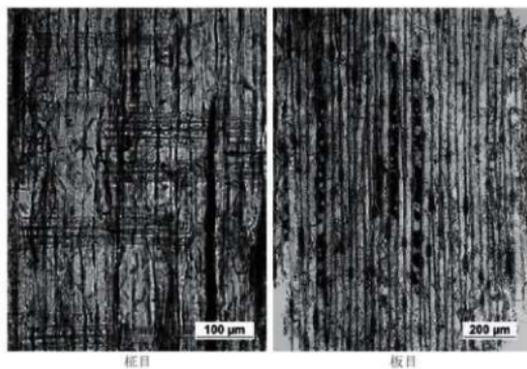
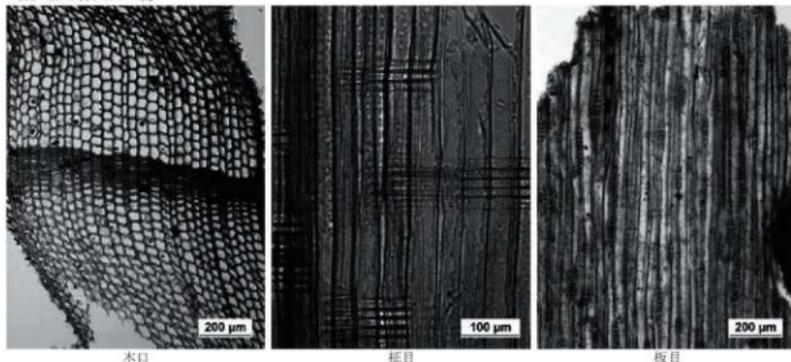
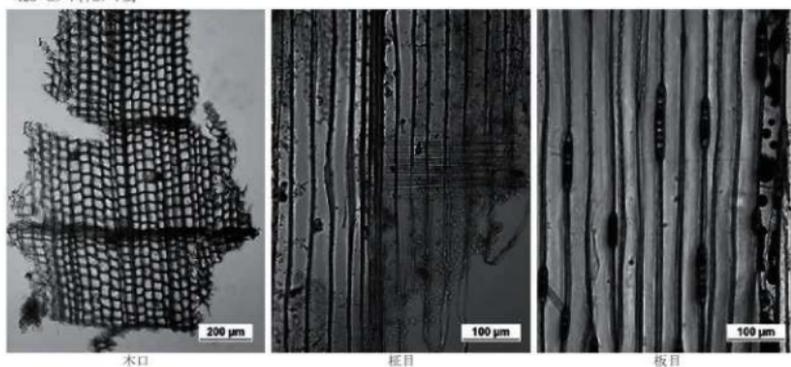


写真 177 木製品顕微鏡写真⑥

430 ヒノキ科アスナロ属



425 ヒノキ科ヒノキ属



426 ヒノキ科ヒノキ属

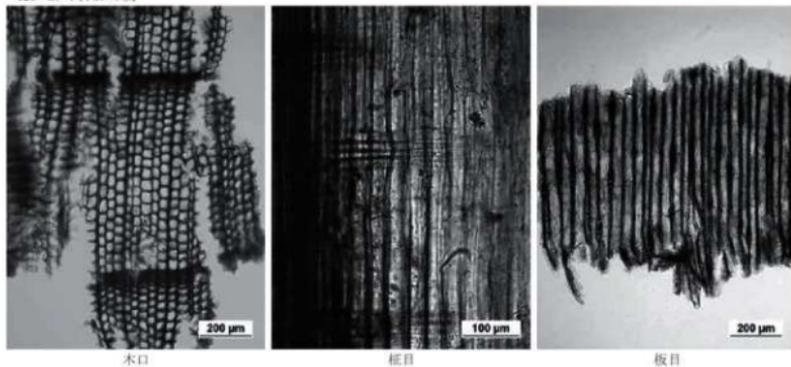
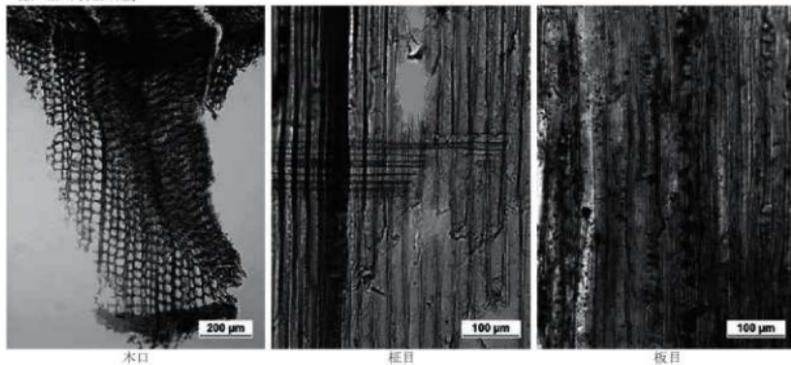
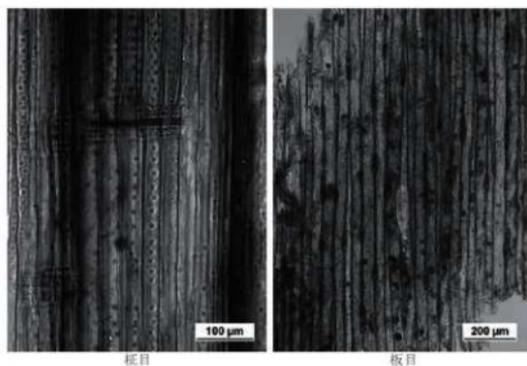


写真 178 木製品顕微鏡写真⑦

427 ヒノキ科ヒノキ属



428 ヒノキ科ヒノキ属



429 プナ科クリ属クリ

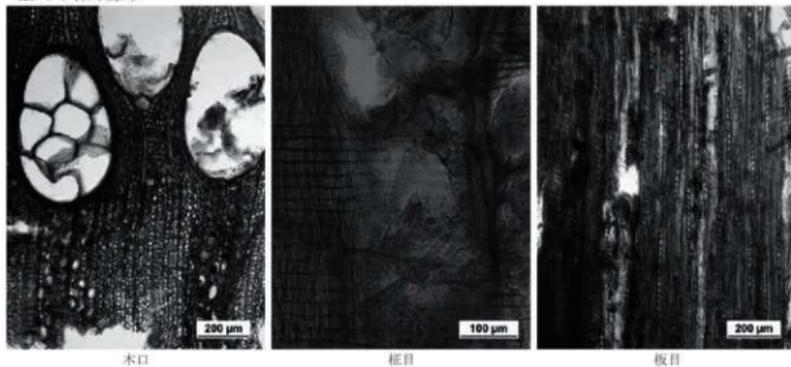
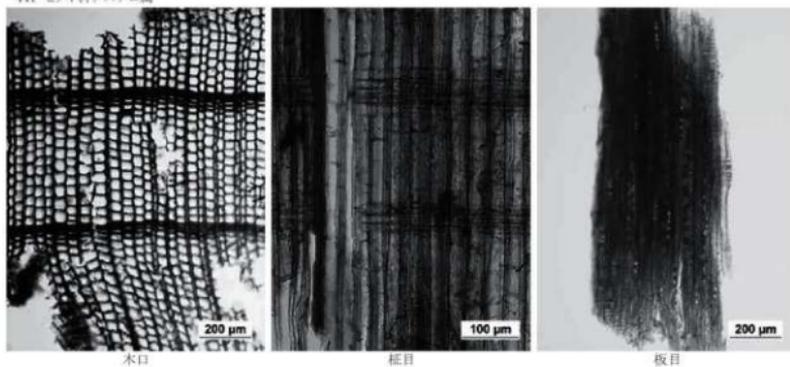
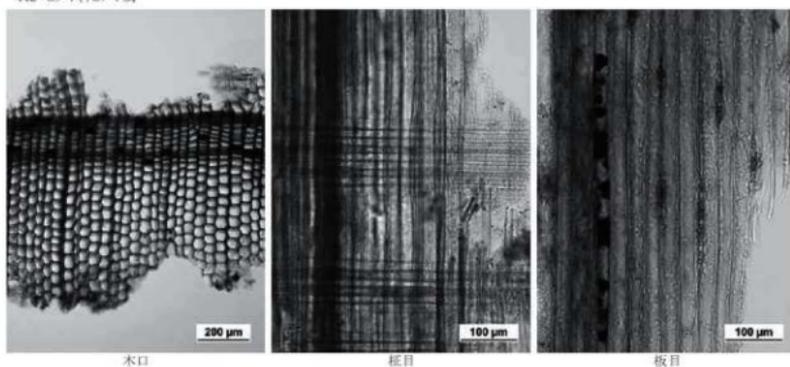


写真 179 木製品顕微鏡写真⑧

441 ヒノキ科アスナロ属



442 ヒノキ科ヒノキ属



443 ヒノキ科ヒノキ属

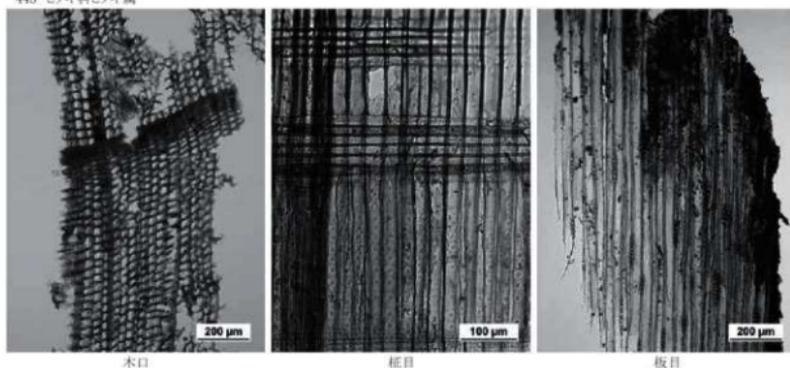


写真180 木製品顕微鏡写真③

444 スギ科スギ属スギ



木口



柀目



板目

445 ヒノキ科スナロ属

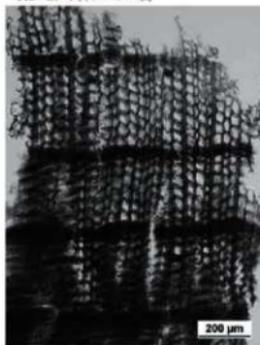


柀目



板目

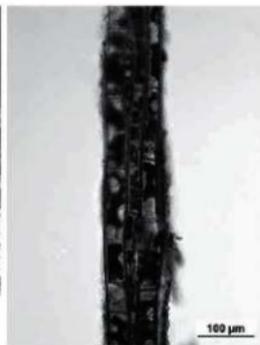
446 ヒノキ科スナロ属



木口



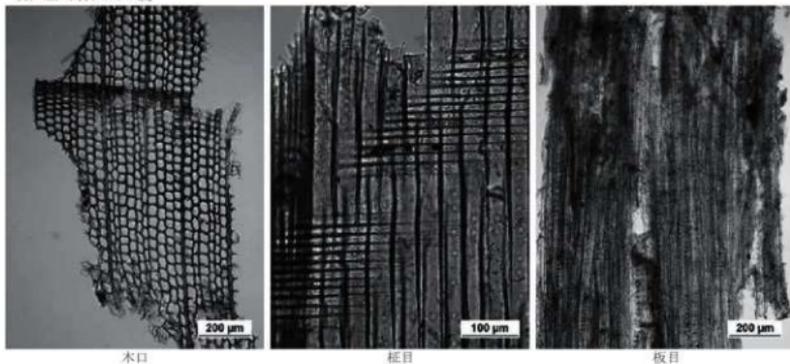
柀目



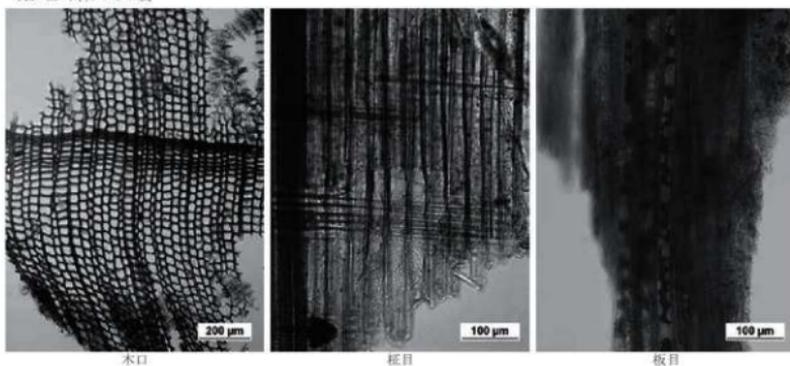
板目

写真 181 木製品顕微鏡写真⑩

447 ヒノキ科アスナロ属



448 ヒノキ科アスナロ属



450 ヒノキ科アスナロ属

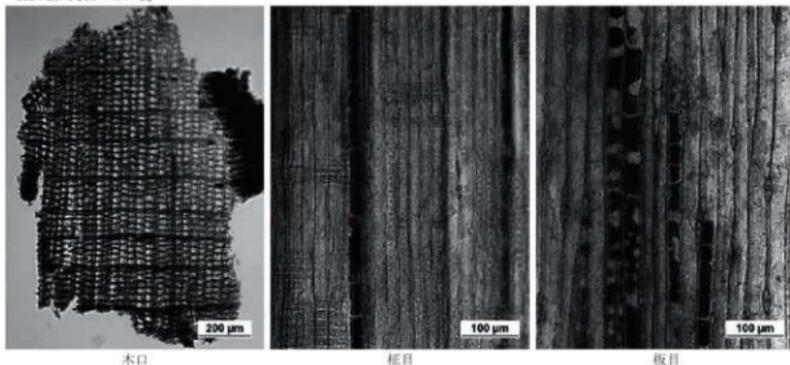
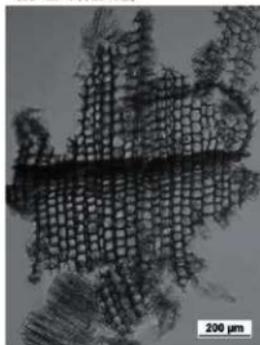


写真182 木製品顕微鏡写真①

451 ヒノキ科ヒノキ属



木口



柁目



板目

432 ヒノキ科ヒノキ属



柁目



板目

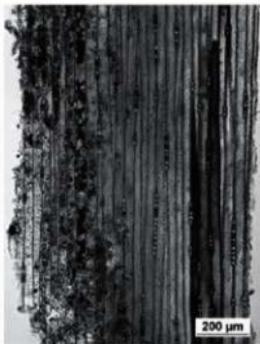
433 ヒノキ科スナロ属



木口



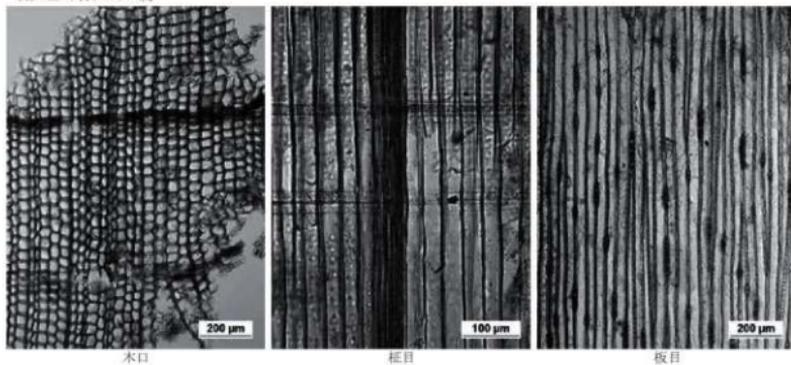
柁目



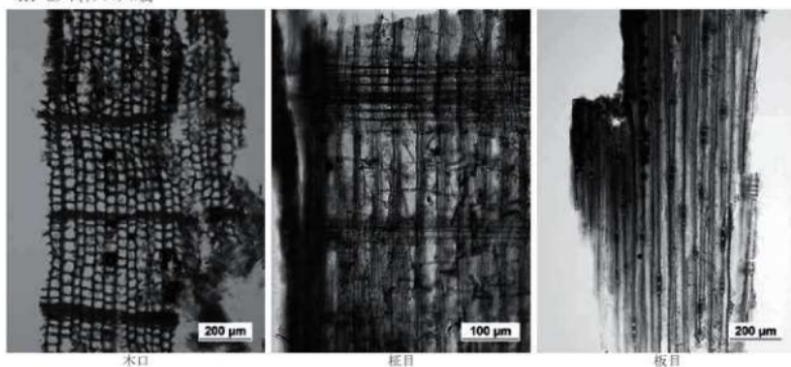
板目

写真 183 木製品顕微鏡写真②

449 ヒノキ科アスナロ属



411 ヒノキ科アスナロ属



412 ヒノキ科アスナロ属

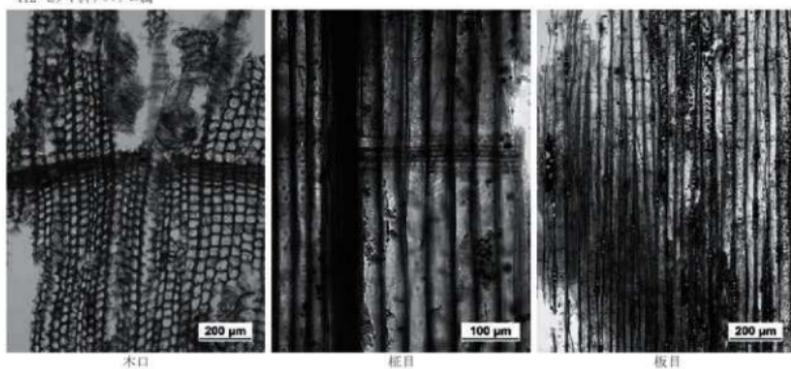
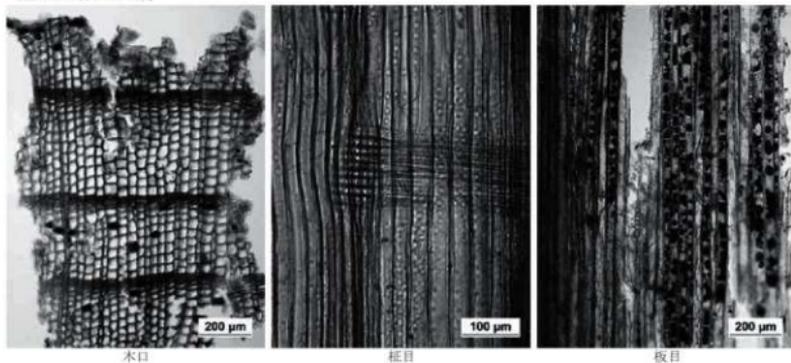
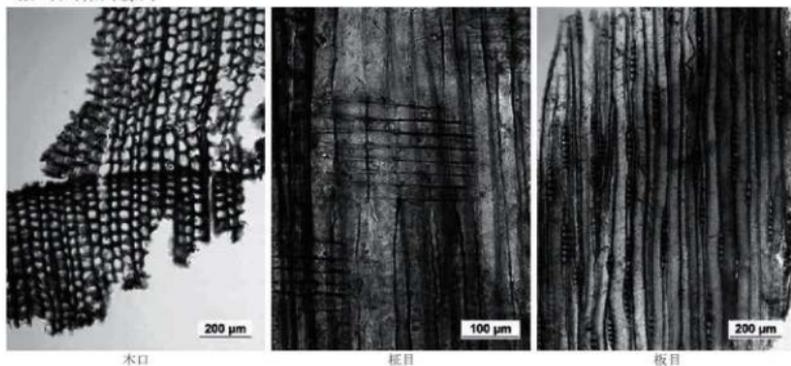


写真 184 木製品顕微鏡写真③

413 ヒノキ科アスナロ属



407 イチイ科カヤ属カヤ



408 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

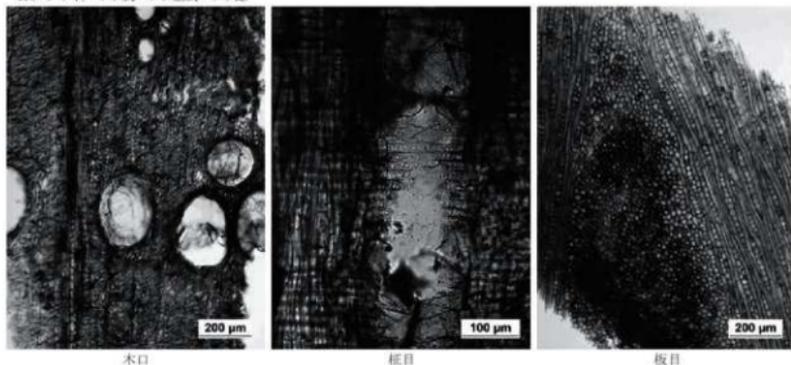
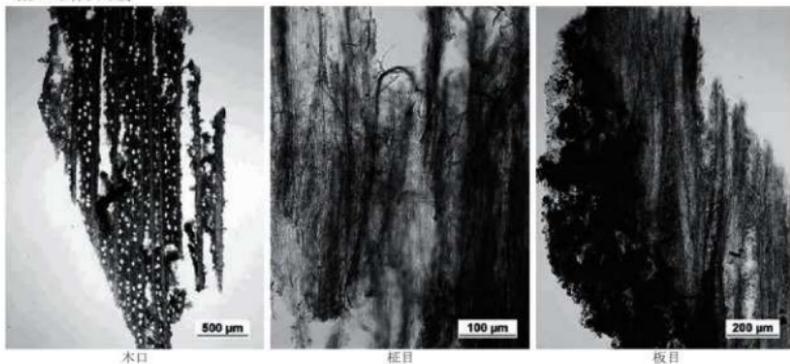
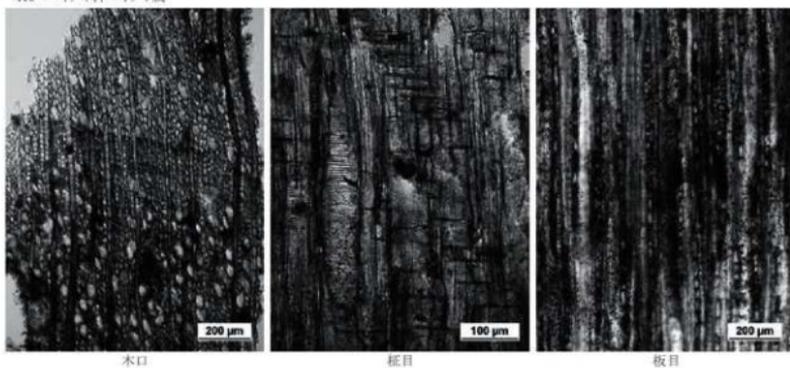


写真 185 木製品顕微鏡写真④

409 ハブ科サクラ属



410 ハイノキ科ハイノキ属

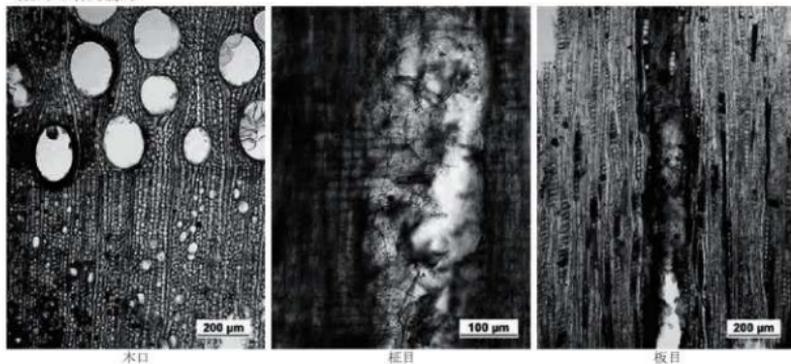


414 キブシ科キブシ属キブシ

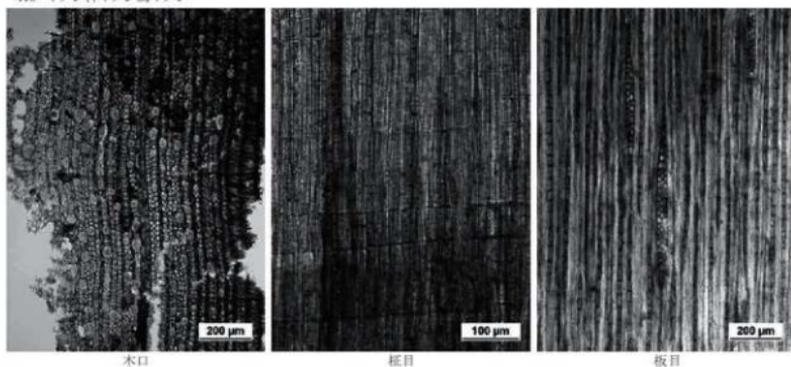


写真 186 木製品顕微鏡写真⑨

415 プナ科クワリ属クワリ



416 キブシ科キブシ属キブシ



418 ツバキ科ヒサカキ属

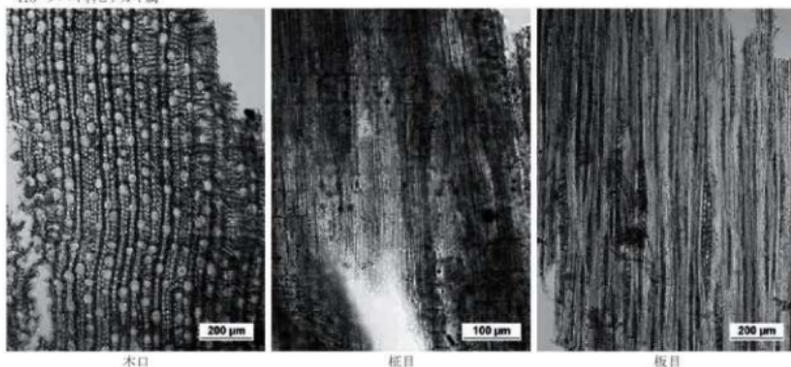
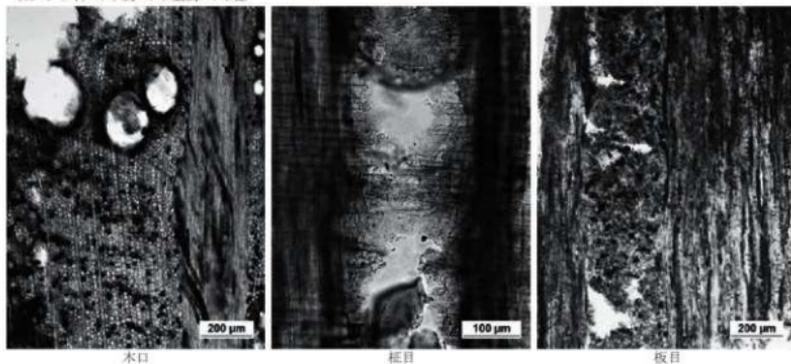
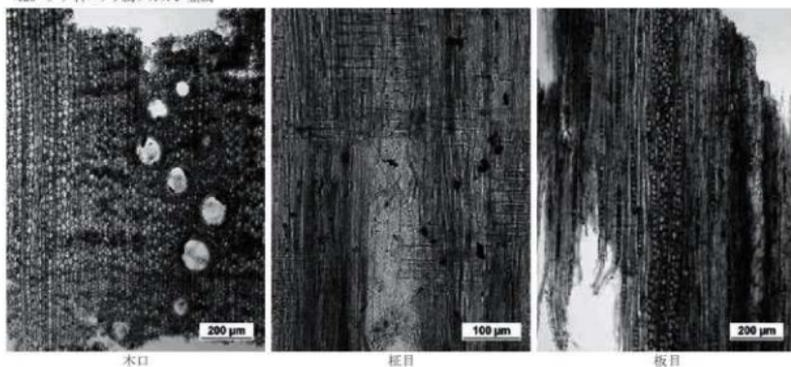


写真 187 木製品顕微鏡写真⑥

419 プナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



420 プナ科コナラ属アカガシ亜属

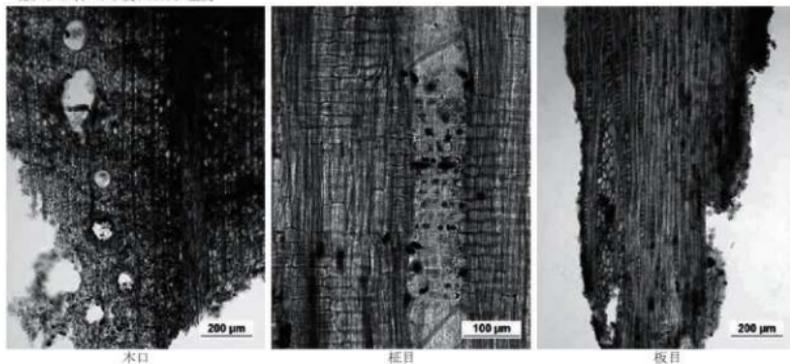


423 プナ科コナラ属アカガシ亜属

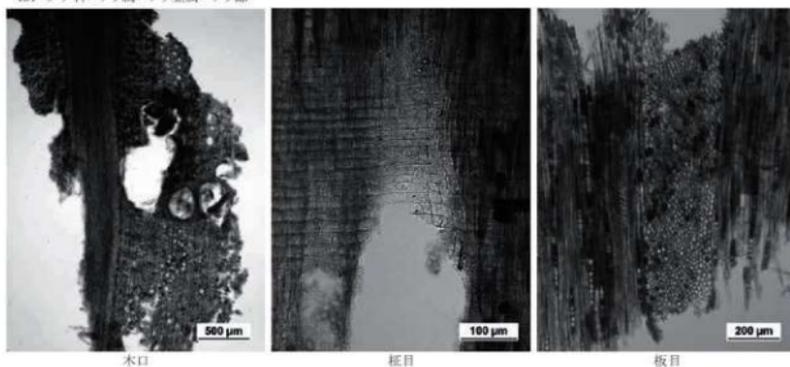


写真 188 木製品顕微鏡写真⑦

424 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



431 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



434 マキ科マキ属イヌマキ

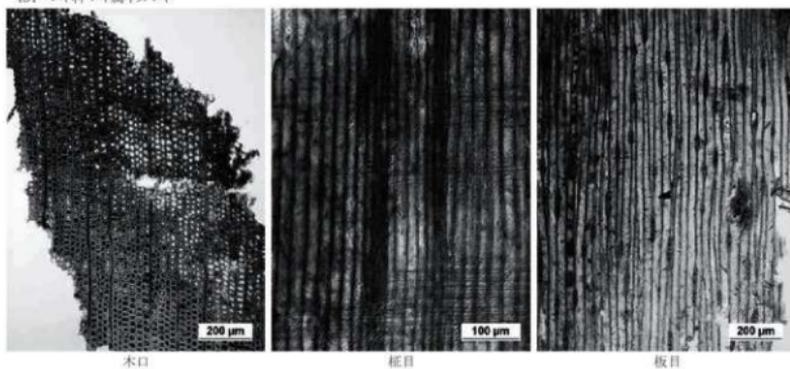
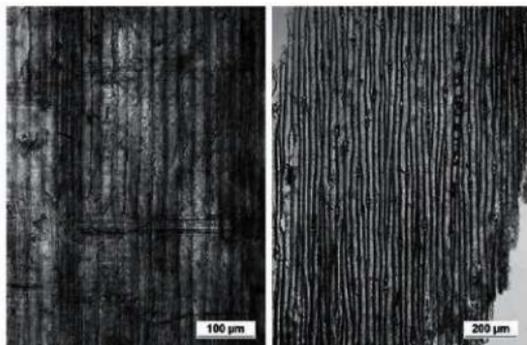


写真 189 木製品顕微鏡写真⑧

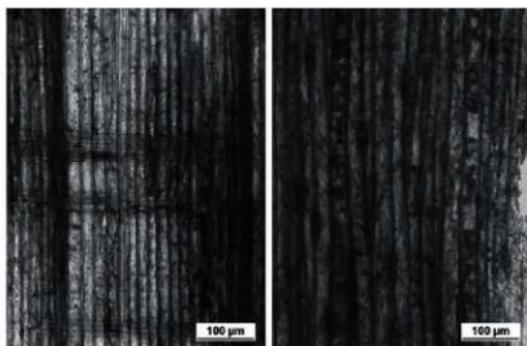
435 マキ科マキ属イヌマキ



柘目

板目

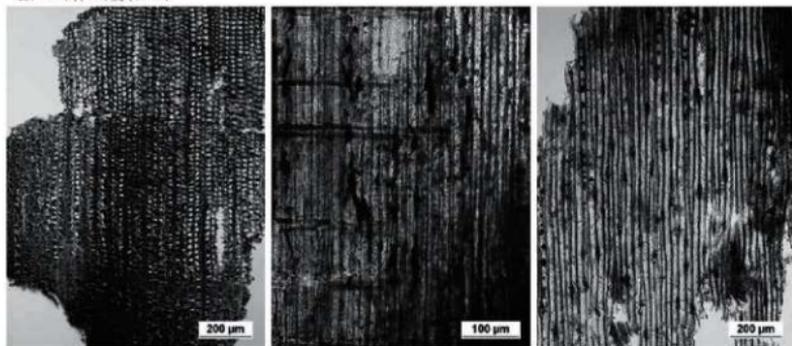
436 ヒノキ科ヒノキ属



柘目

板目

437 マキ科マキ属イヌマキ



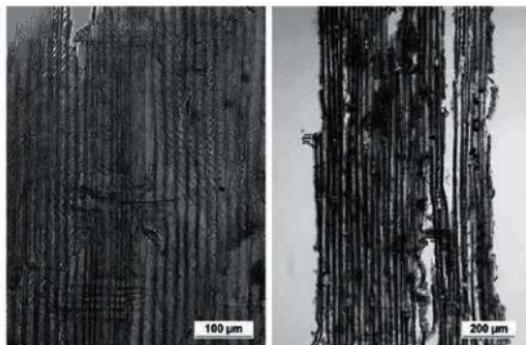
木口

柘目

板目

写真190 木製品顕微鏡写真⑨

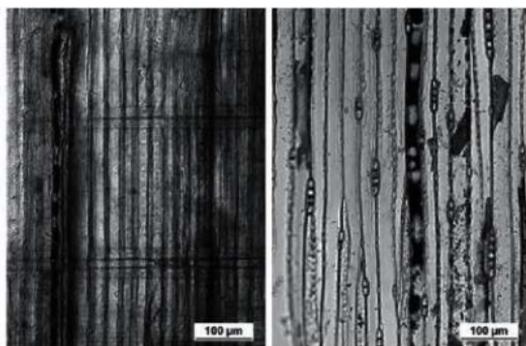
438 マキ科マキ属イヌマキ



柘目

板目

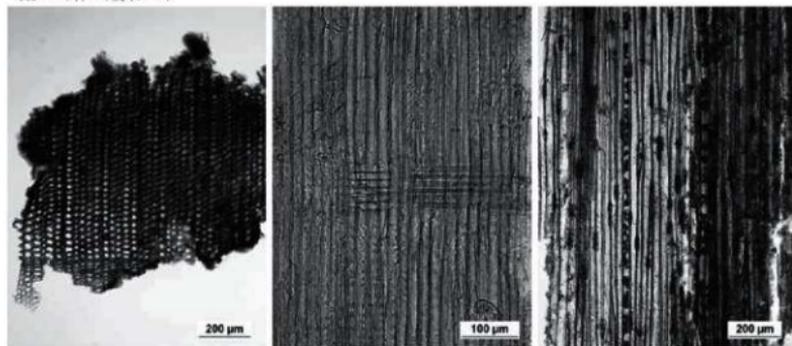
439 ヒノキ科ヒノキ属



柘目

板目

440 マキ科マキ属イヌマキ



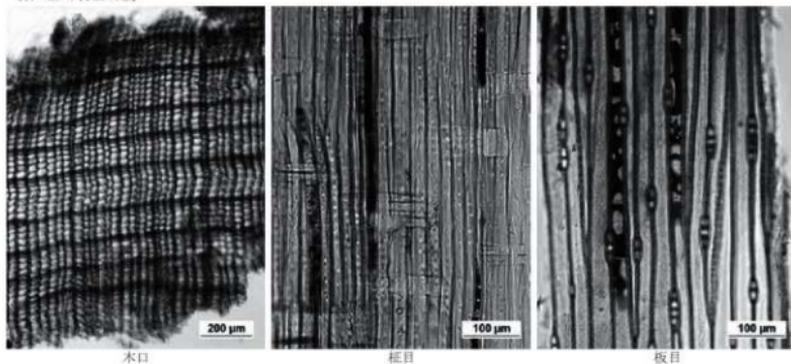
木口

柘目

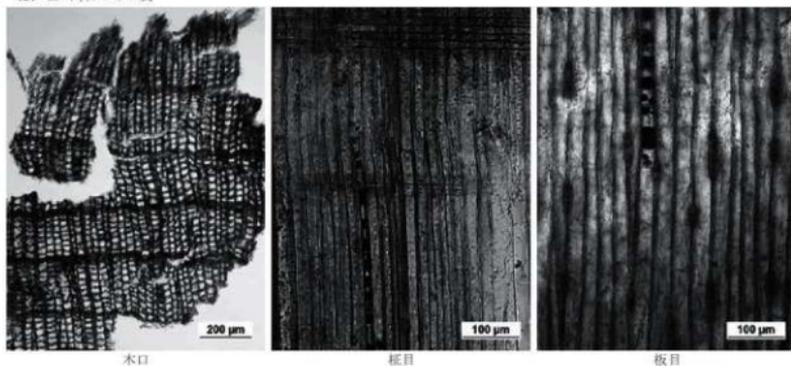
板目

写真191 木製品顕微鏡写真⑨

417 ヒノキ科ヒノキ属



421 ヒノキ科スナロ属



422 プナ科コナラ属アカガシ亜属

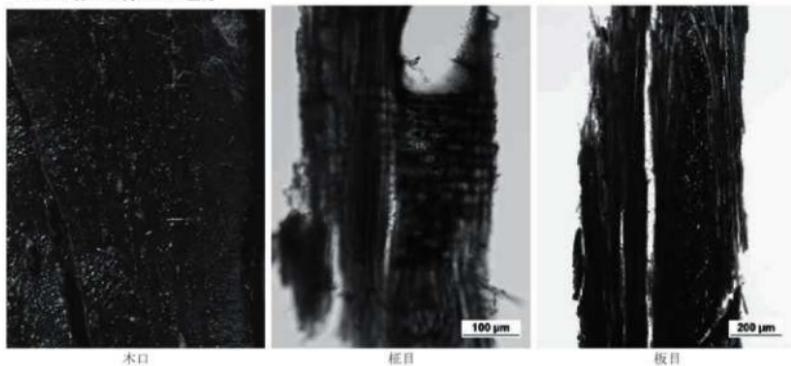


写真 192 木製品顕微鏡写真②

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいごうぶんかざいしりょうかんねんぼう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	—令和元年度—
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	17
編著者名	田畑直彦 横山成己 水久保祥子
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 ℡083-933-5035
発行年月日	西暦2023年(令和5年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 57秒	131度 27分 56秒	20191125- 20191219	75㎡	学生会館(仮称) 新営工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 09分 03秒	131度 28分 20秒	20200128- 20200304	42㎡	基幹・環境整備 (ため池改修)工事
白石遺跡	山口県山口市 白石三丁目1-1	35203		34度 10分 49秒	131度 28分 11秒	20190723- 20190809	60㎡	教育学部附属山口小学校 改修工事(EV・渡り廊下)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	集落	弥生	河川	弥生土器	
吉田遺跡	集落				
白石遺跡	集落		河川		

山口大学埋蔵文化財資料館年報
— 令和元年度 —

令和5年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 (有) 三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.17

CONTENTS

Chapter I	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities	1
Section 1	Exhibition activities in the 2019 fiscal year	2
Section 2	Social education activities in the 2019 fiscal year	5
Chapter II	The project on the Yamaguchi University campus in the 2019 fiscal year	
Section 1	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2019 fiscal year	9
Section 2	Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site"	13
Section 3	Excavation on the Siraishi campus "Siraishi site"	35
Appendix 1	The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2019 fiscal year	73
Appendix 2	List of researches in Yamaguchi University campus	76
Appendix 1	Collected relics at Oouchi Mihori, Yamaguchi City	102
Appendix 2	Wooden relics from buried ancient valley at Yosida site (I)	119
Appendix 3	Tree species identification of wooden relics from buried ancient valley at Yosida site in the 2006 fiscal year	139

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2023